

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 基礎演習 I |
| 科目責任者 | 和久田 佳代 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP3 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。 |
| 科目概要 | <p>社会福祉、教育・保育の専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。</p> <p>大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉、教育・保育への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 大学生としてのマナー・モラルを意識した行動をとることができる力を身につける。 3. 様々な文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 4. 与えられた課題に対して、様々な立場を尊重しながら、意見交換する力をつける。 5. 図書館等や各種の情報源を活用する手法を学ぶ。 6. レジュメ、レポートの書き方を修得する。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>和久田佳代、渡辺泰宏、村上武敏、井川淳史、二宮貴之、福重浩之 (全員で毎回担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> <主な担当者></p> <p>第 1 回：学びへの導入 スチューデントスキルとスタディースキルとは 和久田佳代 事前事後学修について Moodle による学修のフィードバック</p> <p>第 2 回：読み方のヒント 渡辺泰宏 読むことの重要性 三色ボールペン方式で読む</p> <p>第 3 回：文章の書き方 和久田佳代 説明文には型がある 小レポートを書いてみよう (アドバイザータイム)</p> <p>第 4 回：『質問する、問い返す』を読んで、意見交換 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝える</p> <p>第 5 回：『質問する、問い返す』を読んで、自分の意見をまとめる 意見交換により深まった考えを小レポートにまとめる</p> <p>第 6 回：図書館の使い方 大学図書館を活用しよう</p> <p>第 7 回：コンピュータを活用するー基本的な使い方ー 情報倫理を学ぼう コンピュータの基本的な操作を確認しよう</p> <p>第 8 回：社会構成員としてのマナー・モラル、キャンパスルール 井川淳史 ボランティアのすすめ (アドバイザータイム)</p> <p>第 9 回：レジュメの作り方 要旨をアウトプットする 二宮貴之 体験談から大学生活について学ぶ (1)</p> <p>第 10 回：資料整理の仕方 授業資料・ノートを整理して活用しよう 村上武敏 体験談から大学生活について学ぶ (2)</p> <p>第 11 回：レポートの書き方 (1) レポート作成スケジュール 和久田佳代 レポートの中に文献を登場させる方法</p> <p>第 12 回：レジュメに基づき、発表する (『ロボットが家にやってきましたら…』) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝える</p> <p>第 13 回：定期試験・レポート課題等に対する心得 和久田佳代 学修時間・学修行動を振り返る (アドバイザータイム)</p> <p>第 14 回：レジュメに基づき、意見交換 (『ロボットが家にやってきましたら…』) 意見交換により深まった考えをレポートにまとめる</p> <p>第 15 回：学びの確認 まとめ レポート提出前にチェックリストにそって最終確認する</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| | <p><受講者へのメッセージ>演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。</p> <p>基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。</p> |
| アクティブ ラーニング | <p>少人数グループにおいて意見交換、意見発表を行う。</p> <p>毎時間後、Moodleによるフィードバックを行う。</p> |
| 評価方法 | <p>発表・発言等の平常点 50%・レポート 50%</p> <p>・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。</p> |
| 課題に対する フィード バック | <p>提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。</p> |
| 指定図書 | <p>名古屋隆彦『質問する、問い返す 主体的に学ぶということ』岩波書店</p> <p>遠藤薫『ロボットが家にやってきたら…人間とAIの未来』岩波書店</p> |
| 参考図書 | <p>授業にて紹介する</p> |
| 事前・ 事後学修 | <p>主体的に学ぶ方法を身につけるために、様々な課題がある。</p> <p>毎回、Moodle を使ってフィードバックを行う。(目安時間 40 分)</p> |
| オフィス アワー | <p>和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示する。</p> <p>渡辺泰宏 社会福祉学部 2708</p> <p>村上武敏 社会福祉学部 2613</p> <p>井川淳史 社会福祉学部 1608</p> <p>二宮貴之 社会福祉学部 2602</p> <p>福重浩之 社会福祉学部 2607</p> |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 基礎演習Ⅱ |
| 科目責任者 | 渡辺 泰宏 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 必修 2セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP3 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。 |
| 科目概要 | 大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 様々な文献や文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 3. 各自が関心のあるテーマを選択し、文献等で調べるなどして理解を深め、グループで討論しながら、レポート、小論文、論文の書き方を修得する。 4. 様々な立場を尊重しながら、発表し、意見交換する力をつける。 5. キャリアデザインに関するイメージを修得し、社会福祉専門職を目指す大学生として内発的・主体的に学修に取り組むためのモチベーションを高める。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>渡辺泰宏、村上武敏、井川淳史、和久田佳代、二宮貴之 福重浩之 (全員で毎回担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 図書館利用・文献検索について 第2回：レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(1) 第3回：レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(2) 第4回：福祉の日記念講演に参加し、社会福祉への関心を深める 第5回：参考文献リストの作り方・研究倫理について (アドバイザータイム) 第6回：本学図書館を利用する 参考文献リストを作成する 第7回：体験談 キャリアデザイン 第8回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(1) 第9回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(2) 第10回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学ぶ 第11回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学ぶ 第12回：選択したテーマについて発表し、討論する(1) 第13回：選択したテーマについて発表し、討論する(2) 第14回：国家試験について・定期試験に向けて (アドバイザータイム) 第15回：レポートのまとめ (提出前の最終チェック)</p> <p><受講者へのメッセージ>演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。</p> <p>基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | あるテーマについて、文献等で調べるなどして理解を深め、さらには発表し、これについて意見交換やグループ討論を行う。 |
| 評価方法 | 発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートに関しては、ルーブリックを用いる。 |
| 課題に対する フィード バック | 提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。 |
| 指定図書 | なし。参考書については、授業中に紹介する。 |
| 参考図書 | 各教員より、適宜連絡する。 |
| 事前・ 事後学修 | 大学図書館、地域図書館を積極的に活用することを含め、授業での課題や各自のテーマについて、文献を探し、読み、考えをまとめることを毎回ごとについて行う。(目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 渡辺泰宏 社会福祉学部 2708 村上武敏 社会福祉学部 2613 井川淳史 社会福祉学部 1682 和久田佳代 社会福祉学部 2709 二宮貴之 社会福祉学部 2602 福重浩之 社会福祉学部 時間については初回授業時に提示する |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | グループ討議や共同作業を織り込んだプログラムを展開する。 |
| 評価方法 | 授業態度 20%、課題レポート・提出物等 80% |
| 課題に対する フィード バック | ほぼ毎回、積極的にリアクションペーパー等へコメントする。 |
| 指定図書 | 特になし |
| 参考図書 | 特になし |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：次回の授業テーマをその都度、出しますので、そのテーマについて調べてください。 事後学修：授業内容について復習をするとともに、授業の理解度を自己評価してください。 目安時間 40 分。 |
| オフィス アワー | 科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 英語Ⅲ |
| 科目責任者 | パターソン・ドナルド |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 3セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP7 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、ヘルスケア分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスケアの専門用語、ケアに関する語彙を英語で 150 語以上覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。 4. 簡単なケアの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> パターソン・ドナルド、他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回: Introduction to the course 履修説明、Body Parts 身体の部位 第 2 回: Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする 第 3 回: Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する 第 4 回: Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状をアセスメントする 第 5 回: Taking Vital Signs バイタルサインを確認する 第 6 回: 発表会 第 7 回: まとめ、中間テスト 第 8 回: Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする 第 9 回: Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスをする 第 10 回: Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助する 第 11 回: Maintaining a Good Diet 栄養と食餌についてアドバイスする 第 12 回: Coping with Emergencies 緊急時に対処する 第 13 回: グループ発表会 第 14 回: グループ発表会 第 15 回: まとめ</p> |
| アクティブラーニング | グループ学修、ロールプレイング、 Google Classroom の活用、 |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 | クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト20%、中間テスト20%、発表25%、最終テスト25% |
| 課題に対するフィードバック | 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント、ピア評価（プレゼンテーション） |
| 指定図書 | 『Caring for People』M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder（作者）（Cengage センゲージ） |
| 参考図書 | なし |
| 事前・事後学修 | Google Classroom による課題、レポート。学修時間の目安：事前学修30分～1時間、事後学修30分～1時間程度。 |
| オフィスアワー | パターソン・ドナルド：金曜日 13:00-15:00、研究室：5704号室 |
| 実務経験に関する記述 | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | キリスト教教育 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 1単位 (15時間) 選択 こども 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP1 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。 |
| 科目概要 | キリスト教・聖書の世界観・価値観に基づく教育について学ぶ。教育に何を願い、何のために働くのか。教師に与えられた課題や、求められる資質とは何か。どのような姿勢で学校教育の働きに携わっていくべきかなどについて理解を深める。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教教育における世界観・児童観について理解を深める。 2. 聖書・キリスト教的価値観と現代の教育への影響について理解する。 3. 教師に与えられた使命・課題・資質について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：聖書の世界観・人間観について</p> <p>第2回：キリスト教教育の働きと・教師の役割・ミッション</p> <p>第3回：キリスト教教育の独自性</p> <p>第4回：キリスト教教育の実践（事例）</p> <p>第5回：キリスト教教育の歴史と社会的影響</p> <p>第6回：現代における教育の課題</p> <p>第7回：教師としての成長（求められる資質）</p> <p>第8回：まとめ（レポート課題）</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 提示された教材（講義・DVD・資料・実演）もとにグループディスカッションや発表等、 共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | 授業参加態度（リアクションペーパーや各課題を含む）：50% レポート課題：50% レポート課題はルーブリックを用いて評価を行うー内容・基準は授業内で説明する。 |
| 課題に対す るフィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを 行う。 |
| 指定図書 | プリントを配布する。 |
| 参考図書 | 「教師をめざす君たちへ」キリスト教学校教育同盟 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリン トを配布する。（学修の目安時間は40分） |
| オフィス アワー | 初回事業に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえ て教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | キリスト教保育 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 こども 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP1 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。 |
| 科目概要 | 聖書に描き出されている世界観・こども観や、保育や育児の捉え方について学ぶ。聖書の言葉に生きた人々の実践からキリスト教保育に携わる者の在り方について考察する。さらに今日の日本におけるキリスト教教育・保育について、実践から検討する。キリスト教保育が一般の保育、現代社会の課題に対して持つ意義について理解する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教保育における世界観・子ども観について理解を深める。 2. 聖書・キリスト教的価値観と現代の保育への影響について理解する。 3. キリスト教保育の実践・保育者のあり方について理解する。 4. 提示された材料(資料・DVD・懇談)と向き合い、思考を活性化させる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： 聖書の世界観・子ども(人間)観について</p> <p>第2回： マザー・テレサの言葉と人間観・子ども観</p> <p>第3回： マザー・テレサの働きから見る「使命感」とは</p> <p>第4回： 聖書の言葉に生きた人物たち</p> <p>第5回： 「愛する」ということについて -ナルニア国物語より</p> <p>第6回： 「愛する」ということについて -C.S. ルイスから</p> <p>第7回： 人が育ち・いきいきと生きるために必要なこと(聖書は何と言っているか)</p> <p>第8回： 人が育ち・いきいきと生きるために必要なこと(存在・主体性・回復)</p> <p>第9回： キリスト教保育の実践—物語り</p> <p>第10回： キリスト教保育の実践—ページェント・こども賛美歌(クリストファーこども園児)</p> <p>第11回： キリスト教保育の実践—祈り</p> <p>第12回： キリスト教保育における保育・保育者(キリスト教保育指針が示す内容)</p> <p>第13回： キリスト教保育における保育の独自性</p> <p>第14回： キリスト教保育と現代社会の課題</p> <p>第15回： まとめ(レポート課題)</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 提示された教材（講義・DVD・資料・実演）もとにグループディスカッションや発表等、 共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | 授業参加態度（リアクションペーパーや各課題を含む）：50% レポート課題：50% レポート課題はルーブリックを用いて評価を行うー内容・基準は授業内で説明する。 |
| 課題に対す るフィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを 行う。 |
| 指定図書 | プリントを配布する。 |
| 参考図書 | 新キリスト教保育指針（キリスト教保育連盟） |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリン トを配布する。（学修の目安時間は40分） |
| オフィス アワー | 初回事業に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園（キリスト教主義）」の実務経験を有する講師が実務の観点 を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | キリスト教社会福祉 |
| 科目責任者 | 坂本 道子 |
| 単位数他 | 1 単位(15 時間) 選択 4 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP 1 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。 |
| 科目概要 | 本講義では、これまでの社会福祉の学びを振り返りつつ、日本の社会福祉形成に重要な役割を果たしたキリスト教社会福祉実践者、あるいは強い使命感を持って実践した人々の生き様を学ぶ。これを通して、人間の「多様性」を受容・共感する態度を具体的に習得し、人や社会に協調できる共生の価値観を涵養する。受講者数によっては演習形式で進めることもある。 |
| 到達目標 | 1. 今まで学修を通して理解した、人間の「多様性」を踏まえ、共生の価値観をもつ。 2. その価値観を土台にして、受容的・共感的態度をもって、人や社会と協調できる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：はじめに—キリスト教社会福祉における人物史研究の視点</p> <p style="text-align: center;">井深八重の生涯と社会福祉活動 坂本</p> <p>第2回：石井十次の生涯と慈善・救済事業 坂本</p> <p>第3回：石井亮一と筆子の生涯と慈善・救済事業 坂本</p> <p>第4回：賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動① 坂本</p> <p>第5回：賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動② 坂本</p> <p>第6回：田内千鶴子の生涯と福祉活動 坂本</p> <p>第7回：糸賀一雄の生涯と福祉活動 坂本</p> <p>第8回：留岡幸助の生涯と慈善・感化事業, 坂本</p> <p style="text-align: center;">まとめ——対人援助の根底思想としての「ディアコニア」</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 事前に人物についての要約、自己学習を課する。授業後は学びを振り返り言語化する。これらの繰り返しにより、主体的な学びの方法を身につけ、知識の定着を図る。 |
| 評価方法 | 授業態度 20%、毎回授業時提出小レポート 30%、期末試験レポート 50% (評価基準はルーブリックで示す) |
| 課題に対する フィード バック | 授業中に行う |
| 指定図書 | 室田保夫 2006 『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』 ミネルヴァ書房 |
| 参考図書 | 室田保夫 2013 『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』 ミネルヴァ書房 一番ヶ瀬康子監修 『シリーズ 福祉に生きる』 1～63 巻 大空社 阿部志郎・岡本榮一監修・日本キリスト教社会福祉学会編 2014 『日本キリスト教社会福祉の歴史』 ミネルヴァ書房 取り上げた人物の参考図書は授業中に提示する |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修において、テキストを少なくとも1度は読み、それぞれの人物の「生い立ち」や「行ったこと」について理解しておくこと。事後学修では、知識を定着させるために、さらにテキストを熟読すること (目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 社会福祉学概論 I |
| 科目責任者 | 佐藤 順子 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 必修 1セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | <p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習および介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である障害者総合援制度について介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士）に求められる基本的な知識・理論の体系的理解の端緒として、現代社会における社会福祉の課題・役割、社会福祉の基盤となる価値・理念・原理、社会福祉の概要、社会福祉の歴史などについて、できるだけ学生自身の生活や関心に結び付けて学ぶ。</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点が身に付き、生活と社会の関係性を捉えることができる 2. 現代社会の特徴と社会福祉の意義、役割が理解できる 3. 社会福祉の発展過程について理解できる 4. 社会福祉、社会保障に関する法、制度、実施体制の概要が理解できる |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐藤 順子</p> <p>第1回：ガイダンス、グループワーク「社会福祉とは？」</p> <p>第2回：社会と生活のしくみ、社会福祉を理解するための基本的枠組み</p> <p>第3回：現代社会における社会福祉の課題～最近のニュースから～①</p> <p>第4回：現代社会における社会福祉の課題～最近のニュースから～②</p> <p>第5回：社会福祉をとりまく状況</p> <p>少子高齢社会、現代家族の動向、地域社会の変化、雇用形態の多様化</p> <p>第6回：社会福祉の基盤となる考え方 社会福祉援助者に共通する価値・理念・原理</p> <p>第7回：社会福祉の歴史 欧米の歴史</p> <p>第8回：社会福祉の歴史 日本の歴史① 古代～近代</p> <p>第9回：社会福祉の歴史 日本の歴史② 現代の福祉政策・制度の動向</p> <p>第10回：社会福祉の法と諸制度</p> <p>社会福祉関係法制、社会保障制度、社会福祉の実施主体（行政、施設）、専門職</p> <p>第11回：低所得者の福祉 貧困問題とその対策の歴史、公的扶助、生活保護</p> <p>第12回：高齢者の福祉 高齢者福祉を取り巻く状況と老後・老人問題、介護を支える諸制度</p> <p>第13回：障害者の福祉</p> <p>「障害者」の概念、共生社会実現と障害者支援のための諸制度、支援のあり方</p> <p>第14回：子ども家庭支援と福祉</p> <p>子ども・家庭を取り巻く状況と福祉政策の現状、子ども・家庭支援の制度・サービス</p> <p>第15回：その他 日本と諸外国における社会福祉の政策動向</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 発問に対する隣同志の意見交換、グループ討議、事前課題への取り組みに基づく授業などを取り入れる |
| 評価方法 | 授業態度10%、課題への取り組み20%、定期試験70% |
| 課題に対する フィード バック | 毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 |
| 指定図書 | 『社会福祉概論 I 現代社会と福祉』全社協（「社会福祉学習双書」編集委員会編）全国社会福祉協議会 |
| 参考図書 | 岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著『社会福祉入門』有斐閣アルマ 古川孝順著『福祉ってなんだ』岩波ジュニア新書 菊池正治・清水教恵・田中和男・永岡正己・室田保夫編著『日本社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくほか、講義予定表に提示した課題に取り組む 新聞をよく読み、福祉に関連する記事を集めておく 事後学修：授業後は、学びをまとめ期日までにMoodleに入力する (事前・事後学修 40分) |
| オフィス アワー | 科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点から踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | ソーシャルワーク総論Ⅰ |
| 科目責任者 | 坂本 道子 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 必修 1 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 対人援助専門職への学習の入門編として、視聴覚教材を用いながら、感性を養い、「自己理解・他者理解」「生活とは」「生活問題」などについて、専門職としての多元的複眼的なものの見方を修得する。そのうえで、福祉専門職の歴史の変遷、基本的な価値や知識、技術を取得し、現代社会における福祉専門職の役割と意義について理解することを目的とする。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対人援助専門職の役割と意義、および福祉専門職（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、保育士など）の役割と意義を説明できる 2. 対人援助専門職の基本姿勢について説明できる。 3. 感性と表現力・分析力を磨き、感じたこと、理解したこと、考えたことを言語化できる。 |
| 授業計画 | <p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回：オリエンテーション―「援助」「生活」ということ、「論」「演習」「実習」との関係</p> <p>第2回：社会福祉における「生活」のとらえ方</p> <p>第3回：当たり前すぎる「生活」―生活をとらえる視点</p> <p>第4回：「生活」を客観的に見る視点―生活問題のとらえ方</p> <p>第5回：「生活」の中で対人援助技術を磨く―自立支援の考え方、相談援助の技法、言語化</p> <p>第6回：ソーシャルワーカーの役割―福祉専門職（資格）の役割と意義</p> <p>第7回：対人援助の概念と範囲―ジェネラリストとしての援助の意義と内容</p> <p>第8回：ソーシャルワーカーの専門性―相談援助の理念（人権尊重・社会正義・利用者本位・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・社会的包摂・ノーマライゼーション等）</p> <p>第9回：ソーシャルワークの価値と倫理―専門職倫理の概念、倫理綱領、倫理的ジレンマ</p> <p>第10回：ソーシャルワークの歴史①―ソーシャルワークの萌芽</p> <p>第11回：ソーシャルワークの歴史②―ソーシャルワークにおける理論化</p> <p>第12回：ソーシャルワークの歴史③―資格制度、国際定義、ジェネラリスト、小テスト</p> <p>第13回：相談援助における権利擁護</p> <p>第14回：ソーシャルワークとチーム―ジェネラリストとしての多職種連携の意義と内容</p> <p>第15回：まとめ；これからの福祉専門職―相談援助にかかる専門職の概念と範囲</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 教員との双方向のコミュニケーション、学生同士の小さなロールプレイなど、演習形式も取り入れ展開する。 |
| 評価方法 | 授業態度 10%、毎回授業時提出小レポート 10%、中間レポート 30%、 期末試験 50% |
| 課題に対する フィード バック | 授業中に行う |
| 指定図書 | 空閑浩人 2015 『ソーシャルワーク』 ミネルヴァ書房 |
| 参考図書 | 空閑浩人 2009 『ソーシャルワーク入門——相談援助の基盤と専門職』 ミネルヴァ書房 |
| 事前・ 事後学修 | 1, 授業中に配布された資料や指定図書を事前・事後に熟読し、授業内容を理解する 2, 生活の中で、授業によって得た知識を、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める (目安時間 40分) |
| オフィス アワー | 坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | |
|-----------|---|------------|
| 科目名 | ソーシャルワーク演習Ⅰ | ※こども教育福祉学科 |
| 科目責任者 | 坂本 道子 | |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 必修 こども 2 Semester | |
| DP番号と科目領域 | DP3 専門基礎 | |
| 科目の位置付 | 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。 | |
| 科目概要 | <p>本科目は保育士および社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚労省の「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的とする。特に①実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解②他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力の涵養③ソーシャルワークの相談援助技術の土台となる基本的なコミュニケーション技術の習得を意図し、④具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により行う。</p> | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 自らの役割を理解し、他者と協働しようとする姿勢をもつ。 | |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等><担当教員>坂本道子</p> <p>第1回：オリエンテーション、自己紹介・他己紹介</p> <p>第2回：自己理解と他者理解 ①—エゴグラム等心理性格テストによる自己理解</p> <p>第3回：自己理解と他者理解 ②—ジョハリの窓等を活用した自己理解</p> <p>第4回：自己理解と他者理解 ③—食べさせられる体験、聞こえない体験</p> <p>第5回：自己理解と他者理解 ④—話せない体験、見えない体験</p> <p>第6回：自己理解と他者理解 ⑤—車いす体験</p> <p>第7回：自己理解と他者理解 ⑥—高齢者体験</p> <p>第8回：コミュニケーションの基礎 ①—ラポールを確立するための面接者の態度</p> <p>第9回：コミュニケーションの基礎 ②—ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際</p> <p>第10回：コミュニケーションの基礎 ③—面接におけるラポールと傾聴の重要性</p> <p>第11回：コミュニケーションの基礎 ④—バーバルコミュニケーションの実際 ①</p> <p>第12回：コミュニケーションの基礎 ⑤—バーバルコミュニケーションの実際 ②</p> <p>第13回：コミュニケーション技法と面接の基礎 ①—促しの技法、繰返しの技法、要約の技法</p> <p>第14回：コミュニケーション技法と面接の基礎 ②—共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法、沈黙の技法</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p> | |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 演習科目であるため、毎回、擬似体験を伴う自己学習の課題を提示します。授業には、出席するだけでなく、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。 |
| 評価方法 | 授業への取組姿勢 25%、毎回授業時提出小レポート 25%、定期試験レポート 50%（今年度はルーブリックは用いない） |
| 課題に対する フィード バック | 15 回終わったところで、14 回分のリアクションペーパーを返却。それを見ながら授業の振り返りと自己評価をしていただきます。 |
| 指定図書 | 授業中に印刷物資料等で提示 |
| 参考図書 | 一番ヶ瀬康子監修・坂本道子・丹野真紀子編著『社会福祉援助技術演習』建帛社 諏訪茂樹『対人援助とコミュニケーション——主体的に学び、感性を磨く』中央法規 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：前回は行ったことを思い出し、プリント等を事前に読む 事後学修：授業内容を、①事実 ②感想 ③考察 に区分して言語化文字化する。 合わせて40分程度 |
| オフィス アワー | 坂本研究室（2612） 時間は授業で提示する |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「社会福祉援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 総合演習Ⅰ・Ⅱ |
| 科目責任者 | 担当指導教員 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 必修 I=6セメスター、Ⅱ=7・8セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP4 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。 |
| 科目概要 | これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけだすことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する <p>7セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読み、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。 ・研究倫理について学ぶ ・テーマをまとめ、発表する <p>8セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する <p>*詳細は担当指導教員のWebシラバス参照</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 少人数のゼミで行う。 |
| 評価方法 | <p><社会福祉学科・介護福祉学科></p> <p>I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%</p> <p>II：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%</p> <p>III：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60%</p> <p><こども教育福祉学科></p> <p>I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%</p> <p>II：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60%</p> <p>・最終提出物はルーブリック（moodleに掲載）を用いて評価する。</p> |
| 課題に対する フィード バック | 授業内でそのつどフィードバックする。 |
| 指定図書 | *担当指導教員のWeb シラバス参照 |
| 参考図書 | *担当指導教員のWeb シラバス参照 |
| 事前・ 事後学修 | <p>事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする</p> <p>事後学習：今回の授業をふまえて自己のテーマの課題について考える</p> <p>※ 原則として、40分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること</p> |
| オフィス アワー | *担当指導教員のWeb シラバス参照 |
| 実務経験に 関する記述 | *担当指導教員のWeb シラバス参照 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 保育実践演習 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 8セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | 保育者を目指すためのこれまでの学修の総括を行う。保育者の資質として①使命感（倫理）や愛情、②社会性や対人関係、③乳幼児理解やマネジメント、④保育内容等の援助・指導力に関する自己評価を行い、課題を明らかにし、解決のための具体的方法を考案する。 |
| 到達目標 | 1. 保育者を目指す者としての自己の課題を明らかにし、課題解決に向けての方法を探る。 2. 保育職の意義や役割を確認する。 3. クラス運営について理解する。 4. 保育者や保護者との連携・協力のために必要なスキル・姿勢について理解する。 援助・指導力やコミュニケーション能力向上のための方法について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員>太田雅子 鈴木光男 細田直哉</p> <p>第 1 回：保育実践演習とは？ 実習等を通しての自己評価と今後の課題を明らかにする—保育者としての資質の確認</p> <p>第 2 回：保育職の意義・保育者の役割 ② 保育士（保育教諭） 園長等の話を聞いた後、グループディスカッションを行う</p> <p>第 3 回：クラスマネジメント（学級経営）、タイムマネジメントについて① 新人職員としての課題—卒業生等の話を聞いた後、グループディスカッションを行う</p> <p>第 4 回：クラスマネジメント、タイムマネジメントについて② 理解したこと、実行したいことをグループごとにまとめて発表する</p> <p>第 5 回：コミュニケーション能力①—保護者・保育者間の関係作り</p> <p>第 6 回：コミュニケーション能力②—関係作りのためのワーク</p> <p>第 7 回：子育て支援—親子プログラムの実践① 子どもが主体的に遊ぶための環境設定と援助（準備）</p> <p>第 8 回：子育て支援—親子プログラムの実践② 子どもが主体的に遊ぶための環境設定と援助（実践）</p> <p>第 9 回：子育て支援—親子プログラムの実践③ 親子の関わりを促す遊び・活動の計画と実践</p> <p>第 10 回：保育者としての表現力①（計画）</p> <p>第 11 回：保育者としての表現力②（実践）</p> <p>第 12 回：保育における構想力と実践力①（計画）</p> <p>第 13 回：保育における構想力と実践力②（実践）</p> <p>第 14 回：グローバル時代の保育者のあり方</p> <p>第 15 回：—まとめ 保育者になることへの期待と希望</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 学生自身が保育・子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けてのグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | 授業態度（グループ課題の発表）50% レポート50% ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパー（コラム）を次の回にコメントして返却する。及び授業の中でフィードバックをする。15回終わったところで、全回が記入されたリアクションペーパーを返却。それを見ながら授業の振り返りと自己評価をする。 |
| 指定図書 | その都度プリントを配布する。 |
| 参考図書 | 授業の中で随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | 授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い保育・子育て支援の実践準備をすること。 |
| オフィス アワー | 授業の初回に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は幼稚園、認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 教職実践演習（幼・小） |
| 科目責任者 | 鈴木 光男 |
| 単位数他 | 2単位（30時間） 選択 こども 8セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | <p>授業は大きく2つに分けることができる。</p> <p>第1は、大学における演習である。児童理解、学級経営、教科・領域指導等に関する内容を取り上げ、事例研究、ロール・プレイ、模擬授業等を行うことによって、実践的な能力を確かなものにしていくことを目的とする。</p> <p>第2は、教育委員会や教育現場、関連機関（社会福祉施設等）における演習である。教育に対する使命感、責任感についての認識を深めるとともに、子どもとのコミュニケーション能力に加え、社会人としての対人関係能力をはぐくんでいくことを目的とする。</p> |
| 到達目標 | <p>大学の授業で学んだ学校知と教育実習等で得られた実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員として資質を構築していく。</p> <p>教師として必要な基礎的資質の形成に関して、以下の4項目について確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること ② 社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること ③ 幼児・児童理解や学級経営等に関する必要能力の基礎を身に付けていること ④ 領域・教科等の指導力の基礎を形成していること |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 太田雅子、鈴木光男、福重浩之、細田直哉</p> <p>第1回 グループ討論「理想とする教師像・子供像」、全体発表</p> <p>第2回 研究授業の紹介と意見交換（授業における技の実際）</p> <p>第3回 実習で経験したコミュニケーションの技術</p> <p>第4回 演習「板書指導のコツ」</p> <p>第5回 講義「ニューカマーの教育や英語イマージョン教育など教育の国際化」</p> <p>第6回 講義（浜松市教育委員会）「教師の仕事と心得」</p> <p>第7回 講義（浜松市校長会・園長会）「幼稚園と小学校の教育」</p> <p>第8回 浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（事前研修）</p> <p>第9回 浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（参観）</p> <p>第10回 浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（事後研修）</p> <p>第11回 講義と演習「教科指導の実際」「指導案の作成」</p> <p>第12回 模擬授業と研究協議（国語、算数、英語）</p> <p>第13回 模擬授業と研究協議（理科、社会、総合的な学習の時間）</p> <p>第14回 模擬授業と研究協議（道徳、特別活動）</p> <p>第15回 まとめ・振り返り</p> <p>定期試験は実施しない。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | グループでのディスカッション・実践現場の観察を通した課題把握と模擬授業の教材研究 |
| 評価方法 | 学習への積極性・参加態度など：20% 指導案・単元構想などの課題：30% コミュニケーション技術、授業技術の分析：20% 最終レポート：30% 以上を目安に総合的に評価する。 |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 |
| 指定図書 | 授業ごとに資料配布 |
| 参考図書 | 参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分) |
| オフィス アワー | 初回の授業で提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 教育原理 |
| 科目責任者 | 細田 直哉 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 選択 こども 1 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | この授業では、「教育」や「こども」をめぐる思想や制度の歴史や多様性を学ぶことで、現代の教育を捉え直し、教育の基本をつかみます。それは自分を形成した「教育」から身を引き離し、新しい「教育」の主体として生まれ変わるプロセスです。単に知識を受動的に覚えるのではなく、自らの考えを主体的に形成することが求められます。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基礎的知識（意義・目的、思想と歴史の変遷、内容・方法、制度等）について説明できる。 2. 教育の現実（実践、今日的課題）を原理的に理解し、説明できる。 3. 保育・教育の基本である「指針」「要領」の教育観を説明できる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>細田直哉、石橋哲成</p> <p>第 1 回：なぜ教育者をめざすのか？：保育と教育・教育の意義・児童福祉との関連（細田）</p> <p>第 2 回：何のため・誰のための教育か？：教育の目的とその変遷（細田）</p> <p>第 3 回：園・学校で子どもはどのように育つのか？：教育と家庭・地域・学校（細田）</p> <p>第 4 回：子ども観と教育観の変遷（細田）</p> <p>第 5 回：諸外国の教育思想とその教育の歴史①古代ギリシャ・ローマ、コメニウス（石橋）</p> <p>第 6 回：諸外国の教育思想とその教育の歴史②ルソー、ペスタロッチ、フレーベル（石橋）</p> <p>第 7 回：諸外国の教育思想とその教育の歴史③モンテッソーリ、デューイ（石橋）</p> <p>第 8 回：日本の教育思想とその教育の歴史①古代、中世（石橋）</p> <p>第 9 回：日本の教育思想とその教育の歴史②近世、現代（石橋）</p> <p>第 10 回：保育・教育法規と保育・教育行政の基礎（細田）</p> <p>第 11 回：保育・教育制度の比較：日本と諸外国（細田）</p> <p>第 12 回：保育・教育実践の基礎理論—内容・方法・計画と評価—（細田）</p> <p>第 13 回：保育・教育実践の多様な取り組み（細田）</p> <p>第 14 回：生涯学習社会と教育（細田）</p> <p>第 15 回：現代の教育課題とまとめ（細田）</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 各回のテーマに沿ったディスカッション・プレゼンテーション・リアクションペーパーへのコメント |
| 評価方法 | 筆記テスト 50%、レポート 50% |
| 課題に対する フィード バック | テストに関しては模範解答を示す・レポートはルーブリックを示すと共に評価して返却。 |
| 指定図書 | 『小学校学習指導要領解説』（文部科学省）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省） |
| 参考図書 | 学生の興味関心に応じて適宜紹介する。 |
| 事前・ 事後学修 | 事前：指定された文献を読んでくる。あるいは、指定された課題に取り組む（20分）。 事後：授業をふまえて自分の興味・関心に沿ってさらに探求し、まとめていく（20分）。 |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 教職概論 |
| 科目責任者 | 飯田 真也 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 選択 1 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 本授業は、今日の日本における学校教育や教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力を理解することを目的とします。教員の職務内容の全体像について理解を深めると同時に、教員研修の必要性や教員が果たすべき服務上・身分上の義務と身分保障について理解します。また、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担してチームとして組織的に諸課題に対応する必要性について理解していることを目標とします。 |
| 到達目標 | 1. 日本における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解している。 2. 教員の職務内容の全体像や、教員研修の意義や生涯に渡って学び続けることの必要性を理解し、服務上、身分上の義務を及び身分保障を理解する。 3. 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>飯田真也、成松美枝</p> <p>第1回：教員になるために（教員免許状の種類） 成松美枝</p> <p>第2回：教職の意義と教員の役割 成松美枝</p> <p>第3回：学校教育の役割と社会的意義 成松美枝</p> <p>第4回：教員の服務上・身分上の義務 成松美枝</p> <p>第5回：教員の身分保障に関する法律 成松美枝</p> <p>第6回：教員の研修制度と教員の権利 成松美枝</p> <p>第7回：教員の職務内容:教科指導 飯田真也</p> <p>第8回：教員の職務内容:生徒指導 飯田真也</p> <p>第9回：教員の職務内容：学校運営 飯田真也</p> <p>第10回：地域社会との連携とチーム学校運営への対応 飯田真也</p> <p>第11回：教育病理：学校教育の問題と教員の対応 飯田真也</p> <p>第12回：教員の職務内容：これからの小学校教員 飯田真也</p> <p>第13回：教員の力量形成と学び続ける教師像 飯田真也</p> <p>第14回：教員の求められる資質と能力 飯田真也</p> <p>第15回：まとめ 飯田真也</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | キーワード・レポート、復習テスト、ミニッツ・ペーパー 課題に対するグループによる協議 |
| 評価方法 | 授業態度・小テスト・提出課題（60%）、定期試験（40%）で総合評価する。 |
| 課題に対する フィード バック | 各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示 「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントします。 |
| 指定図書 | 大津尚志、坂田仰編「初めて学ぶ教職の基礎-教師になることを考えるあなたに」 協同出版 |
| 参考図書 | 授業中に適時紹介します。 |
| 事前・ 事後学修 | 事前・事後の学習として、毎回配布する授業のテキスト・プリントを最低3回は熟読してきて 下さい。提出課題をしっかりと完成させて提出して下さい。目安時間:1時間 |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 教育制度論 |
| 科目責任者 | 飯田 真也 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 選択 6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本授業では、教育を「公的に制度化され、組織化されてきたもの」ととらえ、日本の教育制度はどのような原則と理論的枠組みで組織されているのかを理解し、教育制度を運営する教育行政の理念と仕組みを理解する。さらに、現在の学校を取り巻く状況の変化と、それに対応するべき教育制度の諸課題について理解を深め、近年の教育政策の動向について検討する。また、公教育の目的を実現するための学校経営及び学級経営の望むべき姿と仕組みを理解する。一方で、学校と地域との連携の意義や地域との協働のあり方について、取り組み事例を踏まえて理解を深め、開かれた学校づくりが進められる経緯と方法について理解を検討する。さらに、学校管理下で起こる事件、事故および災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含めた学校安全の必要性について、具体的な取り組み事例を検討しながら、理解を深めることを目的とする。 |
| 到達目標 | 1. 現代日本の公教育は、どのような原則と理論的枠組みで組織されているのかを理解し教育制度を運営する教育行政の理念と仕組みを理解する。学校を巡る近年の状況の変化を理解しつつ、教育制度の諸課題と近年の教育政策の動向に関して理解を深める。 2. 学校と地域の連携の意義や地域との協働の方法について取り組み事例をふまえて理解し、開かれた学校づくりが進められた経緯や方法について理解する。 3. 学校管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 飯田真也 成松美枝</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：授業のガイダンス：公教育・私教育とは何か？ 成松美枝</p> <p>第2回：公教育の制度的原理 成松美枝</p> <p>第3回：現代の教育制度：我が国と諸外国の学校体系 成松美枝</p> <p>第4回：日本の教育制度の歴史：学制と教育勅語体制 成松美枝</p> <p>第5回：戦後の教育制度改革：日本国憲法と教育基本法に基づく制度改革 成松美枝</p> <p>第6回：教育行政の組織と活動1：国の行政組織・文部科学省教育行政の原則 成松美枝</p> <p>第7回：教育行政の組織と活動2：地方の教育組織・教育委員会制度 成松美枝</p> <p>第8回：教育委員会の役割と改革 成松美枝</p> <p>第9回：教職に関する制度 飯田真也</p> <p>第10回：学校教育の仕組 飯田真也</p> <p>第11回：教育活動に関する制度 飯田真也</p> <p>第12回：学校運営に関する制度 飯田真也</p> <p>第13回：教育制度の改革：開かれた学校づくりの歴史的経緯とコミュニティスクール 飯田真也</p> <p>第14回：学校と地域との連携の意義と地域との協働のあり方 飯田真也</p> <p>第15回：学校安全と危機管理：学校保健安全法の理解 飯田真也</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | キーワード・レポート、復習テスト、ミニッツ・ペーパー 教育に関わる事案を基にした問に対する意見表明の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの協議 |
| 評価方法 | ①授業態度・小テスト・提出課題 60% ②定期試験 40%で総合評価する。 |
| 課題に対する フィード バック | 各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示 「振り返り」の記述を基に評価・コメントを記す。 |
| 指定図書 | 河野和清「教育行政学」ミネルヴァ書房、2006年 |
| 参考図書 | 戸田芳雄『学校・子どもの安全と危機管理 第2版』少年写真新聞社、2017年 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修: 前回の配布プリントをしっかりと3回読み直して下さい。 事後学修: 毎回の提出課題をしっかりと取り組んでください。減点された所を修正してきてください。目安時間:1時間 記述による学習記録 |
| オフィス アワー | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 教育心理学 |
| 科目責任者 | 細田 直哉 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 4セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP 2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 到達目標 | 1. 子どもの心身の発達と保育・教育の実践との関連について心理学的に説明できる。 2. モノ・ヒト・コトとの対話を通して学ぶ学習の過程を心理学的に理解できる。 3. 心理学的な根拠に基づいた保育・教育の方法について説明できる。 |
| 科目概要 | この科目では、子どもの心身の発達および学習に関する心理学理論を学び、それを保育や教育実践に活かす方法や優れた保育・教育の実践を支える心理学的根拠について学びます。そのため、教科書だけでなく、実践事例や映像などを用いて、学生が自身の学びを踏まえて考え、討論する場面を設定し、実践につながる学びが生まれるようにしていきたいと思います。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：教育と学習と発達の関係</p> <p>第 2 回：「わかる」とはどういうことか</p> <p>第 3 回：子どもの心を「わかる」ために</p> <p>第 4 回：学習理論①行動主義（レスポナデント条件づけとその応用）</p> <p>第 5 回：学習理論①行動主義（オペラント条件づけとその応用）</p> <p>第 6 回：学習理論②認知主義（ピアジェ vs. ヴィゴツキー）</p> <p>第 7 回：「発達の最近接領域」と遊び</p> <p>第 8 回：学習理論③状況主義（社会文化的アプローチと LPP）</p> <p>第 9 回：教育者の「指導・援助」を科学する①学びが生まれる環境</p> <p>第 10 回：教育者の「指導・援助」を科学する②言葉と思考の発達を促進する方法</p> <p>第 11 回：教育者の「指導・援助」を科学する③社会性の発達を支える方法</p> <p>第 12 回：教育者の「指導・援助」を科学する④遊びの中の学び／学びの中の遊び</p> <p>第 13 回：知能と障害の科学と文化</p> <p>第 14 回：教育実践の中に見る心理学的方法</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | テーマに関連した保育実践をDVDで視聴したり、実際の保育場面のエピソードに基づいたロールプレイやディスカッションを行ったりします。 |
| 評価方法 | 筆記試験 100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。 |
| 課題に対する フィード バック | 試験は模範解答を示します。 |
| 指定図書 | 授業に関連した自作のスライドやプリントを用いて授業します。 |
| 参考図書 | 市川伸一『学習と教育の心理学』(岩波書店)、竹田契一『インリアルアプローチ：子どもとの豊かなコミュニケーションを築く』(日本文化科学社)、佐伯胖『「わかる」ということの意味』『「学ぶ」ということの意味』(岩波書店) |
| 事前・ 事後学修 | 事前：事前課題に取り組み、授業に臨んでください(20分)。 事後：試験に向けた自筆のノートづくりを進めてください(20分)。 |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員・中学校特別支援学級教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 発達心理学 |
| 科目責任者 | 細田 直哉 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 2セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 生涯発達の手台となる乳幼児期および児童期以降の発達を教科書と DVD を用いて丁寧に確認し、各時期の発達の特徴とそれに応じた学習環境および援助を理解する授業です。授業を受動的に受けるのではなく、学んだことや自己学習の成果を主体的にまとめ、各年齢についての自分の学びを 1 冊のファイル (ポートフォリオ) にして提出する必要があります。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育の実践にかかわる心理学の基礎知識を身につける。 2. 子どもの発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。 3. 発達が人や物や事象との相互作用の中で起こることを理解し、説明できる。 4. 生涯発達の観点から、発達過程や初期経験の重要性と保育・教育との関連性が説明できる。 |
| 授業計画 | <p><授業計画・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション：授業の概要・「発達」と「学習」</p> <p>第 2 回：子どもの「自分づくり」の発達過程と保育・教育</p> <p>第 3 回：0 歳児前半の発達と保育</p> <p>第 4 回：0 歳児後半の発達と保育</p> <p>第 5 回：1～2 歳児の発達と保育</p> <p>第 6 回：2～3 歳児の発達と保育</p> <p>第 7 回：ポートフォリオ中間発表会</p> <p>第 8 回：3～4 歳児の発達と保育</p> <p>第 9 回：4～5 歳児の発達と保育</p> <p>第 10 回：5～6 歳児の発達と保育</p> <p>第 11 回：児童期以降の発達と教育・学習①生涯発達と発達援助</p> <p>第 12 回：児童期以降の発達と教育・学習②発達障害と発達支援</p> <p>第 13 回：「成長」「発達」「学習」・子ども観と教育観</p> <p>第 14 回：心理学理論のまとめ ①発達の理論</p> <p>第 15 回：心理学理論のまとめ ②学習の理論</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。 |
| 評価方法 | ポートフォリオ 100% |
| 課題に対す るフィード バック | ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。 |
| 指定図書 | 河原紀子『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』（学研） その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。 |
| 参考図書 | バターワース・ハリス『発達心理学の基本を学ぶ』（ミネルヴァ書房）、田中昌人『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）、田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』（ぎょうせい）、園と家庭を結ぶ「げんき」編集部『乳児の発達と保育：遊びと育児』（エイデル研究所） |
| 事前・ 事後学修 | 事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む（10分） 事後：ポートフォリオ作りを各自進める。（60分） |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「子育て支援ひろばの発達相談員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 事前課題を与え、課題についてグループワークを行い理解を深める。 また、Think-Pair-Share を行っていく。 |
| 評価方法 | 定期試験 (60%)、確認テスト (20%)、課題 (20%) |
| 課題に対する フィード バック | 授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。 |
| 指定図書 | 指定無し |
| 参考図書 | よくわかる特別支援教育[第2版] (湯浅恭正 編著 ミネルヴァ書房) |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：事前課題のテーマを示しまとめる (30分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10分) |
| オフィス アワー | 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 教育課程論 | |
| 科目責任者 | 成松美枝 | |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 6セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 | |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 本授業では、学校教育（小学校・幼稚園）で教育課程が有する意義と教育課程の歴史的な経緯について理解を深める。また、教育課程の編成の基本的原理と方法（手法）、学習指導要領・幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の方法を理解する。児童・幼児の発達や学習との関連から系統的に構築された教育計画の実際を学ぶ。さらに実習等の具体的な場面を想定し、教材研究・活用の仕方を踏まえて指導計画案作成し実践する。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育（小学校・幼稚園）において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2. 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3. 教科・領域をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 | |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <科目担当> 成松美枝、太田雅子</p> <p>第 1 回：現行の学習指導要領下の学校（幼稚園）教育の社会的状況と検討課題 成松</p> <p>第 2 回：教育課程の意義と役割及び機能 成松</p> <p>第 3 回：教育課程の編成の原理とガイドライン（学習指導要領）の内容との関係性 成松</p> <p>第 4 回：学習指導要領の改訂の変遷・性格と基本構造 成松</p> <p>第 5 回：幼稚園教育要領の改訂の変遷・性格と基本構造（全体的な計画） 太田</p> <p>第 6 回：教育課程の比較：欧米、オセアニア 成松</p> <p>第 7 回：教育課程の運用：カリキュラム・マネジメントの意義と重要性 成松</p> <p>第 8 回：長期的指導計画の作成（小学校） 成松</p> <p>第 9 回：短期的指導計画の作成（小学校）（教科横断的学習を意識して） 成松</p> <p>第 10 回：長期的指導計画の作成（幼稚園） 太田</p> <p>第 11 回：短期的指導計画の作成（幼稚園）（総合的な学びを意識して） 太田</p> <p>第 12 回：学習指導案の作成と教育評価（小学校ースタートカリキュラムを意識して） 成松</p> <p>第 13 回：保育指導案の作成と教育評価（幼稚園ーアプローチカリキュラムを意識して） 太田</p> <p>第 14 回：模擬授業の実施と評価（小学校） 成松</p> <p>第 15 回：模擬保育の実施と教育評価（幼稚園） 太田</p> <p>定期試験</p> | |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 保育指導計画を作成し模擬保育を行う。さらに保育教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。 |
| 評価方法 | 授業態度 20%、課題提出物の評価 40%、試験 40% |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクション・ペーパー（コラム）をもとに、次の授業の中でフィードバックや解説を行う。15回終わったところで、全回のリアクション・ペーパーをもとに、まとめ（授業の振り返り）を行う。 |
| 指定図書 | 教師教育テキストシリーズ『教育課程』第二版 山崎準二編、学文社、2018年 「小学校学習指導要領解説・総則編」「幼稚園教育要領解説」 |
| 参考図書 | 『カリキュラム・マネジメント入門 「深い学び」の授業デザイン。学びをつなぐ7つのミッション』田村学(編) 東洋館出版社 |
| 事前・ 事後学修 | 教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動(遊び)や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間 40分】 |
| オフィス アワー | 初回授業にて提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 成松： 中学・高等学校教諭の実務経験を有する教員が、実務の観点を踏まえて教授する。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 道徳理論と指導法 |
| 科目責任者 | 内崎 哲郎 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 小学校における道徳教育の意義・目標・内容や課題について、児童期の特性や幼児教育及び中等教育との関連で理解するとともに、現代の道徳教育の基盤となる価値、道徳性の概念、歴史や社会とのかかわりなどを検討する。さらに、それを踏まえ、道徳教育の要としての道徳の時間の目標や特質、小学校における授業の計画作成、指導方法について具体的に理解することを主目的とする。 |
| 到達目標 | ①道徳とは何か、その今日的意義と重要性について理解できる。 ②小学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容について理解できる。 ③道徳教育の全体指導計画の意義を理解し、教育活動全体を通しての指導の必要性について説明できる。 ④道徳の時間の指導過程や指導方法に関する基本的事項を理解し、学習指導案の作成に生かすことができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 内崎哲郎、仲義之</p> <p>第1回：子どもの心の成長と道徳教育の意義 内崎哲郎</p> <p>第2回：学習指導要領総則に示された道徳教育の目標 内崎哲郎</p> <p>第3回：道徳教育の内容と道徳の時間の意義 内崎哲郎</p> <p>第4回：明治から現代までの道徳教育の変遷 内崎哲郎</p> <p>第5回：海外の道徳教育から我が国の特色を考える 内崎哲郎</p> <p>第6回：宗教的情操を育む道徳教育（聖書による授業） 仲 義之</p> <p>第7回：命の尊厳を育む道徳教育（聖書による授業） 仲 義之</p> <p>第8回：道徳教育の計画と多様な道徳資料 内崎哲郎</p> <p>第9回：道徳の時間における授業の在り方 内崎哲郎</p> <p>第10回：小学校道徳学習指導案の作成 内崎哲郎</p> <p>第11回：道徳の時間における指導方法・指導技術 内崎哲郎</p> <p>第12回：道徳授業の実際の様子（映像）に学ぶ 内崎哲郎</p> <p>第13回：学習指導案を生かした指導の実際 内崎哲郎</p> <p>第14回：道徳の時間と学級経営・生徒指導 内崎哲郎</p> <p>第15回：道徳教育の評価とまとめ 内崎哲郎</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク） ・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開 ・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業 ・講義担当者が教師役になり、学生が子ども役になっての模擬授業 ・役割演技の実演 ・グループによる指導案作成作業 ・作成した指導案のプレゼンテーション |
| 評価方法 | 試験（授業に関する記述式試験）40%、学習指導案作成及びレポートなどの取組45%、授業や課題への取組状況15% |
| 課題に対する フィード バック | <ul style="list-style-type: none"> ・小レポートを書かせて、授業中あるいは次回の授業の中で返答したり、解説・コメントしたりする。 ・事前にテキストの読んでくる箇所を指示して、次回の授業の中で、解説しながら講義する。 ・試験（道徳教育の意義や目標、その指導内容や方法等について理解できているかコメントを書く） ・小レポート【リアクションペーパー】（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気づきや感想、考察等を述べているかコメントを書く） |
| 指定図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・「小学校学習指導要領」 ・「小学校学習指導要領解説・道徳編」 |
| 参考図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・「小学校学習指導要領 ポイント総整理 特別の教科 道徳」 永田繁雄（東洋館出版社） ・「自ら学ぶ『道徳教育』」 押谷由夫（保育出版社） |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修では、次時に向けた課題意識の継続化と、課題解決に向けての見通しを持たせるために、前回の講義で出されたテーマについて、自分自身の言葉で考え方をまとめる。 ・事後学修では、講義内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気づきや感想、批判的な考察を述べる。（目安時間40分） |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は小学校教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 |
| 科目責任者 | 鈴木 光男 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 特別活動と総合的な学習の時間について教育課程上の位置づけと役割を理論的に検討する。そのうえで、教員の現代的な役割を確認したうえで、指導法の観点から特別活動と総合的な学習の時間の実践事例を検討する。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代学校の教育課程の基本理解をふまえ、特別活動と総合的な学習の時間の教育課程上の位置づけと役割について捉えることができる。 ・教員の現代的な役割を理解したうえで、特別活動と総合的な学習の時間について教育実践の観点から具体的事例をもとに、指導法に関する知識と技法について理解している。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 鈴木光男 飯田真也 梅澤収</p> <p>第1回：イントロダクション 本授業の概要・進め方・評価について、学習指導や参考書 梅澤収</p> <p>第2回：特別活動と総合的な学習の時間の体験①（ワークシート） 鈴木光男</p> <p>第3回：特別活動と総合的な学習の時間の体験②：グループ討論 鈴木光男</p> <p>第4回：現代学校の教育課程と学習指導要領①：小学校編 梅澤収</p> <p>第5回：現代学校の教育課程と学習指導要領②：中・高編 梅澤収</p> <p>第6回：特別活動の内容①：学級活動 梅澤収</p> <p>第7回：特別活動の内容②：児童会（生徒会）、クラブ活動、学校行事 梅澤収</p> <p>第8回：特別活動の実践①：事例を検討する 梅澤収</p> <p>第9回：特別活動の実践②：事例と体験から実践を構想する（ワークシート） 梅澤収</p> <p>第10回：グループワークⅠ 上記構想案の発表 梅澤収</p> <p>第11回：総合的な学習の時間のカリキュラムデザイン 鈴木光男</p> <p>第12回：総合的な学習の時間の実践①：事例を検討する 飯田真也</p> <p>第13回：総合的な学習の時間の実践②：事例と体験から実践を構想する（ワークシート） 飯田真也</p> <p>第14回：グループワークⅡ 上記構想案の発表 飯田真也</p> <p>第15回：授業全体の総括～ESDの視点の重要性～ 梅澤収</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | グループでのディスカッション・グループワーク |
| 評価方法 | 授業の到達目標と授業への参加・取組状況を次の3つの観点をもとに総合的に評価する。 ①基礎的な知識・技能 (70%) ②課題設定、検討・議論、表現・発表等のコンピテンシー (15%) ③学習意欲・態度 (15%) |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 |
| 指定図書 | テキスト 第1回授業で提示する |
| 参考図書 | 小学校学習指導要領。その他は第1回授業で提示する |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分) |
| オフィス アワー | 初回の授業で提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 教育方法・技術論 |
| 科目責任者 | 太田 雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学びのプロセスや具体的方法（授業・保育の展開）を理解する。子どもの思考力・表現力を促すための方法や教材・ICT 活用等の方法・能力を身につける。さらに個々が指導計画案を作成し、実践と振り返り、課題の明確化を行い次に繋げられるようにする。 |
| 到達目標 | 1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 太田雅子、成松美枝、津森伸一</p> <p>第 1 回：これからの時代にふさわしい教育・育成すべき資質・能力とは 太田</p> <p>第 2 回：教師に求められる指導力とは—アクティブ・ラーニングの視点からの学習のあり方 成松</p> <p>第 3 回：授業・保育を設計（デザイン）し、運営（マネジメント）する力 太田・成松</p> <p>第 4 回：学びの環境や人材など整えるべき条件・学びのゴールと手段 太田・成松</p> <p>第 5 回：学びに対する評価・記録とその活用（PDCA） 太田・成松</p> <p>第 6 回：学習問題（課題）と思考①：板書による提示 成松</p> <p>第 7 回：学習問題（課題）と思考②：教師の「問い」と子どもの反応の受け止め 太田・成松</p> <p>第 8 回：学習の形態、保育の形態 太田・成松</p> <p>第 9 回：探求型学習・問題解決学習の実践に向けての方法①「生活科」指導計画と展開例 成松</p> <p>第 10 回：探求型学習・問題解決学習の実践に向けての方法② 遊びを通しての総合的指導 太田 指導計画と展開例</p> <p>第 11 回：教材研究と教材の活用の実際 太田</p> <p>第 12 回：情報教育メディアの活用と技術（基本） 津森</p> <p>第 13 回：情報教育メディアの活用と技術（実践） 津森</p> <p>第 14 回：アクティブ・ラーニングをプランと実践（模擬授業・保育） 太田・成松</p> <p>第 15 回： 模擬授業・模擬保育の振り返り 総括と小テスト 太田・成松</p> <p>定期試験は実施しない。</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 指導計画を立てて、教材等を作成し、模擬授業・模擬保育を展開する。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み：20% 小テスト：50% 課題提出物 ：30% |
| 課題に対する フィード バック | 指導計画・教材・模擬授業に対して、その都度フィードバックを行う。 |
| 指定図書 | 「小学校指導要領解説―総則篇」「幼稚園教育要領解説」 |
| 参考図書 | 参考書・参考資料等 『授業の見方―主体的・対話的で深い学びの授業改善』 澤井陽介 東洋館 『ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成～3.4.5歳児の主体的・対話的で深い学び』 全国幼児教育研究協会・岡上直子（編） ひかりのくに |
| 事前・ 事後学修 | 授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、様々な資料を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い模擬授業等、実践準備をすること。 |
| オフィス アワー | 授業の初回に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は、幼稚園・中学校教諭・高校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 生徒・進路指導論 |
| 科目責任者 | 内崎 哲郎 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 学校は子どもを育てる場であるが、正確には、子どもが自ら育つように働きかける場である。そのために欠かせないことが生徒指導と進路指導であり、両指導も教育課程の内外を通して行うものである。本授業では、いじめや不登校等の課題を切り口にしながらも、すべての子どもが「学校が楽しい」と実感でき、かつ、子どもらの主体性や自己有用感を育むために必要な働きかけについて各自が考えていくことで、学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義を理解することを主目的とする。 |
| 到達目標 | ①学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義について理解できる。 ②子どもの主体性と自己有用感を育むために必要な視点を理解できる。 ③生徒指導と進路指導の視点を入れた「学級経営案」(年間指導計画)を作成できる。 ④生徒指導と進路指導はほかの教職員や家庭・地域等と連携をして行うことで効果が上がることを理解できる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：生徒指導・進路指導とは何か</p> <p>第2回：いじめの問題を考える</p> <p>第3回：進路指導とキャリア教育の違い</p> <p>第4回：生徒指導・進路指導から考える授業づくり①(規律面)</p> <p>第5回：生徒指導・進路指導から考える授業づくり②(学習意欲面)</p> <p>第6回：生徒指導・進路指導から考える学級づくり①(子どもの居場所と絆)</p> <p>第7回：生徒指導・進路指導から考える学級づくり②(環境等)</p> <p>第8回：生徒指導・進路指導と特別活動(学校行事・児童会活動)</p> <p>第9回：生徒指導・進路指導と道徳教育・総合的な学習の時間との関係</p> <p>第10回：生徒指導・進路指導の計画と点検(評価)・改善</p> <p>第11回：個別の課題を抱える児童への指導①(未然防止と早期発見)</p> <p>第12回：個別の課題を抱える児童への指導②(指導方法)</p> <p>第13回：家庭・地域と連携して取り組む生徒指導・進路指導</p> <p>第14回：教職員全員で取り組む生徒指導・進路指導</p> <p>第15回：1回目から14回目までの総復習</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク） ・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開 ・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業 |
| 評価方法 | 試験（授業に関する記述式試験）40%、レポートと授業における取組（毎時間のクイズと授業の振り返り）45%、課題等の取組（年間指導計画の作成）15% |
| 課題に対する フィード バック | <ul style="list-style-type: none"> ・小レポートを書かせて、授業中あるいは次回の授業の中で解説・コメントする。 ・試験（生徒指導・進路指導の意義や目標、その指導内容や方法等について理解できているかコメントを書く。） ・小レポート【リアクションペーパー】（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を述べているかコメントを書く。） ・授業の終わりに、テーマを与え、その内容について次回の授業の中で、解説しながら講義する。 |
| 指定図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導提要」（教育図書） ・「小学校学習指導要領」 |
| 参考図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・「研修でつかえる生徒指導事例50」 藤平敦（学事出版） ・「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」（文部科学省） ・「生徒リーフ」（国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター） |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修では、次時に向けた課題意識の継続化と、課題解決に向けての見通しを持たせるために、前回の講義で出されたテーマについて、自分自身の言葉で考え方をまとめる。 ・事後学修では、講義内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、批判的な考察を述べる。（目安時間40分） |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は小学校教員の実務経験を有する講師が実務の視点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 教育相談 |
| 科目責任者 | 藤田 美枝子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 教育相談を推進するための組織・運営の在り方、実態の把握の仕方、助言や支援の方法について学ぶ。 |
| 到達目標 | 幼児・児童教育を児童福祉や社会福祉といった広い視点でとらえ、子育て家庭を支援する力や、障害児など特別な支援を必要とする子どもに対する対応等を学び、子育て支援活動をトータルに把握し、マネジメントする能力を養い、現場におけるリーダーとして不可欠な力量を身に付ける。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション・幼児・児童理解と教育相談</p> <p>第 2 回：教育相談で出会う子どもたちの実態と理解</p> <p>第 3 回：教育相談担当者の役割と資質</p> <p>第 4 回：子どもの観察と実態把握からの幼児理解</p> <p>第 5 回：子ども・保護者との信頼関係づくり</p> <p>第 6 回：幼児・児童理解と教育相談の基礎知識</p> <p>第 7 回：教育相談のための事例と支援方法 (1) カウンセリングの原理</p> <p>第 8 回：教育相談のための事例と支援方法 (2) カウンセリングの基本的進め方</p> <p>第 9 回：教育相談のための事例と支援方法 (3) カウンセリングの基本的技法</p> <p>第 10 回：教育相談のための事例と支援方法 (4) カウンセリング・マインドとは</p> <p>第 11 回：教育相談のための事例と支援方法 (5) カウンセリング・マインドを活かした、登園拒否やいじめなどの相談と支援</p> <p>第 12 回：発達障害の相談と支援 (1) 概念と診断</p> <p>第 13 回：発達障害の相談と支援 (2) 生活と医療</p> <p>第 14 回：教育相談関係機関とその利用</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | グループ学習による実際の事例等を用いた家庭への支援についての演習を取り入れて行う。 |
| 評価方法 | 筆記試験 (70%)、課題提出物 (30%)、計 100% (課題提出物については、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する) |
| 課題に対する フィード バック | 毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。 |
| 指定図書 | 『保育臨床相談』小田 豊、菅野信夫、中橋美德編、北大路書房 『子育て・保育カウンセリングワークブック』清水勇、阿部裕子、学事出版 |
| 参考図書 | 参考書については、授業中に随時連絡する。 |
| 事前・ 事後学修 | 教科書を事前によく読んでおくこと。また、授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。 |
| オフィス アワー | 社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は子ども家庭福祉領域における「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 幼児理解の理論と方法 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 こども 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 教育・保育の専門職としての幼児理解のあり方を幼児教育の特質と関連づけて学ぶ。さらに幼児理解の具体的な方法である観察、記録、省察・保育の改善について、実際に体験しながら理解する。教師間・保護者との情報共有の具体的な方法について学ぶ。発達支援や幼小接続における幼児理解のあり方について手も検討する。保護者支援における知識・技術についての理解を深める。 |
| 到達目標 | 1. 幼児理解についての知識を身につけ、考え方及び基礎的態度的について理解する。 2. 幼児理解の具体的な方法について理解し実践する。 3. 幼児理解と評価（反省・改善）について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： 幼児理解とは。子どもを取り巻く社会・家庭と子どもの成長・発達における課題</p> <p>第2回： 適切な幼児理解に向けて①：子どもとの信頼関係作り</p> <p>第3回： 適切な幼児理解に向けて②：子どもの行動と内面の理解</p> <p>第4回： 適切な幼児理解に向けて③：教師間での情報共有・学び合い</p> <p>第5回： 適切な幼児理解に向けて④：保護者との情報共有・相互理解</p> <p>第6回： 幼児理解と評価の具体的な方法①：触れ合いを通して・記録と考察 (於大学附属こども園)</p> <p>第7回： 幼児理解と評価の具体的な方法②：観察・記録の工夫</p> <p>第8回： 幼児理解と評価の具体的な方法③：エピソード記録を取ってみる (於大学附属こども園)</p> <p>第9回： 幼児理解と評価の具体的な方法④：記録からの読み取り—学び・発達と援助・指導 ドキュメンテーション・ラーニング・ストーリー</p> <p>第10回： 幼児理解と評価の具体的な方法⑤：記録からの読み取り—集団生活と教師の役割</p> <p>第11回： 幼児理解と評価の具体的な方法⑥：記録からの読み取り—いざこざ・葛藤場面</p> <p>第12回： 幼児理解と評価の具体的な方法⑦：指導計画と評価・幼児の姿と援助・指導の改善</p> <p>第13回： 幼児理解と評価の具体的な方法⑧：発達上の課題が見られる子どもの理解及び保護者 に対する個別支援—カウンセリング・ソーシャルワークの知識と技術</p> <p>第14回： 幼児理解と評価の具体的な方法⑨：学びや発達の連続性と小学校への接続</p> <p>第15回： 幼児理解のための原理・対応の方法についての総括（小テスト）</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 現場での観察・記録をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | 小テスト 40%、レポート課題 40%、授業への取り組み 20% ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーを元に次の授業の中でフィードバックをする。 |
| 指定図書 | 2017年改訂「保育所保育指針（解説付き）」 「幼稚園教育要領（解説付き）」 |
| 参考図書 | 授業内にて随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること |
| オフィス アワー | 初回に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 教育実習指導 |
| 科目責任者 | 鈴木光男 |
| 単位数他 | 1単位(45時間) 選択 こども 7セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | 小学校インターンシップⅠⅡⅢの経験を踏まえ、小学校教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、小学校教育の概要を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では日誌・指導計画の書き方、模擬授業など、事後指導ではそれぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園実習の意義を理解しながら、実習に対する心構えを作る。 2. 実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の観察視点を深める。 3. 実習体験をもとに実習成果や課題をまとめることができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習校において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育実習の意義・目的・内容の理解 (2) 教育実習の方法の理解 (3) 教育実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 (4) 教育実習課題の明確化 (5) 研究授業の準備、指導 (6) 実習記録の意義・方法の理解 (7) 実習施設の理解 <p>2. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させ、教員志望学生の資質、能力の向上を図る。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 模擬授業を構想し、指導案を作成し、模擬授業を公開した上で成果や課題について全員で研究・協議する。 |
| 評価方法 | 課題 (20%)、授業への取り組み (20%)、レポート (20%)、 実習報告会 (20%)、模擬授業の教材研究・指導案 (20%) 計 100% レポートの指導・評価にルーブリックを用いる。 |
| 課題に対する フィード バック | 記録や課題については、添削のうえ返却をする。また、実習報告会では、教員からの講評をする。 |
| 指定図書 | 小学校学習指導要領 |
| 参考図書 | なし |
| 事前・ 事後学修 | 【事前学修】 実習が始まる前に実習ノートにオリエンテーション内容や実習校の教育目標・研修テーマなど概略を記し、配当学年で必要となる教材研究の資料を収集する (60分)。 【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をする。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出す (60分)。 |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 教職実践演習（幼・小） |
| 科目責任者 | 太田雅子・鈴木光男 |
| 単位数他 | 4単位（180時間） 選択 こども 7 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | <p>授業は大きく2つに分けることができる。</p> <p>第1は、大学における演習である。児童理解、学級経営、教科・領域指導等に関する内容を取り上げ、事例研究、ロール・プレイ、模擬授業等を行うことによって、実践的な能力を確かなものにしていくことを目的とする。</p> <p>第2は、教育委員会や教育現場、関連機関（社会福祉施設等）における演習である。教育に対する使命感、責任感についての認識を深めるとともに、子どもとのコミュニケーション能力に加え、社会人としての対人関係能力をはぐくんでいくことを目的とする。</p> |
| 到達目標 | <p>大学の授業で学んだ学校知と教育実習等で得られた実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員として資質を構築していく。</p> <p>教師として必要な基礎的資質の形成に関して、以下の4項目について確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること ② 社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること ③ 幼児・児童理解や学級経営等に関する必要能力の基礎を身に付けていること ④ 領域・教科等の指導力の基礎を形成していること |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 太田雅子、鈴木光男、福重浩之、細田直哉</p> <p>第1回 グループ討論「理想とする教師像・子供像」、全体発表</p> <p>第2回 研究授業の紹介と意見交換（授業における技の実際）</p> <p>第3回 実習で経験したコミュニケーションの技術</p> <p>第4回 演習「板書指導のコツ」</p> <p>第5回 講義「ニューカマーの教育や英語イマージョン教育など教育の国際化」</p> <p>第6回 講義（浜松市教育委員会）「教師の仕事と心得」</p> <p>第7回 講義（浜松市校長会・園長会）「幼稚園と小学校の教育」</p> <p>第8回 浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（事前研修）</p> <p>第9回 浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（参観）</p> <p>第10回 浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（事後研修）</p> <p>第11回 講義と演習「教科指導の実際」「指導案の作成」</p> <p>第12回 模擬授業と研究協議（国語、算数、英語）</p> <p>第13回 模擬授業と研究協議（理科、社会、総合的な学習の時間）</p> <p>第14回 模擬授業と研究協議（道徳、特別活動）</p> <p>第15回 まとめ・振り返り</p> <p>定期試験は実施しない。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | グループでのディスカッション・実践現場の観察を通した課題把握と模擬授業の教材研究 |
| 評価方法 | 学習への積極性・参加態度など：20% 指導案・単元構想などの課題：30% コミュニケーション技術、授業技術の分析：20% 最終レポート：30% 以上を目安に総合的に評価する。 |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 |
| 指定図書 | 授業ごとに資料配布 |
| 参考図書 | 参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分) |
| オフィス アワー | 初回の授業で提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 国語科指導法 |
| 科目責任者 | 福重 浩之 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 3セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | <p>近年、児童、生徒の学びに問題があるといわれている。その背景や要因を検討することは、問題状況を克服することにつながる。よって、学びの問題を通して「国語科の授業とは何か」を考えてみる必要がある。</p> <p>本授業では、国語科指導の意味・役割、技術を中心に、国語科を教えることは子どもにとって何を意味するのか、子どもにとって価値ある学びとはどのようなものか、人間として成長していく子どもに、国語科は何かができるのか、を考えていく。</p> <p>授業方法は、講義を基に、小集団で自己の教育体験を出し合いながら教育実践を構想し、模擬授業に繋げていくことを中心とする。「みんなで楽しむ」ことを基本に、実のある授業にしていく。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語科における学びの問題と教育方法の課題について理解する。 ・国語科における学びの問題に答え得る授業とは何かを理解する。 ・模擬授業のデザインと実践を通して、基礎的実践力を身につける。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： ガイダンスー学びの問題と教育方法の課題</p> <p>第 2 回： 学びの問題に答え得る授業Ⅰー教師の言葉、教授行為を中心に</p> <p>第 3 回： 学びの問題に答え得る授業Ⅱーこれまでの教育方法（説明的文章教材）を中心に</p> <p>第 4 回： 学びの問題に答え得る授業Ⅲーこれまでの教育方法（文学的文章教材）を中心に</p> <p>第 5 回： 学びの問題に答え得る授業Ⅳーこれまでの教育方法（作文）を中心に</p> <p>第 6 回： 学びの問題に答え得る授業Ⅴーこれまでの教育方法（書写）を中心に</p> <p>第 7 回： 学びの問題に答え得る授業Ⅵーこれからの国語科教育方法を中心に（ICT の活用法を含む）</p> <p>第 8 回： 子どもの可能性をとらえる授業分析</p> <p>第 9 回： 学びの問題に答える授業からの構想Ⅰ（教材研究）</p> <p>第 10 回： 学びの問題に答える授業からの構想Ⅱ（指導案作成）</p> <p>第 11 回： 模擬授業と分析Ⅰ（説明的文章教材）</p> <p>第 12 回： 模擬授業と分析Ⅱ（文学的文章教材）</p> <p>第 13 回： 模擬授業と分析Ⅲ（作文）</p> <p>第 14 回： 模擬授業と分析Ⅳ（書写）</p> <p>第 15 回： まとめー新しい実践を創造するために</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 毎時間の課題を、小集団で主体的、対話的に解決していく。また、模擬授業は小集団で立案、発表し、全体で考察する。 |
| 評価方法 | (1) 授業に対する姿勢 20% (2) 授業レポート、提出物、発表 40% (3) 筆記試験 40% 計 100% |
| 課題に対する フィード バック | 毎時間の小集団学修では口頭で、各自の「学びへのふりかえり」に対しては論評を加える。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領解説 国語編」(平成 29 年 6 月告示 文部科学省) |
| 参考図書 | 授業中に適宜資料を配付する。 |
| 事前・ 事後学修 | 事前・事後: 「今日の学び」に関して理解したことを整理しながら疑問点(もっと知りたいことも含む)を見出し、次回の授業に臨む。(40 分程度) |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 社会科指導法 |
| 科目責任者 | 中村 俊哉 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 4セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・初等社会科の理論、目標、内容、教育方法、他教科の関連、情報機器の活用などの基礎的知識を理解することができる。 ・指導案を作成し、模擬授業などを行うことができる。 |
| 到達目標 | 初等社会科教育の理論と実践、学習指導要領の目標・内容・方法について理解したうえで、授業を構成し、展開できる方法を身につけ、実際に指導案を作成し、模擬授業ができるようにする。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： オリエンテーション・小学校社会科授業実践と分析</p> <p>第 2 回： 小学校社会の目標・内容・指導上の留意点</p> <p>第 3 回： 小学校社会科の成立過程と変遷</p> <p>第 4 回： 小学校社会の原理と現状と課題—社会的味方・考え方・問題解決・主体性・思考力・表現力・公民的資質等—</p> <p>第 5 回： 小学校社会科の単元計画—幼児教育から高等学校までの系統性・他教科との関連—</p> <p>第 6 回： 小学校社会科の教育課程—学習指導要領・指導書・教科書の関連—</p> <p>第 7 回： 小学校社会科地域学習の学習指導—授業実践記録から (児童の実態と教材性の重要性)—</p> <p>第 8 回： 学習指導案の書き方①—教科書や指導案を比較分析・指導案の構成・授業展開・評価—</p> <p>第 9 回： 学習指導案の書き方②—児童・地域の実態・情報機器の利用・板書の役割—</p> <p>第 10 回： 学習指導案の作成・検討</p> <p>第 11 回： 模擬授業・模擬授業の分析① (地域学習)</p> <p>第 12 回： 模擬授業・模擬授業の分析② (生活環境を支える諸活動)</p> <p>第 13 回： 模擬授業・模擬授業の分析③ (産業・国土学習)</p> <p>第 14 回： 模擬授業・模擬授業の分析④ (歴史・政治)</p> <p>第 15 回： 模擬授業・模擬授業の分析⑤ (国際理解・環境) まとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 模擬授業やグループワークを行う。 |
| 評価方法 | 指導案・模擬授業（60%）、授業への参加態度（40%） |
| 課題に対する フィード バック | 提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領解説社会編」（文部科学省） |
| 参考図書 | 授業中に適宜資料を配付する。 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修としては、配布したプリントを行う。 事後学習としては、配布プリントや配布資料の振り返りを行う。（目安時間 40 分） |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して 受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校公立公務員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 算数科指導法 |
| 科目責任者 | 飯田真也 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 3セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 算数科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について ICT の活用法を含めて学ぶ。そのうえで、実際に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行うことで、算数科の授業を担当するための指導力を身につける。 |
| 到達目標 | 学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：算数教育の現状</p> <p>第 2 回：目標・全体構造の理解</p> <p>第 3 回：「数と計算」の学習指導法</p> <p>第 4 回：「図形」の学習指導法</p> <p>第 5 回：「測定」の学習指導法</p> <p>第 6 回：「変化と関係」の学習指導法</p> <p>第 7 回：「データの活用」の学習指導法</p> <p>第 8 回：ICT や教材の効果的な活用方法</p> <p>第 9 回：学習指導案の検討・作成</p> <p>第 10 回：「数と計算」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 11 回：「図形」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 12 回：「測定」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 13 回：「変化と関係」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 14 回：「データの活用」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 現場実践の動画による検討や考察、協議 グループによる模擬授業の立案と発表 |
| 評価方法 | 小テスト30% 定期試験70% |
| 課題に対する フィード バック | 模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領解説算数編」「小学校学習指導要領」（文部科学省） |
| 参考図書 | 適宜プリント等を配布する。 |
| 事前・ 事後学修 | 指導案の作成と模擬授業の準備（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修） （目安時間1時間） |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 理科指導法 |
| 科目責任者 | 飯田真也 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 理科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について ICT の活用法を含めて学ぶ。そのうえで、実際に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行うことで、理科の授業を担当するための指導力を身につける。 |
| 到達目標 | 学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： 理科教育の現状</p> <p>第 2 回： 目標・全体構造の理解</p> <p>第 3 回： 理科教育の実践例</p> <p>第 4 回： 「生命領域」の学習指導法</p> <p>第 5 回： 「物質領域」の学習指導法</p> <p>第 6 回： 「エネルギー領域」の学習指導法</p> <p>第 7 回： 「地球領域」の学習指導法</p> <p>第 8 回： ICT や教材の効果的な活用方法</p> <p>第 9 回： 学習指導案の検討・作成</p> <p>第 10 回： 「生命領域」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 11 回： 「物質領域」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 12 回： 「エネルギー領域」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 13 回： 「地球領域」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 14 回： これからの理科教育について</p> <p>第 15 回： まとめ（理解の確認）</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 現場実践の動画による検討や考察、協議 グループによる模擬授業の立案と発表 |
| 評価方法 | 小テスト30% 定期試験70% |
| 課題に対する フィード バック | 模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説理科編」(文部科学省) |
| 参考図書 | 適宜プリント等を配布する。 |
| 事前・ 事後学修 | 指導案の作成と模擬授業の準備(事前・事後学習) 記述による学習記録(事後学修) (目安時間1時間) |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 生活科指導法 |
| 科目責任者 | 飯田真也 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 生活科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について ICT の活用法を含めて学ぶ。そのうえで、実際に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行うことで、生活科の授業を担当するための指導力を身につける。 |
| 到達目標 | 学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：生活科教育の現状</p> <p>第 2 回：目標・全体構造の理解</p> <p>第 3 回：「学校生活」の学習指導法</p> <p>第 4 回：「生活や出来事」の学習指導法</p> <p>第 5 回：「地域生活」の学習指導法</p> <p>第 6 回：「公共施設の利用」の学習指導法</p> <p>第 7 回：「飼育・栽培」の学習指導法</p> <p>第 8 回：ICT や教材の効果的な活用方法</p> <p>第 9 回：学習指導案の検討・作成</p> <p>第 10 回：「学校生活」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 11 回：「生活や出来事」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 12 回：「地域生活」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 13 回：「公共施設の利用」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 14 回：「飼育・栽培」の模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第 15 回：まとめ（理解の確認）</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 現場実践の動画による検討や考察、協議 グループによる模擬授業の立案と発表 |
| 評価方法 | 小テスト30% 定期試験70% |
| 課題に対する フィード バック | 模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説生活編」（文部科学省） |
| 参考図書 | 適宜プリント等を配布する。 |
| 事前・ 事後学修 | 指導案の作成と模擬授業の準備（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修） （目安時間1時間） |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 音楽科指導法 |
| 科目責任者 | 二宮 貴之 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 |
| 到達目標 | 1) 学習指導に必要な知識や指導力を身につける。 2) 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 3) 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： 授業づくりの基礎 1 学習指導要領を基に「教育内容」「教材」「評価」などを整理する。</p> <p>第 2 回： 授業づくりの基礎 2 学習指導要領を基に「音楽の要素」「ICT」「指導の留意点」などを整理する。</p> <p>第 3 回： 音楽遊び 音楽遊びとその展開について実践を通して理解する。</p> <p>第 4 回： 弾き歌いの授業 第1～3 学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。</p> <p>第 5 回： 弾き歌いの授業 第4～6 学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。</p> <p>第 6 回： 合唱の授業 合唱教材を取り上げその指導方法について理解する</p> <p>第 7 回： 合唱の授業 合唱曲を仕上げその指導方法と評価方法について理解する。</p> <p>第 8 回： 器楽の授業 鍵盤ハーモニカを教材で取り上げ基本的な奏法と指導法について理解する。</p> <p>第 9 回： 器楽の授業 打楽器、鍵盤楽器等用いて合奏を行いその指導法について理解する。</p> <p>第 10 回： 音楽鑑賞の授業 小学校の鑑賞教材を取り上げその指導法について理解する。</p> <p>第 11 回： 音楽づくりの授業 音楽づくりを経験しその指導法について理解する。</p> <p>第 12 回： 学習指導案の作成 学習指導要領を基に単元計画と指導案の作成について理解する。</p> <p>第 13 回： 学習指導案の作成 指導案を作成しその作成方法について理解する。</p> <p>第 14 回： 模擬授業 作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を理解する。</p> <p>第 15 回： 模擬授業 作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を振り返る。</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 個人及びグループで主体的に学修する時間を設定しています。 |
| 評価方法 | 指導案の評価 30% 共通教材の弾き歌い、30% 定期試験 40% |
| 課題に対する フィード バック | 指導案の作成、弾き歌いや歌唱表現について課題ごとに講評します。 |
| 指定図書 | 『初等科音楽教育法』（音楽之友社）『小学校学習指導要領』（文部科学省） 『歌はともだち』（教育芸術社） |
| 参考図書 | なし |
| 事前・ 事後学修 | 指定図書を読み、音楽科の指導方法・理論、各楽曲の譜読みを事前に行っておいて下さい。事前・事後学修はそれぞれ1時間程度行って下さい。 |
| オフィス アワー | 授業初回時に伝えます。 |
| 実務経験に 関する記述 | なし |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 図画工作科指導法 |
| 科目責任者 | 鈴木光男 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を、子供の成長と表現・製作の発達といった観点から、また“Education through Art (美術による教育)”と“Education for Art (美術の教育)”の観点や、美術教育の歴史的変遷などからとらえ直し、この教科特有の意味や価値について認識を深める。その上で、具体的な題材や授業を構想する力、子供の自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量的形成をはかるものとする。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 美術教育の歴史的変遷と今日的な課題について理解する。 2 図画工作科の教育的意味や価値について理解し、題材や授業を構想し、作品を試作し指導案を作成することができるようになる。 3 様々な表現方法に応じた子供の表現のあり方を理解し、子供の表現活動について理解することができるようになる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>美術教育の理念と課題</p> <p>第1回：美術教育の目標／美術教育の変遷－その理念と思想－ ・図画工作科学習の課題と意義を考察・検討する。</p> <p>第2回：子供の成長と表現 ・明治期の臨画教育や「〇〇式」と言われる描画指導など美術教育における様々な指導法の検討から新学習指導要領で求める図画工作科のあり方を検討・考察する。</p> <p>第3回：図画工作科の性格と目標・評価 / 図画工作科の学習指導の基本 ・図画工作科で育む学力と自発的・主体的な学習者を育てるための教師のあり方を考察・検討する。</p> <p>第4回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－① ・造形遊びについて理解し、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第5回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－② ・表したいことを絵に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第6回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－③ ・表したいことを立体に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第7回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－④ ・表したいことを工作に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第8回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－⑤ ・美術館と連携・協力した鑑賞のあり方や対話型鑑賞・アートゲームなどの実践的な題材や ICT を活用した指導の実例を通じて、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>授業づくり</p> <p>第9回：学習指導案の作成① ・学習指導案の全体的な書式をはじめ目標や評価規準、児童観・題材観・指導観などについてそれぞれに記入するポイントを理解する。</p> <p>第10回：学習指導案の作成② ・試作することを通して学習過程を構想し、導入の工夫や ICT の効果的な利用による意欲化の手立てを考える。</p> <p>第11回：指導案の作成③</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| | <p>・各自作成した学習指導案をもとにしてした模擬授業を構想し、その準備を進める。</p> <p>第12回：模擬授業の公開・検討①</p> <p>・各自の学習指導案をもとに模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第13回：模擬授業の公開・検討②</p> <p>・前時の学びを互いに振り返り、課題を絞って模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第14回：模擬授業の公開・検討③</p> <p>・これまでの学びを総括するように模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p> <p>・図画工作科学習による主体的・対話的で深い学びを検討し、協議することで、本科目の総括をする。</p> <p>定期試験は実施しない。</p> |
| アクティブ ラーニング | グループでのディスカッション・実践現場の観察を通した課題把握と模擬授業の教材研究・模擬授業の公開 |
| 評価方法 | <p>(1) 授業で課した課題の評価…40%</p> <p>*試験はなく、学習指導案と試作した作品、並びに模擬授業に関する課題レポートを課す。</p> <p>(2) 授業態度（事前・事後学修の提出物、参加態度など）…60%</p> <p>*毎時間の作品の制作態度や事前・事後学修をまとめたスケッチブックなども評価材料とし、総合的に判断し評価する。</p> |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 |
| 指定図書 | 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」日本文教出版 |
| 参考図書 | 参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」（文部科学省） |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は40分） |
| オフィス アワー | 初回の授業で提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 家庭科指導法 |
| 科目責任者 | 小清水 貴子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 学習指導要領等を通して、小学校家庭科の教科目標、指導内容と評価、情報機器及び教材の効果的な活用を含めた指導法について学びます。学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りを通して、子どもの認識や思考等の実態を視野に入れた授業設計や授業改善の視点を身につけます。 |
| 到達目標 | 学習指導要領に示された小学校家庭科の教育目標や指導内容、指導方法について理解するとともに、具体的な授業場面を想定して授業設計を行う力を身につけます。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：家庭科教育における小学校家庭科の位置づけ、教科目標、指導内容と全体構造</p> <p>第2回：「A家族・家庭生活」の指導内容と情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第3回：「B衣食住の生活」の食生活の指導内容と情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第4回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の指導内容と情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第5回：「C消費生活と環境」の指導内容と情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第6回：布を用いた製作の実習指導における教材及び指導法の体験</p> <p>第7回：布を用いた製作の実習指導における教材の効果的な活用の検討と情報機器の活用</p> <p>第8回：布を用いた製作の場面指導における模擬授業の実践と振り返り、授業改善</p> <p>第9回：食生活に関する実習指導における教材の作成</p> <p>第10回：食生活に関する実習指導における教材の体験と検討</p> <p>第11回：食生活に関する実習指導における教材の効果的な活用と指導法の検討</p> <p>第12回：食生活に関する実習指導における実践と振り返り</p> <p>第13回：学習指導案の作成と教材研究</p> <p>第14回：模擬授業の実施と振り返り、授業改善</p> <p>第15回：小学校家庭科の学習評価</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 事前学習課題, グループワーク, 模擬授業, 対話・討議を行います。 |
| 評価方法 | 課題レポート (60%), 毎回の授業の最後に提出する小レポート (40%) レポートはルーブリックを用いて評価し, ルーブリックの内容は授業中に提示します。 |
| 課題に対する フィード バック | レポートに対するコメントおよび解説 |
| 指定図書 | 文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版, 小学校家庭科教科書, 伊藤葉子編著『授業力UP家庭科の授業』(日本標準) |
| 参考図書 | 授業において適宜資料を配布します。 |
| 事前・ 事後学修 | 毎回の授業で, 本時のまとめと次時の予告をします。テキストや参考図書を用いて, 自分ができなかった課題について復習するとともに, 次時の事前課題に取り組んでください。 |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は家庭科教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 体育科指導法 |
| 科目責任者 | 和久田佳代 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 新学習指導要領に基づく体育科の目標・内容、全体構造を理解し、望ましい体育授業のあり方を探求する。 実際に学習指導案を作成し、模擬授業や場面指導を実践し、指導方法を身につける。 |
| 到達目標 | 小学校体育科の目標・内容を理解し、学習指導案を作成することができる。 現代社会の児童にあった体育科のあり方を考察できる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 体育について考える</p> <p>第 2 回：現代の子供の体力・運動能力と健康</p> <p>第 3 回：小学校体育科の目標と内容</p> <p>第 4 回：体育科における主体的・対話的で深い学び</p> <p>第 5 回：体育科における評価の在り方 学びと指導と一体となった評価</p> <p>第 6 回：授業設計と学習指導案の作成</p> <p>第 7 回：ICT の効果的な活用 運動が苦手な児童への指導の工夫・配慮</p> <p>第 8 回：領域別指導法① 体づくり運動、体づくりの運動遊び</p> <p>第 9 回：領域別指導法② 器械運動</p> <p>第 10 回：領域別指導法③ 陸上運動</p> <p>第 11 回：領域別指導法④ 水泳運動、表現運動</p> <p>第 12 回：領域別指導法⑤ ボール運動</p> <p>第 13 回：領域別指導法⑥ 保健</p> <p>第 14 回：模擬授業 学習指導案の評価と修正</p> <p>第 15 回：学習指導要領の理解（確認）と授業設計（まとめ）</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実技を多く取り入れて展開します。 |
| 評価方法 | 指導案 30% 模擬授業 20% 毎回の活動と授業後のフィードバック 30% 小テスト 20% |
| 課題に対する フィード バック | 授業内でそのつどフィードバックします。 |
| 指定図書 | 鈴木直樹 他「子どもの未来を創造する体育の『主体的・対話的で深い学び』」創文企画 |
| 参考図書 | 「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説 体育編」（文部科学省） 梅澤秋久「体育における学びあいの理論と実践」大修館書店 |
| 事前・ 事後学修 | 指定図書の関連する部分を予習・復習する。（目安時間 40 分） |
| オフィス アワー | 和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示します |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 英語指導法 |
| 科目責任者 | 池田 周 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 子どもの言語習得論や学びの特性、諸外国の小学校外国語教育の実際、日本の小学校への英語教育導入の背景と目的、年間指導計画と1時間の授業展開など、小学校外国語活動・外国語科の指導に必要な基礎的理論を学ぶ。さらに ICT も積極的に活用しながら様々な言語活動を体験し、教材研究や模擬授業を通して実践的指導力を養成する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の言語習得能力や発達段階、第一言語習得と第二言語習得の違いなどに関する理論的基盤を構築する。 2. 小学校外国語教育の意義と指導の特性を理解し、授業を展開するために必要な理論と指導技術を習得する。 3. 学習指導要領に基づく小学校外国語教育の目標と育成すべき資質・能力の理解に基づき、具体的な指導と評価の計画を立てる力を身に付ける。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 小・中・高等学校を通じた外国語教育改革、諸外国の小学校英語教育</p> <p>第2回：子どもの言語習得、第一言語習得と第二言語習得、</p> <p>第3回：小学校外国語教育導入の背景・その目的と意義・特徴、学習指導要領</p> <p>第4回：コミュニケーション能力・国際理解教育</p> <p>第5回：年間指導計画・単元の指導と評価の計画の立て方、ALT とのチームティーチング</p> <p>第6回：指導者に求められる資質・能力、評価のあり方</p> <p>第7回：小学校外国語教育の教材・教具、指導法、音声言語から文字言語へ</p> <p>第8回：教材研究 1 [歌・チャンツ]・Classroom English 1 [授業運営]</p> <p>第9回：教材研究 2 [トピックの選定、タスク活動・ゲーム]・Classroom English 2 [指導]</p> <p>第10回：教材研究 3 [絵本・その他]・発音指導</p> <p>第11回：授業研究 1 (Small Talk の指導、パフォーマンス評価の実施)</p> <p>第12回：授業研究 2 (ICT、デジタル教材の活用)</p> <p>第13回：授業研究 3 (文字指導、音声と文字とを関係づける指導)</p> <p>第14回：小・中・高等学校の外国語教育の連携の意義とあり方</p> <p>第15回：まとめ 今後の小学校英語教育の動向、カリキュラムマネジメント、国語科との連携</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 指導と評価の計画、模擬授業計画作成などにおいては、積極的にグループ学修を取り入れる。 |
| 評価方法 | 授業参加 (30%)、課題・模擬授業やプレゼンテーションへの取り組み (35%)、 定期試験 (35%)などを基に、総合的に評価する。 |
| 課題に対す るフィード バック | 授業内外で取り組む課題については、コメントや授業中での講評の形でフィードバックを行う。 |
| 指定図書 | 『小学校学習指導要領』 『小学校学習指導要領解説』 『小学校外国語活動・外国語科 研修ハンドブック』 文部科学省 高学年外国語科対応教材 <i>We Can! 1 & 2</i> 文部科学省 中学年外国語活動対応教材 <i>Let's Try! 1 & 2</i> 文部科学省 『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論』 酒井英樹・滝沢雄一・亙理陽一 編著、三省堂、2017、ISBN 978-4385361383 |
| 参考図書 | その他、授業の進行に合わせて適宜指示します。 |
| 事前・ 事後学修 | 「予習」：関係諸理論の資料確認、教材研究および模擬授業・プレゼンテーション準備 (40分) 「復習」：授業の振り返り記録 [ポートフォリオ] (40分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 該当なし |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 国語 |
| 科目責任者 | 福重 浩之 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 2セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | <p>初等国語教育の目標・内容・方法のすべてにわたって、国語の授業を担当するための基礎となる知識、理解、技能の修得をめざす。そのためにはまず、国語教育とは何であるかを考えていく。そして、「聞く、話す、書く、読む」領域の各学年での目標や内容を段階的に理解し、これまで実践されてきた手法を参考にしながら、現代の子どもたちに合った実践方法を構築していく。さらに、どのような展開であれば効果的なのかを、具体的な教材を通して探求し実践力を養っていきたいとも考えている。</p> <p>本講義は、「みんなで楽しむ」ことを基本にしている。力を結集し、実のある授業にしていきたい。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・初等国語の構造と内容についての知識の獲得。 ・初等国語指導法についての理論的理解。 ・初等国語授業を構想する力量の習得。 |
| 授業計画 | <p>授業計画</p> <p>第 1 回 : ガイダンス</p> <p>第 2 回 : 国語教育の意義と目標</p> <p>第 3 回 : 国語教育の構造と内容</p> <p>第 4 回 : 話しことば教育の目標・内容・方法Ⅰ (低学年の指導事項を中心に)</p> <p>第 5 回 : 話しことば教育の目標・内容・方法Ⅱ (中・高学年の指導事項を中心に)</p> <p>第 6 回 : 作文教育の目標・内容・方法</p> <p>第 7 回 : 文学教育の目標・内容・方法Ⅰ (絵本を中心に)</p> <p>第 8 回 : 文学教育の目標・内容・方法Ⅱ (古典的物語を中心に)</p> <p>第 9 回 : 文学教育の目標・内容・方法Ⅲ (現代的物語を中心に)</p> <p>第 10 回 : 説明的文章教育の目標・内容・方法Ⅰ (低学年の指導事項を中心に)</p> <p>第 11 回 : 説明的文章教育の目標・内容・方法Ⅱ (中・高学年の指導事項を中心に)</p> <p>第 12 回 : 「伝統的な言語文化と国語教育の特質に関する事項の内容 (古典)」と指導法</p> <p>第 13 回 : 「伝統的な言語文化と国語教育の特質に関する事項の内容 (語彙・文法)」と指導法</p> <p>第 14 回 : 「伝統的な言語文化と国語教育の特質に関する事項の内容 (書写)」と指導法</p> <p>第 15 回 : まとめ—これからの国語教育の展望</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 指導法に対する問題点を、小集団で主体的・対話的に見出し、解決策を考え、実践方法をも構築する。 |
| 評価方法 | 1)授業に対する姿勢 20% (2)授業レポート、提出物、発表 40% (3)筆記試験 40% 計 100% |
| 課題に対する フィード バック | 毎時間の小集団学修では口頭で、各自の「学びへのふりかえり」に対しては論評を加える。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領解説 国語編」(平成 29 年 6 月告示 文部科学省) |
| 参考図書 | 授業中に適宜資料を配付する。 |
| 事前・ 事後学修 | 事前・事後:「今日の学び」に関して理解したことを整理しながら疑問点(もっと知りたいことも含む)を見出し、次回の授業に臨む。(40分程度) |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 社会 |
| 科目責任者 | 中村 俊哉 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 3セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | ・小学校社会科の授業内容を実践的に体験する活動を通して、小学校社会科に関する基礎的知識を理解する。地域にて、自ら地域教材開発を行う。また、社会科の教科書から学習内容や基礎的知識を習得する。 |
| 到達目標 | ・小学校社会科教育や社会科に関わる教材に対して興味と関心をもつことができる。 ・社会科の今日的教育的意義を理解する。また、教材研究の進め方についての方法を習得し、教材を開発する。 ・社会科に関する基礎的な知識を習得する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 : オリエンテーション 私が考える社会科</p> <p>第 2 回 : 今日的な教育の意義と社会科</p> <p>第 3 回 : 学習指導要領と社会科</p> <p>第 4 回 : 生活科と社会科の系統性と相違一町探検を中心にー</p> <p>第 5 回 : 地域探検 (地図づくり) と教材性について</p> <p>第 6 回 : 教材づくりの方法と各学年の単元</p> <p>第 7 回 : 略案 (指導案) 作成方法</p> <p>第 8 回 : 地域探検 (探索)</p> <p>第 9 回 : 地域探検 (教材づくり)</p> <p>第 10 回 : 略案 (指導案) 作成</p> <p>第 11 回 : 指導案発表①前半グループの発表</p> <p>第 12 回 : 指導案発表②後半グループの発表</p> <p>第 13 回 : 自分の故郷を教材にして (故郷を題材にする意義)</p> <p>第 14 回 : 自分の故郷を教材にして (教材作成)</p> <p>第 15 回 : 故郷教材の発表</p> <p>※適宜小テストを行う。定期試験は実施しない</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 簡易な模擬授業やグループワークを行う。 |
| 評価方法 | 授業への参加態度 (30%)、指導案 (略案)・発表 (40%)、小テスト (30%) |
| 課題に対する フィード バック | 提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領解説社会編」(文部科学省) |
| 参考図書 | 授業中に適宜資料を配付する。 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修としては、配布したプリントを行う。 事後学習としては、配布プリントや配布資料の振り返りを行う。(目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して 受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校公立公務員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 算数 |
| 科目責任者 | 飯田 真也 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 2セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 小学校算数科の指導内容に関する数学的背景について理解することを目的とする。 具体的には、学習指導要領に示されている算数科の目標、内容について、それぞれの領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の具体的な事例を知り、その数学的背景についての問題を解くことで、指導に必要な知識、技能を身につける。 |
| 到達目標 | 算数科の目的、目標、内容について理解する。 具体的な問題演習を通して指導に必要な力を身につける。 それぞれの領域の数学的背景及び指導上の留意点を理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 : 算数科の意義・目的</p> <p>第 2 回 : 数と計算①「数の概念と表記」</p> <p>第 3 回 : 数と計算②「四則計算」</p> <p>第 4 回 : 数と計算③「演算決定モデル」</p> <p>第 5 回 : 数と計算④「文字式」</p> <p>第 6 回 : 図形①「図形について」</p> <p>第 7 回 : 図形②「合同・相似」</p> <p>第 8 回 : 図形③「面積と体積」</p> <p>第 9 回 : 測定「量と測定」</p> <p>第 10 回 : 変化と関係①「割合」</p> <p>第 11 回 : 変化と関係②「数量関係」</p> <p>第 12 回 : データの活用①（データ収集とグラフ）</p> <p>第 13 回 : データの活用②（統計グラフと代表値等）</p> <p>第 14 回 : 数学的活動</p> <p>第 15 回 : まとめ（理解の確認）</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 演習及び問に対する意見表明の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの協議 ・演習 |
| 評価方法 | 小テスト30% 定期試験70% |
| 課題に対する フィード バック | 「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説算数編」(文部科学省) |
| 参考図書 | 適宜プリント等を配布する。 |
| 事前・ 事後学修 | 学習指導要領等該当箇所の事前通読(事前学修) 記述による学習記録(事後学修) (目安時間40分) |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 理科 |
| 科目責任者 | 飯田 真也 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 4セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 学習指導要領に示されている理科の目標、内容について、それぞれの領域の具体的な事例を取り上げ、観察・実験を行い、問題を解くことで指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | 理科の目的、目標、内容について理解する。 具体的な観察・実験を通じて指導に必要な力を身につける。 それぞれの領域の指導上の留意点を理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 : 理科の意義・目的</p> <p>第 2 回 : 理科の内容・構成</p> <p>第 3 回 : 実験器具等の取り扱い方</p> <p>第 4 回 : 生命領域①「植物」</p> <p>第 5 回 : 生命領域②「動物」</p> <p>第 6 回 : 生命領域③「人」</p> <p>第 7 回 : 物質領域①「物質の性質」</p> <p>第 8 回 : 物質領域②「物質の多様性」</p> <p>第 9 回 : 物質領域③「物質の変化」</p> <p>第 10 回 : エネルギー領域①「力学的エネルギー、電氣的エネルギー」</p> <p>第 11 回 : エネルギー領域②「音と光」</p> <p>第 12 回 : エネルギー領域③「エネルギーの変換」</p> <p>第 13 回 : 地球領域①「変動と循環」</p> <p>第 14 回 : 地球領域②「天体活動」</p> <p>第 15 回 : まとめ</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 問に対する意見表明や、観察・実験の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの観察・実験及び協議 ・演習 |
| 評価方法 | 小テスト30% 定期試験70% |
| 課題に対する フィード バック | 「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説理科編」（文部科学省） |
| 参考図書 | 適宜プリント等を配布する。 |
| 事前・ 事後学修 | 学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 記述による学習記録（事後学修） （目安時間40分） |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | こどもと生活 |
| 科目責任者 | 飯田 真也 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 学習指導要領に示されている生活科の目標、内容について、それぞれの内容を追体験することや、生活科の背景にある理論を学ぶことで、指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | 生活科の目的、目標、内容について理解する。 体験活動を通じて指導に必要な力を身につける。 それぞれの内容の指導上の留意点を理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 : 生活科の意義・目的</p> <p>第 2 回 : 生活科の内容・構成</p> <p>第 3 回 : 幼児期及び低学年児童の実態</p> <p>第 4 回 : 遊びから学ぶこと</p> <p>第 5 回 : 学校生活から学ぶこと</p> <p>第 6 回 : 学校探検の実施</p> <p>第 7 回 : 学校探検の成果の検討</p> <p>第 8 回 : 生活や出来事から学ぶこと</p> <p>第 9 回 : 地域生活から学ぶこと</p> <p>第 10 回 : 公共施設の利用から学ぶこと</p> <p>第 11 回 : 自然から学ぶこと</p> <p>第 12 回 : 飼育・栽培から学ぶこと</p> <p>第 13 回 : 地域探検の実施</p> <p>第 14 回 : 地域探検の成果の検討</p> <p>第 15 回 : まとめ (理解の確認)</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 生活科の学習内容を体験する場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・体験活動 ・体験活動を通じた理論について小集団で協議 ・演習 |
| 評価方法 | 小テスト30% 定期試験70% |
| 課題に対する フィード バック | 「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。 |
| 指定図書 | 「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説生活編」（文部科学省） |
| 参考図書 | 適宜プリント等を配布する。 |
| 事前・ 事後学修 | 学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 記述による学習記録（事後学修） （目安時間40分） |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | こどもと音楽 |
| 科目責任者 | 二宮 貴之 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 こども 2 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 児童の遊びと学びの精神に溢れた音楽活動ができる環境を設定できるように、教育者として必要な音楽の基本的知識と技能を身に付ける。具体的には、音楽指導と実践に必要な楽典を学ぶことで音楽理論に関する知識を得る。また、器楽や歌唱による音楽表現を体験し、その音楽的感覚を持って教育現場での音楽的活動の実践ができる技術を養う。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽典を学び、譜表、音名、リズム、音程、楽語、音階、調性などについて理解する。 2. 鍵盤楽器及び打楽器の構造や奏法を理解し演奏することが出来る。 3. 合唱曲に取り組み、和声感や音程感覚を身に付け演奏することが出来る。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：小学校学習指導要領及び幼稚園教育要領の音楽に関する内容について理解する。</p> <p>第2回：譜表、音名、音符、休符、リズム、拍子について理解する。</p> <p>第3回：音程、音階、調性について理解する。</p> <p>第4回：三声の基本コードについて理解する。</p> <p>第5回：主要三和音、属七の和音、簡易伴奏について理解する。</p> <p>第6回：小学校音楽科共通教材1、2、3学年の弾き歌いを通して器楽の奏法について理解する。</p> <p>第7回：小学校音楽科共通教材4、5、6学年の弾き歌いを通して器楽の奏法について理解する。</p> <p>第8回：小学校や幼稚園で扱う楽器を教材に用いて、奏法について理解する。</p> <p>第9回：小学校や幼稚園で扱う鍵盤楽器、打楽器を用いて演奏し、合奏について理解する。</p> <p>第10回：器楽合奏の発表を通して演奏方法について振り返りまとめる。</p> <p>第11回：合唱の基礎である呼吸法と歌唱法を理解する。</p> <p>第12回：二声体の曲を教材として用いて、二声体の和声を感じ取りながら演奏する。</p> <p>第13回：四声体の曲を教材として用いて、四声体の和声を感じ取りながら演奏する。</p> <p>第14回：四声体の合唱を通して音楽のテクスチャを感じ取り歌唱表現について理解する。</p> <p>第15回：四声体の合唱の発表を通して歌唱表現について振り返りまとめる。</p> <p>定期試験を実施する。</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 個人及びグループで主体的に学修に取り組みます。 |
| 評価方法 | 器楽合奏の取り組み 30% 合唱の取り組み 30% 定期試験 40% |
| 課題に対する フィード バック | 譜読みした曲に取り組み、演奏法や音楽表現について講評します。 |
| 指定図書 | 『最新・幼児の音楽教育』（朝日出版社） |
| 参考図書 | 『幼稚園教育要領』（文部科学省）『小学校学習指導要領』（文部科学省） |
| 事前・ 事後学修 | 指定図書・参考図書を読み、掲載されている楽譜の譜読みを行って下さい。事前・事後学修は、それぞれ 40 分間程度行って下さい。 |
| オフィス アワー | 時間・場所については初回授業で提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | なし |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | こどもと美術 |
| 科目責任者 | 鈴木光男 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 こども 2セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本授業では、児童・幼児の発達と図画工作科学習や造形表現活動の関係をふまえた材料・技法についての検討、また作品制作の実習を通して、学生自身が造形表現の楽しさや喜びを体験し、児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動に適切な題材・教材の選択や支援ができるようにする。 |
| 到達目標 | 1. 児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動で使用される代表的な材料や用具の使用方法について正しく理解し、指導することができるようにする。 2. 児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動のプロセスを検討することによりその教育的な意義を理解する。 3. 図画工作科学習や造形表現活動の基盤となる造形・美術の実習課題を通して、題材設定や環境設定のあり方、準備の要点など指導上の具体的な課題について検討し、実践できるようにする。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：材料との出会い-1：紙との出会い／オリエンテーション 《学生の準備物》はさみ、のり</p> <p>第2回：材料との出会い-2：紙と対話する ・新聞紙をもとにした活動でアイズブレーキング・紙への造形操作（切る・折る・曲げる…） 《学生の準備物》はさみ、カッターナイフ、のり、定規</p> <p>第3回：行為の楽しさ-1：粘土を知る 《学生の準備物》学習途中では裸足で活動するので、裸足になりやすい服装、また エプロン・前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。手足をふくタオルなど。</p> <p>第4回：材料との出会い-3：パスとの出会い ・パスによる多様な表現技法 《学生の準備物》パス（オイルパスもしくはクレヨン）</p> <p>第5回：行為の楽しさ-2：絵の具を知る（色水屋さんごっこ・混色・重色） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第6回：行為の楽しさ-3：絵の具を知る（絵の具で描く・塗る） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第7回：行為の楽しさ-4：絵の具をきわめる（筆洗・パレット・筆の基本的な扱い） ・ローラー遊び・スタンプング・指絵の具・デカルコマニー 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第8回：行為の楽しさ-5：絵の具をきわめる（絵の具と他の材料・用具との併用） ・スパッタリング・パチック・マーブリング など 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第9回：題材との出会い-1：版遊び・版画（スチレン版画）</p> <p>第10回：題材との出会い-2：版遊び・版画（紙版画）</p> <p>第11回：材料との出会い-5：水と墨の魅力 《学生の準備物》割り箸、エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第12回：子供と創る壁面構成-1：イメージの共有 実際の小学校や幼稚園の壁面構成を鑑賞しながら、小学校や幼稚園における壁面構成の意味と課題を探る。</p> <p>第13回：子供と創る壁面構成-2：共有（様々な表現技法や材料の特徴を生かした壁面構成、造形的な教室環境の設定を考える。）</p> <p>第14回：子供と創る壁面構成-2：共創（共同制作する。）</p> <p>第15回：子供と創る壁面構成-3：鑑賞（展示し、鑑賞する。）</p> <p>定期試験は実施しない。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場実践の具体的な実践や、そこで生まれた子供の作品などの検討や考察、協議 グループによる共同制作と発表 |
| 評価方法 | (1) 授業で課した課題・作品（スケッチブック・事前・事後学修含むポートフォリオ）の評 価…40% (2) 授業態度（学習記述、参加態度など）…60% |
| 課題に対す るフィード バック | 振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。 互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。 |
| 指定図書 | 『小学校学習指導要領解説』『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚 生労働省） |
| 参考図書 | 槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林） 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」（日本文教出版） |
| 事前・ 事後学修 | 概ね40分を目安に事前・事後学修に取り組まれるような内容で、記述による学習記録（事後 学修）・習得した技法による作品制作とスケッチブックの整理・ポートフォリオ作成（事前・事 後学修） |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 家庭 |
| 科目責任者 | 小清水 貴子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 3セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 小学校家庭科の学習指導要領や教科書に基づいて、基礎的・基本的な小学校家庭科の知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関する理解を深めます。また、小学校家庭科の教材研究等に必要な知識及び技能を身につけます。 |
| 到達目標 | 小学校教員として必要な家庭科に関する教科力を身につけることを目指します。具体的には、小学校家庭科の授業実践に求められる基礎的・基本的な知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を、授業場面を意識しながら身につけます。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：小学校家庭科における指導内容と見方・考え方等の位置づけ</p> <p>第2回：児童の発達段階（第5学年、第6学年）に応じた指導内容の接続</p> <p>第3回：「A家族・家庭生活」の教材研究に必要な知識及び技能、見方・考え方等</p> <p>第4回：「A家族・家庭生活」の学習指導のための教材研究</p> <p>第5回：「B衣食住の生活」の食生活の教材研究に必要な知識及び技能</p> <p>第6回：「B衣食住の生活」の食生活の教材研究に必要な見方・考え方等</p> <p>第7回：「B衣食住の生活」の食生活の学習指導のための教材研究</p> <p>第8回：「B衣食住の生活」の衣生活の教材研究に必要な知識及び技能</p> <p>第9回：「B衣食住の生活」の衣生活の教材研究に必要な見方・考え方等</p> <p>第10回：「B衣食住の生活」の衣生活の学習指導のための教材研究</p> <p>第11回：「B衣食住の生活」の住生活の教材研究に必要な知識及び技能、見方・考え方等</p> <p>第12回：「B衣食住の生活」の住生活の学習指導のための教材研究</p> <p>第13回：「C消費生活と環境」の教材研究に必要な知識及び技能、見方・考え方等</p> <p>第14回：「C消費生活と環境」の学習指導のための教材研究</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>課題レポート</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 事前学習課題, グループワーク, 対話・討議を行います。 |
| 評価方法 | 課題レポート (60%), 毎回の授業の最後に提出する小レポート (40%) レポートはルーブリックを用いて評価し, ルーブリックの内容は授業中に提示します。 |
| 課題に対する フィード バック | レポートに対するコメントおよび解説 |
| 指定図書 | 文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版, 小学校家庭科教科書, 伊藤葉子編著『授業力UP家庭科の授業』(日本標準) |
| 参考図書 | 授業において適宜資料を配布します。 |
| 事前・ 事後学修 | 毎回の授業で, 本時のまとめと次時の予告をします。テキストや参考図書を用いて, 自分ができなかった課題について復習するとともに, 次時の事前課題に取り組んでください。 |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は家庭科教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | こどもと体育 |
| 科目責任者 | 和久田 佳代 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 こども 1 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | <p>子どもの体育活動、運動遊び及び身体表現活動を豊かに展開するために、子どもの発育・発達と運動機能や身体表現についての知識と技術を学び、発達にあった体育活動、運動遊びを促すことができる環境構成、具体的展開のための技術を習得する。</p> <p>子どもの指導・援助者として、子どもの表現を受け止め共有できる開かれた身体をつくることを目標に、柔軟性を高め、姿勢や歩行のレッスンをを行い、自らの身体や運動への意識を高める。</p> |
| 到達目標 | <p>1 子どもの発育発達過程に沿った体育、運動遊びやリズム遊びの重要性を理解する。</p> <p>2 発育発達過程をいかして運動遊びや身体表現を促すことができる環境設営、指導方法を習得する。</p> <p>3 子どもの指導・援助者にふさわしい姿勢、柔軟性を身につけ、身体への意識を高める。</p> |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 柔軟な身体的重要性</p> <p>第2回：子どもの発育発達過程 姿勢的重要性</p> <p>第3回：発育発達過程に沿った運動遊び</p> <p>第4回：コアキッズ体操</p> <p>第5回：発育発達過程にあったリズム遊び</p> <p>第6回：環境に適応するための運動遊び（くぐる、わたる、ぶらさがる、のぼる）</p> <p>第7回：運動遊びから児童の運動への展開</p> <p>第8回：ボールを使った運動遊び</p> <p>第9回：フープを使った運動遊び</p> <p>第10回：なわを使った運動遊び</p> <p>第11回：年齢に応じた運動遊びの実際（幼児）</p> <p>第12回：体づくりの運動遊び（小・低学年）</p> <p>第13回：体づくり運動（小・中学年）</p> <p>第14回：体づくり運動（小・高学年）</p> <p>第15回：実技発表 まとめ</p> <p>*運動着、体育館シューズを用意してください。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 実技科目です。 |
| 評価方法 | 実技発表 50% 授業への取組（意欲・積極性 Moodle でのフィードバック） 50% |
| 課題に対する フィード バック | 実技発表についてはその場で講評します。Moodle 上でも、毎回、意見・質問に対応します。 |
| 指定図書 | なし（資料配布） |
| 参考図書 | 文部科学省「体づくり運動：授業の考え方と進め方(改訂版)」東洋館出版社 「幼児期運動指針ガイドブック」文部科学省 |
| 事前・ 事後学修 | 子どもの支援者にふさわしいように健康状態、身なりを整えて、授業に臨む。 毎回、授業後に Moodle にてフィードバックを行う。 授業での学びを日常生活に活かし、姿勢を意識し、身体への意識を高め、生活する。 ストレッチなどの運動を習慣化する。(週 3 日以上) |
| オフィス アワー | 和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示 |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | こどもと英語 |
| 科目責任者 | パターソン・ドナルド |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 こども 4セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 小学校における授業実践に必要な英語力と知識を身につけることを目的とする。学生自身が英語の4技能・コミュニケーション能力を向上させるための方法を学ぶ。さらに、英語に関する基礎的な知識(音声・語彙・文構造・文法等)、第二言語習得に関する基本的な事柄を理解する。また、英米の児童文学や言語の背景にある文化の理解への興味や知見を広げる。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践運用能力を、授業場面を意識しながら身につける。 2. 中学校への接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身につける。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> パターソン・ドナルド、他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：音声による授業実践「聞くこと・話すこと(やりとり・発表)」</p> <p>第2回：英語ネイティブの人々との話し合い</p> <p>第3回：文字による授業実践「読むこと・書くこと」</p> <p>第4回：英語でeメールをする</p> <p>第5回：技能統合型の活動 実践の様子から学ぶ(小学校での英語活動に参加)</p> <p>第6回：第二言語習得論と言語学</p> <p>第7回：英語の音声の仕組み</p> <p>第8回：英語の音声と綴りの問題及びフォニックス指導</p> <p>第9回：英語の文法及び構文法</p> <p>第10回：英語の伝承童謡(マザーグース等) (小学校・こども園での英語活動に参加)</p> <p>第11回：英米の絵本(エリック・カール等) (小学校・こども園での読み聞かせを行う)</p> <p>第12回：英米の児童文学(CSルイス等)</p> <p>第13回：英米の文学と生活</p> <p>第14回：多様性と異文化理解と</p> <p>第15回：異文化交流と言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | グループ学修、ロールプレイング、プレゼンテーション、Moodle・Google Classroomの活用 |
| 評価方法 | 授業への参加度・提出課題（60%）、試験（40%） |
| 課題に対する フィード バック | 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント |
| 指定図書 | 『小学校英語の展開—よりよい英語活動への提言』 樋口忠彦・大城賢・國方太司・高橋一幸（編著）研究社 『小学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 |
| 参考図書 | 『Hi, friends 1』『Hi, friends 2』東京書籍 『フォニックス指導の実際』ハイルマン、A.W(松香洋子監訳) 玉川大学出版部 『先生、英語のお話を聞かせて！—小学校英語「読み聞かせ」ガイドブック』 ゲイルエリス他著 玉川大学出版部 |
| 事前・ 事後学修 | Moodle・Google Classroomによる課題、レポート。 ※原則として、40分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること。 |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | こどもと言葉 |
| 科目責任者 | 鈴木 まき子 |
| 単位数他 | 1単位(30時間) 選択 こども 3 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 絵本、紙芝居、ストーリーテリング、劇遊び、わらべうた等に関する知識と技術を習得することを目的とする。子どもが児童文化財等について親しむことができるよう、保育現場での遊びへの導入についても演習を通して学修する。自分で作成した作品は、保育実習で生かす。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、エプロンシアター パネルシアター等の遊びを中心に保育現場での実践に必要な言葉の表現技術を養う。 ・わらべ唄について理解し、保育実践につなげる方法・技術を習得する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1回：オリエンテーション 「エプロンシアター」用の教材販売 乳幼児の言葉の発達、言葉遊び</p> <p>第 2回：赤ちゃんからの絵本の読み語り</p> <p>第 3回：読み語りから遊びへの発展（劇遊び）</p> <p>第 4回：劇遊びを発表 紙芝居の演習</p> <p>第 5回：ペープサートの制作（個人・グループ）</p> <p>第 6回：ペープサート作品発表（個人・グループ）</p> <p>第 7回：片手遣いパペットの制作</p> <p>第 8回：人形劇発表（個人・グループ）</p> <p>第 9回：言葉遊びから絵本づくり</p> <p>第 10回：絵本作り（5歳児の絵本作り）</p> <p>第 11回：からくり絵本を作ろう 絵本屋さんごっこをしよう</p> <p>第 12回：わらべ唄とは何か（わらべ唄の特徴）</p> <p>第 13回：わらべ唄と子どもの成長との関わり</p> <p>第 14回：エプロンシアター 個人発表</p> <p>第 15回：まとめ</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 演習科目です |
| 評価方法 | レポート・発表（ペープサート・パネルシアター・エプロンシアター・詩の朗読・創作絵本） 60% 小テスト 40% |
| 課題に対する フィード バック | ペープサート・片手遣いパペット・パネルシアター・エプロンシアター・からくり絵本等自作の文化教材については、指定期日までに自主作成し、授業内でグループ発表をする。また、穴埋め式小(中間)テストについては、コメント等を入れ、添削して返却する。 |
| 指定図書 | 『CD付き すぐ覚えられる わらべうたあそび』木村はるみ著 成美堂出版（2012年） |
| 参考図書 | 授業中に随時連絡 |
| 事前・ 事後学修 | 児童文化財についての理解は演習を通して深め、言葉に関する保育指導に連動していくよう事前課題を提供する。また、事後の振り返りを発表形式で行い、将来保育現場で、生かせるよう配慮する。 |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | こどもの歌と伴奏 |
| 科目責任者 | 二宮貴之 |
| 単位数他 | 1単位(30時間) 選択 3—4 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本科目は、幼児教育の現場で必要なピアノの弾き歌いに関する知識と技術について学習する。それぞれのレベルに応じた個人レッスンを中心に、グループ単位の実技のレッスンやクラス単位で音楽理論に関する講義も行う。過去の採用試験に出題されたピアノ曲や弾き歌い曲などにも挑戦する。伴奏技術の修得のみならず歌唱の技術の修得にも重きを置く。 |
| 到達目標 | 1. 弾き歌いに関する様々な伴奏法について理解できる。 2. コード進行法を理解し、コード伴奏を使った弾き歌いができる。 3. 弾き歌いのレパートリーを広げ、保育・教育の現場で即座に実践できる弾き歌いができる。 |
| 授業計画 | <p style="text-align: right;">＜担当教員名＞ 二宮 藤井 金山</p> <p>＜授業内容・テーマ等＞ 保育士・幼稚園教諭として現場で弾き歌いができるよう、技術や表現力を個人レッスンによってみにつける</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：季節の歌①春 コード弾き（I度IV度V度）正しい発声</p> <p>第3回：季節の歌②夏 コード弾き（I度IV度V度）響く声</p> <p>第4回：季節の歌③秋 コード弾き（I度IV度V度）息の流れと共鳴のさせ方</p> <p>第5回：季節の歌④冬 コード弾き（I度IV度V度）頭声と胸声</p> <p>第6回：生活の歌①登園時 朝、園で歌う歌などを中心にレッスンする</p> <p>第7回：生活の歌②降園時 お片付けや帰り際に歌う歌などを中心にレッスンする</p> <p>第8回：行事の歌①春～夏 入学時から春にかけての行事の歌をレッスンする</p> <p>第9回：行事の歌②秋～冬 秋から冬にかけての行事の歌をレッスンする</p> <p>第10回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて テンポの速い曲</p> <p>第11回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて 特徴的なリズムの曲</p> <p>第12回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて テンポの緩やかな曲</p> <p>第13回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて 就職試験に出された曲 東海地方</p> <p>第14回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて 就職試験に出された曲 関東地方</p> <p>第15回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて 演奏会</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。 |
| 評価方法 | 授業態度 30% 定期試験 70% |
| 課題に対する フィード バック | 個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする |
| 指定図書 | ★やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月 新星出版社 ★こどものうた200チャイルド本社 ※図書については担当教員と相談し購入すること |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：レッスンを受ける曲についてリズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学修：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 事前学修2時間、事後学修2時間程度行うこと。 |
| オフィス アワー | 時間・場所については初回授業で提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | なし |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 器楽 |
| 科目責任者 | 二宮貴之 |
| 単位数他 | 1単位(30時間) 選択 1-2 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 幼児教育の現場では、ピアノによる弾き歌いの演奏技術が求められる。そのために器楽 I では最低限習得しなければならないピアノの奏法及び音楽理論、弾き歌いのためのピアノ伴奏法について重点的に学習する。授業は、個々のレベルに応じた個人レッスンの形態で行う。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ演奏における基礎的な知識と奏法を身に付け、個々のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲を演奏することができる。 2. 子どもの歌の伴奏法を身に付け、個々のレベルに応じてピアノを弾きながら歌うことができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 二宮 笹瀬 藤井 金山</p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：ピアノを弾く姿勢、手の形、指使いについて</p> <p>第 3 回：音部記号（ト音記号とヘ音記号）について</p> <p>第 4 回：音符の種類、拍子、付点のリズムについて</p> <p>第 5 回：変化記号、音階について</p> <p>第 6 回：右手でト音記号の練習、左手でヘ音記号の練習をする</p> <p>第 7 回：左手と右手のユニゾンと反進行の練習、指の交差について</p> <p>第 8 回：調号について</p> <p>第 9 回：長調について</p> <p>第 10 回：短調について</p> <p>第 11 回：速度、強弱、いろいろな記号や用語について</p> <p>第 12 回：実技試験に向けてのレッスン①楽譜に照らし合わせて音の確認</p> <p>第 13 回：実技試験に向けてのレッスン②両手で練習をする</p> <p>第 14 回：実技試験に向けてのレッスン③表情をつけて弾く</p> <p>第 15 回：実技試験に向けてのレッスン④曲想やダイナミクスをつけて仕上げる</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み 30% 実技試験70% |
| 課題に対する フィード バック | 個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする。 |
| 指定図書 | <p>★保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のあめのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付 カワイ出版</p> <p>※テキストが終了した者は個人レッスンを担当する教員と相談し次のテキストを購入すること</p> <p>★やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月 新星出版社</p> |
| 事前・ 事後学修 | <p>事前学修：レッスンを受ける曲について、ドレミの譜読み、リズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。</p> <p>事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。</p> <p>事前学修2時間、事後学修2時間程度行うこと。</p> |
| オフィス アワー | 時間・場所については初回授業で提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | なし |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 保育内容（健康） |
| 科目責任者 | 和久田 佳代 |
| 単位数他 | 2単位（30時間） 選択 こども 3セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | <p>子どもが「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことができるよう、「明るく伸び伸びと行動し充実感を味わう」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける」ことを支援する方法を様々な視点から理解し、考察し、実践につなげる。</p> <p>具体的には、映像を通して発達段階をとらえ、各年齢に応じた健康の支援を理解した上で、生活リズム、遊び、運動、食事、排泄、清潔等をテーマとして、新聞記事や調査結果から現状を把握し、絵本や紙芝居等を活用した指導案、保護者向けおたよりを作成する。</p> |
| 到達目標 | <p>1 子どもの健康に関する現状・課題を理解し、健康的な生活を支援する方法を考察し、指導案、保護者向けおたよりを作成できる。</p> <p>2 自身の健康について考え、支援者としてふさわしい健康習慣を身につける。</p> |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 健康とは</p> <p>第2回：幼児期の健康な生活 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「健康」領域のねらいと内容</p> <p>第3回：現代社会における子どもの健康の現状と課題 基本的な生活習慣の重要性</p> <p>第4回：1歳児の健康とその支援 運動発達</p> <p>第5回：2歳児の健康とその支援 生活リズム、睡眠、食事</p> <p>第6回：3歳児の健康とその支援 排泄の習慣と自立</p> <p>第7回：4歳児の健康とその支援 清潔、着脱の習慣と自立</p> <p>第8回：5歳児の健康とその支援 遊びの発達とその支援</p> <p>第9回：健康な生活習慣の形成の指導、援助と評価</p> <p>第10回：テーマ別研究 子どもの姿を知る 情報機器及び教材の活用法</p> <p>第11回：援助計画（指導案）の作成 活用する教材の選定</p> <p>第12回：保護者向けおたよりの作成 情報機器の活用</p> <p>第13回：援助計画（指導案）に応じた模擬保育の実施</p> <p>第14回：安全教育と安全管理 幼保小接続と生涯発達</p> <p>第15回：まとめ 支援者の健康習慣</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | グループ学修を行い、ポスターセッションで発表する。 |
| 評価方法 | 筆記試験50% グループ発表30% 授業への取組20% (ワークシート、Moodleフィードバック) |
| 課題に対する フィード バック | ワークシートを返却する。 グループ学修については授業内でフィードバックする。 試験結果は期間を決めて問い合わせに答える。 |
| 指定図書 | 前橋明「乳幼児の健康」(第3版) 大学教育出版 |
| 参考図書 | 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」 河原紀子「0歳～6歳 子どもの発達と保育の本」学研 谷田貝公昭「幼児の基本的生活習慣」一芸社 林万里「やさしく学ぶからだの発達」全国障害者問題研究会 林万里「やさしく学ぶからだの発達 part2」全国障害者問題研究会 |
| 事前・ 事後学修 | 指定図書の関連する部分を予習・復習する。(目安時間40分) 「保育内容」「発達心理学」「子どもの保健」等での学びと結びつける。 子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、視野を広げる。 |
| オフィス アワー | 和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示します |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 保育内容（言葉） |
| 科目責任者 | 鈴木 まき子 |
| 単位数他 | 2単位（30時間） 選択 こども 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本授業は講義と演習により構成され、講義を通して保育内容 5 領域全体の理解と「言葉」の領域の位置付けについて理解する。そのうえで保育実践のあり方、指導法について、子どもの発達段階、個人特性、および保育環境という視点から学ぶ。演習では、保育計画（指導案）を作成し、実際に教材を用いて授業で発表する。さらに、保育・幼稚教育の歴史的経緯、現代の保育現場の多様性、現代的課題についても学び、これからの多様な保育のニーズに対応できる知識と実践力を身につける。 |
| 到達目標 | 「言葉」の領域のねらいに則り、保育の現場においてどのように具現化するか、その指導法について学び、子どもの特性や環境に配慮した保育実践を学ぶ。 1 子どもの特性や発達段階に配慮した教材作成や言葉かけができる。 2 保育の本質と保育と家庭生活の連続性を理解し、独自の保育指導案を作成する。 3 子どもの言葉を豊かに育む保育環境を構成し、実践する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 「ことば」について考える</p> <p>第 2 回：幼稚園教育要領および保育所保育指針について 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 について</p> <p>第 3 回：保育の基本と領域「言葉」</p> <p>第 4 回：わらべ歌の演習</p> <p>第 5 回：わらべ歌と乳幼児の言葉の発達</p> <p>第 6 回：言葉とコミュニケーション、発達の道筋① 乳幼児期の言葉、コミュニケーション、社会性の発達</p> <p>第 7 回：言葉とコミュニケーションの発達の道筋② 現代の乳幼児保育・教育の多様性と課題</p> <p>第 8 回：保育者の役割と援助について</p> <p>第 9 回：保育者が広げる物語の世界</p> <p>第 10 回：保育環境と言葉、体験を通して育つ言葉</p> <p>第 11 回：子育て広場での実践①乳児対象の絵本の読み語り—教材研究と活用の仕方—</p> <p>第 12 回：子育て広場での実践②幼児対象の絵本の読み語り —情報メディア・機器についての研究と活用—</p> <p>第 13 回：就学前の子どもを対象とした保育活動① ～附属こども園での実践のための活動計画の作成～</p> <p>第 14 回：就学前の子どもを対象とした保育活動② ～附属こども園での実践から行事とことばの関係を考える～</p> <p>第 15 回：まとめ ～実践での学びからことばを考える～</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 演習科目です。体験的に学ぶ中で、保育をする上での要点について考え、洞察を深めたいと考えます。 |
| 評価方法 | レポート・発表（指導案 模擬保育 付属園・子育て広場での取り組み）50% 小テスト 50% |
| 課題に対する フィード バック | 「子どもと言語表現」の授業と連動させる。子どもの成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等の文化教材を中心に保育現場で活かせる必要な言葉の表現技術を養うことができたか、「子育て広場」「付属園」での実践により振り返る。多様な保育のニーズに対応できる知識と実践力を身につけることができたか、PDCAサイクルにて確認し、保育者としての自信をつける。 |
| 指定図書 | 保育内容指導法「言葉」田上貞一郎著 高荒 正子著 萌文書林 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |
| 参考図書 | 授業中に適宜資料を配付する。 |
| 事前・ 事後学修 | 【事前学修】子育てひろば、附属こども園での実践にあたり、発達にあった視聴覚教材を選ぶこと、グループごとで活動内容に関する指導計画の作成と準備をします。 【事後学修】課題項目に基づいた振り返りを行い、レポートの提出をします。 (目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 初回にお知らせいたします。 |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 保育内容（人間関係） |
| 科目責任者 | 細田 直哉 |
| 単位数他 | 2単位（30時間） 選択 こども 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 「人にかかわる力」を育む領域「人間関係」の原理と実践を学び、実践の構想力を身につけます。「人にかかわる力」は適切な環境と援助のもとで育つ力です。また、子どもの「自分づくり」の発達過程に応じて必要な人間関係は異なるため、保育内容にもそれに応じた転換が必要になります。具体的な実践事例を通してこうした原理を学び、実践の構想力を培います。 |
| 到達目標 | 1. 子どもの「自分づくり」の発達過程と人間関係との関連を理解し、説明できる。 2. 領域「人間関係」に必要な援助と環境構成の基本的な知識と技術を説明できる。 3. 領域「人間関係」にかかわる諸実践や基本教材について学び、実践の構想力をつける。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> 担当者</p> <p>第1回：乳幼児教育の全体構造と領域「人間関係」のねらい・内容 細田</p> <p>第2回：子どもの「自分づくり」の発達過程と「人間関係」 細田</p> <p>第3回：乳児期（前期・中期）の発達と人間関係 細田</p> <p>第4回：乳児期（後期）の発達と人間関係 細田</p> <p>第5回：幼児前期の発達と人間関係 細田</p> <p>第6回：幼児中期の発達と人間関係 細田</p> <p>第7回：幼児後期の発達と人間関係 細田</p> <p>第8回：領域「人間関係」と他領域とのつながり（実践事例の紹介及び情報機器の活用） 細田</p> <p>第9回：領域「人間関係」と他領域とのつながり（実践と振り返り） 細田</p> <p>第10回：模擬保育①指導計画の作成 こども園における人間関係の観察 細田</p> <p>第11回：模擬保育②実践・評価・指導計画の改善 細田</p> <p>第12回：附属こども園における人間関係の観察 細田</p> <p>第13回：附属こども園における人間関係の観察のまとめと発表 細田</p> <p>第14回：領域「人間関係」にかかわる情報機器・教材・環境構成・援助 細田</p> <p>第15回：まとめと振り返り 細田</p> <p>※詳細な授業内容に関しては、第1回の授業時に提示します。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。 |
| 評価方法 | ポートフォリオ 100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。 レポートはルーブリックにより評価します。 |
| 課題に対す るフィード バック | ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。 |
| 指定図書 | 加藤繁美『0歳～6歳 心の育ちと対話する保育の本』（学研） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省） |
| 参考図書 | 河原紀子『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』（学研） |
| 事前・ 事後学修 | 事前：教科書の該当箇所を事前に読んでから授業に臨むこと（20分）。 事後：ポートフォリオ作りを各自進める（40分）。 |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。 |
| 評価方法 | ポートフォリオ 100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。 レポートはルーブリックにより評価します。 |
| 課題に対する フィード バック | ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。 |
| 指定図書 | 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省） |
| 参考図書 | 高山静子『学びを支える保育環境づくり』（小学館）、 高山静子『環境構成の理論と実践』（エイデル研究所）、 日置光久他『子どもと自然とネイチャーゲーム』（日本ネイチャーゲーム協会） |
| 事前・ 事後学修 | 事前：事前課題を準備して授業に臨むこと（20分）。 事後：事後課題やポートフォリオ作りを各自進める（20分）。 |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------------------|--|
| | <p>第14回：造形表現の実際と展開②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育の発表と検討・協議 <p>第15回：造形表現の実際と展開③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育の発表と検討・協議 ・まとめ <p>定期試験は実施しない</p> |
| アクティブ ラーニング | <p>LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有</p> <p>現場実践の動画による検討や考察、協議</p> <p>グループによる模擬保育の立案と発表</p> |
| 評価方法 | <p>(1) 授業で課した課題（模擬保育・保育案など）の評価…40%</p> <p>(2) 授業態度（学習記述、参加態度など）…60%</p> <p>※ルーブリックについて</p> <p>保育案や模擬保育で評価するが、ルーブリックは用いない。ただし、保育案や模擬保育については視点を授業内で示す。</p> |
| 課題に対する フィード バック | <p>振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。</p> <p>互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。</p> <p>模擬保育のための指導案や模擬保育の発表をもとにフィードバック、ならびにフィードフォワードする。</p> |
| 指定図書 | <p>『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）</p> |
| 参考図書 | <p>斎藤公子著「さくら・さくらんぼのリズムとうた」群羊社</p> <p>槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林）</p> <p>大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」（日本文教出版）</p> |
| 事前・ 事後学修 | <p>以下のような内容の事前・事後学修に取り組むものとして、それぞれの授業ごとに40分を目安に取り組むようにしましょう。</p> <p>和久田：Moodleによるフィードバック（事後学修）</p> <p>和久田：Moodleによる動画視聴（事前学修）</p> <p>鈴木：記述による学習記録（事後学修）・保育案の作成と模擬保育の準備（事前・事後学修）</p> <p>※保育案を作成するに当たっては、必ず作品の試作などして教材研究を深めましょう。</p> |
| オフィス アワー | <p>初回授業時に提示します。</p> |
| 実務経験に 関する記述 | <p>本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p> |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 保育内容総論 |
| 科目責任者 | 山内 博子 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 選択 こども 5 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 日本の幼児教育は、環境を通して行う教育である。その中で保育内容は、5 領域から発達を見通して組み立てている。そのため本科目においては、幼稚園や保育所において展開される保育内容を総合的に捉えなおし、保育実践につなげて理解することを目的とする。また保育内容を捉えるために保育カンファレンスの手法について学び、実践を行う |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容について長期的視点に立ちながら、保育計画を立てる必要を理解する ・子どもの主体性を引き出すための保育環境の構成について理解を深める |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： オリエンテーション —保育実習の振り返りを通して—</p> <p>第 2 回： 保育の基本と保育内容の理解</p> <p>第 3 回： 乳児クラスの保育の実際と発達</p> <p>第 4 回： 幼児クラスの保育の実際と発達</p> <p>第 5 回： 保育内容の考え方の変遷</p> <p>第 6 回： 保育内容と環境構成</p> <p>第 7 回： 長期的視点に立った保育計画の必要性</p> <p>第 8 回： 地域に根差した多様な保育展開</p> <p>第 9 回： 幼保小の連携と接続</p> <p>第 10 回： 保育内容を客観的に捉える手法</p> <p>第 11 回： 保育内容を総合的に捉える①（乳児クラス）</p> <p>第 12 回： 保育カンファレンス①（乳児クラス）</p> <p>第 13 回： 保育内容を総合的に捉える②（幼児クラス）</p> <p>第 14 回： 保育カンファレンス②（幼児クラス）</p> <p>第 15 回： 保育内容の課題</p> <p>定期試験</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | グループ討議や二人1組になって近隣の園の保育観察を行う |
| 評価方法 | 定期試験 (50%)、課題への取組 (30%)、受講態度 (20%) |
| 課題に対する フィード バック | 課題に対してだされた疑問など適宜フィードバックを行う |
| 指定図書 | 岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行「保育内容総論」同文書院 文部科学省『幼稚園教育要領解説』・厚生労働省『保育所保育指針解説』 |
| 参考図書 | 授業中に適宜資料を配付する。 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学習；2月の保育実習を踏まえ、5つの領域の内容を整理します。 事後学習；事前学習での学びを学生間で共有しながら保育内容を捉えなおし、保育者としての役割について人的環境・物的環境から課題を明らかにし、レポートとして提出します。 (目安時間 40分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 障害児保育 |
| 科目責任者 | 松下 恵美子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 障害のとらえ方や、障害児保育の考え方、保育における発達評価の大切さ、障害児保育が行われる現場について学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2. 様々な障害について理解し、こどもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する |
| 授業計画 | <p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：障害児保育とは。</p> <p>第 2 回：障害児保育の基本</p> <p>第 3 回：障害の理解と保育（1）知的障害</p> <p>第 4 回：障害の理解と保育（2）肢体不自由／聴覚障害／視覚障害</p> <p>第 5 回：発達が気になる子どもの理解と保育</p> <p>第 6 回：障害の理解と保育（3）自閉症スペクトラム／学習障害／注意欠如・多動性障害</p> <p>第 7 回：子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価</p> <p>第 8 回：個々の発達をうながす生活やあそびの環境</p> <p>第 9 回：他者とのかかわりと育ちあい</p> <p>第 10 回：職員間の協力関係</p> <p>第 11 回：家庭や関係機関との連携</p> <p>第 12 回：障害のある子どもの早期発見と支援</p> <p>第 13 回：障害のある子どもの就学に向けての支援</p> <p>第 14 回：障害のある子どもの発達を支える関連資源の現状と課題</p> <p>第 15 回：支援の場の広がりつつながり</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 演習科目です |
| 評価方法 | 授業態度・感想文 20%、試験 80% |
| 課題に対する フィード バック | リアクションペーパーへのコメント、返却。 |
| 指定図書 | 『障害児保育ワークブック』: 星山麻木 編著 萌文書林 |
| 参考図書 | 『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)、『保育所保育指針解説書』(厚生労働省) |
| 事前・ 事後学修 | 毎回ワークシートを使って事前課題・事後課題を出します。(目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は臨床心理士として、小児科クリニック、メンタルクリニック、学校、乳幼児健診等での相談業務の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 臨床心理学 |
| 科目責任者 | 藤田 美枝子 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 選択 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 臨床心理学は、心理学を中心とした知識や理論を用いて、こころの問題を抱えた人やその家族の理解と援助の方法を研究・実践する学問であり、現代社会において関心が高まっている学問である。主には、心理検査・心理治療・地域援助という3領域から成り立っており、各領域は、有機的なつながりをもちながら対人援助を実践する。歴史や理論を辿りながら、臨床心理学がどのように地域社会で発展し役に立ってきたのかを学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の基本的な知識を習得し、包括的に理解する。 2. 福祉現場における保育士やソーシャル・ワーカーとして、心理学的な知見を活用できる態度や知識を身につける。 3. 日常生活において活用できる臨床心理学の知識を習得・体験しながら、自己理解に努める。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： パーソナリティの心理</p> <p>第2回： パーソナリティをみる ―パーソナリティ検査法―</p> <p>第3回： 心の成り立ち ―交流分析とエゴグラム―</p> <p>第4回： 無意識のはたらき ―夢とコンプレクス―</p> <p>第5回： 自己を見つめる ―自己評価―</p> <p>第6回： 自己をつかむ ―自我同一性―</p> <p>第7回： 対人関係の心理</p> <p>第8回： 乳幼児期と母子関係</p> <p>第9回： 対人関係を振り返る ―対人地図―</p> <p>第10回： 対人態度を知る ―基本的対人態度―</p> <p>第11回： 人とのかかわり方 ―社会的スキル―</p> <p>第12回： 心理臨床の実際 ―乳幼児期―</p> <p>第13回： 心理臨床の実際 ―児童期―</p> <p>第14回： 心理臨床の実際 ―思春期から成人期―</p> <p>第15回： 心理臨床の地域活動と領域</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 心理テストの概要版等を使用しながら、実際のパーソナリティのアセスメントを学ぶ。 |
| 評価方法 | 筆記試験（70%）、課題提出物（30%）、計100% （課題提出物については、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する） |
| 課題に対する フィード バック | 毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。 |
| 指定図書 | 「これからを生きる心理学」 川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩 著 ナカニシヤ出版 |
| 参考図書 | 参考書については、授業中に授業中に随時連絡する。 |
| 事前・ 事後学修 | 教科書を事前によく読んでおくこと。事後学習はノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。（目安時間は、事前・事後学習それぞれ40分程度） |
| オフィス アワー | 2号館6階の2610 研究室。時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「臨床心理士」の実務経験を有する講師が、子ども家庭福祉における心理臨床の実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。 |
| 評価方法 | 実習先小学校からの評価 (40%)、実習ノート (30%)、 学生と教員との面談における振り返り (30%) 計 100% |
| 課題に対する フィード バック | 課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。 |
| 指定図書 | 授業時に資料配付 |
| 参考図書 | 小学校学習指導要領 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。(目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。 |
| 評価方法 | 実習先小学校からの評価 (40%)、実習ノート (30%)、 学生と教員との面談における振り返り (30%) 計 100% |
| 課題に対する フィード バック | 課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。 |
| 指定図書 | 授業時に資料配付 |
| 参考図書 | 小学校学習指導要領 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。(目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。 |
| 評価方法 | 実習先小学校からの評価 (40%)、実習ノート (30%)、 学生と教員との面談における振り返り (30%) 計 100% |
| 課題に対する フィード バック | 課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。 |
| 指定図書 | 授業時に資料配付 |
| 参考図書 | 小学校学習指導要領 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。(目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 国際バカロレア教育概論 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP 7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 国際バカロレア (IB) 教育の概要について四つの視点から概観する。①国際バカロレアの成り立ち、その発展、日本への導入の経緯 ②国際バカロレアのミッションの成り立ちとその意義 ③国際バカロレアの学習者像の意義。④グローバル人材を育くむ国際教育とバカロレア教育 |
| 到達目標 | 1. 国際バカロレアの概観を理解する。 2. わが国で実践されて来た教育と国際バカロレア教育の差異を理解する。 3. 各自が授業の進行に積極的に参加する。 |
| 授業計画 | <p><<授業内容・テーマ等>> <担当教員名></p> <p>第 1 回：授業のオリエンテーション 国際バカロレアの成り立ちとグローバル教育 (ヨーロッパ)</p> <p>第 2 回：国際バカロレアの成り立ちとグローバル教育 (米国)</p> <p>第 3 回：国際バカロレアとクルト・ハーン</p> <p>第 4 回：DP から MYP PYP への発展</p> <p>第 5 回：ミッションとそれに含まれる意義 ①国際教育と多様な文化と異文化</p> <p>第 6 回：ミッションとそれに含まれる意義 ②国際的教育と世界平和構築</p> <p>第 7 回：IB の学習者像 その意義と実践</p> <p>第 8 回：IB の学習者像：探求する人</p> <p>第 9 回：IB の学習者像：知識のある人、考える人 バランスのとれた人</p> <p>第 10 回：IB の学習者像：コミュニケーションができる人</p> <p>第 11 回：IB の学習者像：心を開く人 信念を持つ人 思いやりのある人</p> <p>第 12 回：IB の学習者像：挑戦する人</p> <p>第 13 回：IB の学習者像 振り返りのできる人</p> <p>第 14 回：グローバル人材の育成 人の違いを認めるという事</p> <p>第 15 回：グローバル人材の育成 教官を持って生涯に学ぶ事</p> <p>※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含まれます。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 全てに授業は担当学生によって進行する。 |
| 評価方法 | 授業担当成果：40% リアクションペーパー：30% リフレクション：30% 評価詳細は第一回授業にて説明する。ルーブリックは使用しない。 |
| 課題に対する フィード バック | 授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。 |
| 指定図書 | 授業開始のシラバスにて指定 基本的にプリント使用 |
| 参考図書 | 授業開始のシラバスにて指定 |
| 事前・ 事後学修 | 授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】 |
| オフィス アワー | 授業初回に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 国際バカロレア教育課程論 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 7セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP 7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 国際バカロレア・プログラムのカリキュラムはこれまでの日本のカリキュラムとは大きく異なる。そこで世界のカリキュラムと国際バカロレアのカリキュラムを比較分析する。教育過程におけるティーチング&ラーニングの視点から学習集団でどの様に協働の学びが期待されるかという視点から国際バカロレアのカリキュラムを捉えて行く。 |
| 到達目標 | 1. 国際バカロレアの各プログラムのカリキュラム構造を理解する。 2. それぞれのプログラムの相違点を認識する。 3. ATL、TAL などをしっかり理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：授業のオリエンテーション</p> <p>第 2 回：カリキュラムの理念と理論 I</p> <p>第 3 回：カリキュラムの理念と理論 II</p> <p>第 4 回：概念を理解させる為のカリキュラムとは</p> <p>第 5 回：世界のカリキュラムを概観する (欧米各国)</p> <p>第 6 回：世界のカリキュラムを概観する (アジア各国)</p> <p>第 7 回：PYP のカリキュラムの理念と実践</p> <p>第 8 回：MYP のカリキュラムの理念と実践</p> <p>第 9 回：DP のカリキュラムの理念と実践</p> <p>第 10 回：TOK、CAS、EE のカリキュラムでの位置付け</p> <p>第 11 回：カリキュラム構築における探究学習の保証</p> <p>第 12 回：ティーチング&ラーニングのためのカリキュラム構築</p> <p>第 13 回：カリキュラムと教員のあり方</p> <p>第 14 回：発展を続ける国際バカロレア・カリキュラム</p> <p>第 15 回：国際バカロレア・カリキュラムの今後の可能性</p> <p>※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含まれます。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 全てに授業は担当学生によって進行する。 |
| 評価方法 | 授業担当成果：40% リアクションペーパー：30% リフレクション：30% 評価詳細は第一回授業にて説明する。ルーブリックは使用しない。 |
| 課題に対する フィード バック | 授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。 |
| 指定図書 | 授業開始のシラバスにて指定 基本的にプリント使用 |
| 参考図書 | 授業開始のシラバスにて指定 |
| 事前・ 事後学修 | 授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】 |
| オフィス アワー | 授業の初回に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 国際バカロレア教育方法論 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 8セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP 7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 国際バカロレアを現場で実践していくためには その教育方法を確実に体得する必要がある。日本の教育を受け、日本で教育養成をされた教師にとって、国際バカロレアの教育方法を実践する事は想像以上に難しいのが現状である。そこで、当講ではユニット・プランの構築を中心に国際バカロレアの教育方法を探求していく。 |
| 到達目標 | 1. 21 世紀のティーチング&ラーニングに見合ったカリキュラムの実践への取り組み 2. 作成されたカリキュラムがダイバースな国際社会や地域社会を反映する重要度 3. IB 機構により変遷して行くカリキュラムへの対応のあり方 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：授業のオリエンテーション 及び 当講義の課題の提示</p> <p>第 2 回：TOK のガイドブックの研究</p> <p>第 3 回：学習の誠実性ガイドブックの研究</p> <p>第 4 回：CAS の指導の手引きの研究</p> <p>第 5 回：課題研究の手引きの研究</p> <p>第 6 回：各科目のガイドブックの研究</p> <p>第 7 回：社会構成主義について探る</p> <p>第 8 回：社会構成主義と国際バカロレア教育</p> <p>第 9 回：コンピテンシーと国際バカロレア</p> <p>第 10 回：学習者のセルフという概念</p> <p>第 11 回：ファシリテーターとしての教師とセルフ</p> <p>第 12 回：セルフ・エスティームと国際バカロレア</p> <p>第 13 回：IB のテキストブックの研究</p> <p>第 14 回：ユニット・プランの仕上げ</p> <p>第 15 回：今回の授業で学んだ事をもと書きあげたユニット・プランの共有</p> <p>※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。</p> <p>※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含まれます。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 全てに授業は担当学生によって進行する。 |
| 評価方法 | 授業担当成果：40% リアクションペーパー：30% リフレクション：30% 評価詳細は第一回授業にて説明する。ルーブリックは使用しない。 |
| 課題に対する フィード バック | 授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。 |
| 指定図書 | 授業開始のシラバスにて指定 基本的にプリント使用 |
| 参考図書 | 授業開始のシラバスにて指定 |
| 事前・ 事後学修 | 授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】 |
| オフィス アワー | 授業初回に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 国際バカロレア教育学習アセスメント |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 7セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP 7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 国際バカロレアにおけるアセスメントは これまでの日本の既存の評価とはずいぶん異なる。日本の評価も相対評価から絶対評価に変わりつつある。しかし、わが国では大学受験という関門で相対評価が控えており、絶対評価を促進する足かせとなっている。このような環境で、どの様に国際バカロレアのアセスメントを捉えるべきかを探っていく。 |
| 到達目標 | 1. 学校文化での評価の在り方と日本文化の在り方を把握する 2. 評価する時に IB ではどのような哲学で行うか理解する 3. ルーブリック評価を体得する |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：学習とは何か。その評価はどのようにすべきか。</p> <p>第 2 回：学習のアチーブメントの捉え方とその評価について</p> <p>第 3 回：世界の高等教育における入学試験基準と評価について (I) 相対評価中心のアジアの国々の高等教育入試</p> <p>第 4 回：世界の高等教育における入学試験基準と評価について (II) 資格試験が中心の欧米の高等教育機関の選抜について</p> <p>第 5 回：相対評価と絶対評価における文化的背景</p> <p>第 6 回：大学入試におけるエッセイと推薦状の在り方</p> <p>第 7 回：日本社会における評価の抱える課題</p> <p>第 8 回：日本人にとって偏差値社会と評価のあり方</p> <p>第 9 回：国際バカロレアにおけるアセスメントの実践 (ルーブリック) 方法</p> <p>第 10 回：国際バカロレアの評価と教師の視点</p> <p>第 11 回：国際バカロレアにおけるアセスメントの標準化について</p> <p>第 12 回：DP スコアと予想スコアの捉え方</p> <p>第 13 回：アセスメントの実践 I</p> <p>第 14 回：アセスメントの実践 II</p> <p>第 15 回：当授業を通して、刷新された自分の評価への価値観を共有する ※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含まれます。</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 全てに授業は担当学生によって進行する。 |
| 評価方法 | 授業担当成果：40% リアクションペーパー：30% リフレクション：30% 評価詳細は第一回授業にて説明する。ルーブリックを使用する。基準等は授業内にて説明する。 |
| 課題に対する フィード バック | 授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。 |
| 指定図書 | 授業開始のシラバスにて指定 基本的にプリント使用 |
| 参考図書 | 授業開始のシラバスにて指定 |
| 事前・ 事後学修 | 授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】 |
| オフィス アワー | 初回授業にて提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 国際バカロレア教育総合演習 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 8セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP 7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 国際バカロレアの授業を通して理解した事をもとに演習を行う。小学校の IB 実践を見学し、最終的に実習を体験する。見学・実習の計画を自ら設定し、実践し、最後にリフレクションを行なう。当授業担当の教師はこの演習では指導者でなく、ファシリテーターとしての役割を担う。 |
| 到達目標 | 見学・実習の計画を作成 見学・実習のリフレクション作成 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：現場に出るため、本科目の趣旨と目的、授業計画、本学の教育目的の理解 参加授業の設定</p> <p>第 2 回：IB 小学校のコーディネーターを招聘し、実践経験の講話</p> <p>第 3 回：IB 小学校のコーディネーターと、学生たちと見学の為の協働計画案づくり</p> <p>第 4 回：IB 小学校のコーディネーターと最終計画</p> <p>第 5 回 第 6 回：第 7 回：授業見学（一週間同授業参観）</p> <p>第 8 回：見学のリフレクションの共有</p> <p>第 9 回：実習に向けて各自ユニット・プランのコラボレーション(1)</p> <p>第 10 回：実習に向けて各自ユニット・プランのコラボレーション（II）</p> <p>第 11 回 第 12 回 実習授業</p> <p>第 13 回：各自実習授業のリフレクションの共有（I）</p> <p>第 14 回：各自実習授業のリフレクションの共有（II）</p> <p>第 15 回：実習校のコーディネーター、担当教員とリフレクションの共有</p> <p>※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含まれます。</p> |
| アクティブラーニング | 全てに授業は担当学生によって進行する。 |
| 評価方法 | リフレクション（+自己評価）：30%（+30%） 学生相互評価 20% 総合評価 20% ルーブリックは使用しない。 |

| | |
|---------------|---|
| 課題に対するフィードバック | 授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。 |
| 指定図書 | 授業開始のシラバスにて指定 基本的にプリント使用 |
| 参考図書 | 授業開始のシラバスにて指定 |
| 事前・事後学修 | 授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】 |
| オフィスアワー | 授業初回にて提示する。 |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 多文化共生と教育 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 選択 こども 7 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | グローバル化の進行に伴い、国籍や文化的背景が異なる人々との間の相互理解と共生に向けて必要とされる点 (価値観・ゴール・方法) について学ぶ。外国籍の子どもたちの学習・生活支援について、教育現場等に出向き理解を深める。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域共生社会について、その理論と実際を理解する。 2. 国際理解教育について理解する。 3. 外国籍の子どもたちの支援について理解し、方法を身につける。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 多文化共生社会とは</p> <p>第2回 異文化の人々との共生についての理解</p> <p>第3回 地域共生モデル事業 (浜松市の取組)</p> <p>第4回 コミュニティ・エンパワメント、コミュニティリーダーの育成</p> <p>第5回 国際理解教育とは (概要)</p> <p>第6回 国際理解教育とは (実践事例)</p> <p>第7回 外国籍の子どもたちとその保護者について (現状やニーズの把握)</p> <p>第8回 外国籍の子どもたちとその保護者に対する支援 (浜松市等の取組)</p> <p>第9回 就学前教育・小学校等のクラスルームでの支援 (概要)</p> <p>第10回 就学前教育・小学校等のクラスルームでの支援 (実践事例)</p> <p>第11回 外国籍の子どもたちに対する生活・学習支援 (事前学習)</p> <p>第12回 外国籍の子どもたちに対する生活・学習支援 (実践1回目)</p> <p>第13回 外国籍の子どもたちに対する生活・学習支援 (実践2回目)</p> <p>第14回 外国籍の子どもたちに対する生活・学習支援 (事後学習・評価)</p> <p>第15回 まとめ</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 現場での観察・実践・記録をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | レポート課題・振り返りシート 80%、授業への取り組み 20% |
| 課題に対する フィード バック | リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。 |
| 指定図書 | プリント等を配布する。 |
| 参考図書 | 授業内にて随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること |
| オフィス アワー | 初回に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 多様な子どもの理解 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 子どもの複雑化・多様化した課題（不登校・貧困・外国国籍・発達支援等）に対応するための「チーム学校」としてのあり方を学ぶ。個々の問題やニーズの理解と方法、協力体制の作り方について理解を深める。 |
| 到達目標 | 1. 様々な課題を抱える子どもやその家庭の現状について理解する。 2. 支援のための方法を理解する。 3. チーム・アプローチについて理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 特別な支援を必要とする子どもについての理解（現状）</p> <p>第2回 発達障害特性がある子どもについての理解</p> <p>第3回 発達障害特性がある子どもへの支援（事例検討）</p> <p>第4回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもについての理解</p> <p>第5回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもへの支援（事例検討①）</p> <p>第6回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもへの支援（事例検討②）</p> <p>第7回 言語・文化の異なる子ども（外国国籍）についての理解</p> <p>第8回 家庭の問題について（貧困）</p> <p>第9回 家庭の問題について（養育の問題）</p> <p>第10回 その他課題がある子どもの理解（LEBT、ギフテッド）</p> <p>第11回 学校や地域におけるチーム・アプローチについて（概要）</p> <p>第12回 学校や地域におけるチーム・アプローチについて（実践事例）</p> <p>第13回 クラス運営—子ども同士の関わり</p> <p>第14回 支援のための計画・評価</p> <p>第15回 まとめ</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | レポート課題・振り返りシート 80%、授業への取り組み 20% ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。 |
| 指定図書 | プリント等を配布する。 |
| 参考図書 | 授業内にて随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること |
| オフィス アワー | 初回に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 多様な子どもの支援 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 複雑化・多様化する子どもの問題構造と支援方法について、事例から理解する。子どもの背景・文脈を含めた多様なアセスメントと問題解決の実際を学ぶ。「チーム学校」として機能するためのあり方について理解を深める。 |
| 到達目標 | 1. 個別アセスメントの方法を理解する。 2. 学習支援の方法について理解する。 3. 校（園）内連携・専門職連携の実際について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 支援のためのアセスメントとは</p> <p>第2回 アセスメントの方法</p> <p>第3回 自己肯定感・自己決定力を高める関わりの方法</p> <p>第4回 自己肯定感・自己決定力を高める関わりの方法（ワーク）</p> <p>第5回 学習支援の基本</p> <p>第6回 個々の課題に即した授業展開</p> <p>第7回 学習のためのユニバーサル・デザイン</p> <p>第8回 個別課題に合わせて指導計画と模擬授業（保育）①</p> <p>第9回 個別課題に合わせて指導計画と模擬授業（保育）②</p> <p>第10回 模擬授業に対するフィードバック</p> <p>第11回 ソーシャルワーク的アプローチ（貧困・養育の問題）</p> <p>第12回 保護者に対する相談支援の技法</p> <p>第13回 校（園）内連携・専門職連携の実際① 事例からの考察</p> <p>第14回 校（園）内連携専門職連携の実際② 支援のための計画（ワーク）</p> <p>第15回 まとめ</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | ワークや事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | レポート課題・振り返りシート 80%、授業への取り組み 20% ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。 |
| 指定図書 | プリント等を配布する。 |
| 参考図書 | 授業内にて随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること |
| オフィス アワー | 初回に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | プログラミング教育 I |
| 科目責任者 | 鈴木 光男 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 選択 こども 7 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 2017 年公示の小学校学習指導要領で実施することが示されたプログラミング教育のねらいについて検討し理解した上で、実施内容が例示されている算数・理科・総合的な学習の時間や、それ以外の教科学習等における授業実践例をもとに具体的な実践のあり方を分析・検討する。また、小学生が使用可能なプログラミング言語を体験的に学び、それらの授業での活用方法等について議論する。これらをとおして、小学校のプログラミング教育についての理解を深められるようにする。 |
| 到達目標 | 1. プログラミング教育のねらい、基礎について理解する。 2. 小学校におけるプログラミング教育のねらいや先進的实践事例を理解し、その上で実際にプログラミングを体験し、それらをもとに小学校プログラミング教育実施に向けての理解と見通しを持つことができる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：小学校プログラミング教育の内容と導入の経緯</p> <p>第 2 回：先進的に行われている授業実践事例の検討(算数科学習を主として)</p> <p>第 3 回：先進的に行われている授業実践事例の検討(理科学習を主として)</p> <p>第 4 回：先進的に行われている授業実践事例の検討(総合的な学習の時間を主として)</p> <p>第 5 回：子供たちが使用可能なプログラミング言語</p> <p>第 6 回：プログラミング体験① (誰にでもできる簡単な作品作りを行う)</p> <p>第 7 回：プログラミング体験② (体験①を踏まえて工夫・応用する)</p> <p>第 8 回：その他の授業実践の分析と検討① (グループで実践事例を収集し分析・検討)</p> <p>第 9 回：その他の授業実践の分析と検討① (グループごとの実践事例の紹介・共有)</p> <p>第 10 回：プログラミング教育の取り入れ方に関する検討とディスカッション</p> <p>第 11 回：プログラミング教育実践の開発① (グループで自分たちの学習指導案を作成)</p> <p>第 12 回：プログラミング教育実践の開発② (グループで学習指導案をもとに模擬授業の準備)</p> <p>第 13 回：プログラミング教育実践の開発③ (模擬授業の発表)</p> <p>第 14 回：プログラミング教育実践の開発④ (模擬授業の振り返り)</p> <p>第 15 回：授業のまとめと振り返り</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場授業実践の収集・検討や考察・協議 グループによる模擬授業の立案と発表 |
| 評価方法 | (1) 授業で課した課題 (模擬授業・指導案など) の評価…40% (2) 授業態度 (学習記述、参加態度など) …60% |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したりアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 |
| 指定図書 | 授業時に資料配付 |
| 参考図書 | 特になし |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分) |
| オフィス アワー | 初回の授業で提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | プログラミング教育Ⅱ |
| 科目責任者 | 鈴木 光男 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 こども 8セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 小学校学習指導要領で、新たな学習内容としてプログラミング教育が導入された。学修指導要領では、理科や算数でのプログラミング教育の例示があるが、これらの教科のみならず多様な教科や総合的な学習の時間での教科横断的な学習指導が必要となる。そこでは、ねらいである論理的思考力の育成や情報システム理解を目的とする授業づくりが求められている。そこで、これらのことを体験的に学習し、授業づくりのアイデアを具体的に考えられるようにする。 |
| 到達目標 | 1. 入出力インターフェースを用いたプログラミングによる制御の基礎を理解する。 2. ロボット教材や子供向けプログラミング言語を用いた学習指導法について理解する。 3. プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業づくりについて理解し、教材研究をとおして模擬授業を公開する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：小学校プログラミング教育のねらいと基礎</p> <p>第2回：入出力インターフェースを用いた情報システム理解</p> <p>第3回：ロボット教材を用いた創作表現活動と論理的思考力の育成</p> <p>第4回：プログラミング言語を用いた創作表現活動と論理的思考力の育成① (Viscuit 等)</p> <p>第5回：プログラミング言語を用いた創作表現活動と論理的思考力の育成② (Scratch 等)</p> <p>第6回：プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業づくり</p> <p>第7回：プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業実践の分析と検討① (グループで実践事例を収集し分析・検討)</p> <p>第8回：プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業実践の分析と検討② (グループで実践事例を収集し分析・検討)</p> <p>第9回：その他の授業実践の分析と検討① (グループごとの実践事例の紹介・共有)</p> <p>第10回：プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業実践の分析と検討③ (グループで実践事例を収集し分析・検討)</p> <p>第11回：プログラミング教育実践の開発① (グループで自分たちの学習指導案を作成)</p> <p>第12回：プログラミング教育実践の開発② (グループで学習指導案をもとに模擬授業の準備)</p> <p>第13回：プログラミング教育実践の開発③ (模擬授業の発表)</p> <p>第14回：プログラミング教育実践の開発④ (模擬授業の振り返り)</p> <p>第15回：授業のまとめと振り返り</p> |

| | |
|-------------------|---|
| アクティブ ラーニング | LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場授業実践の収集・検討や考察・協議 グループによる模擬授業の立案と発表 |
| 評価方法 | (1) 授業で課した課題 (模擬授業・指導案など) の評価…40% (2) 授業態度 (学習記述、参加態度など) …60% |
| 課題に対するフィード バック | 各回に記入したりアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 |
| 指定図書 | 授業時に資料配付 |
| 参考図書 | 特になし |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分) |
| オフィス アワー | 初回の授業で提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 国際教育実習 I・II |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 こども 4~8セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | <p>本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。</p> <p>「国際教育実習II」ではIの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 太田雅子、Patterson、二宮貴之 <授業内容・テーマ等></p> <p>実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる—実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む）</p> <p>本実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先（候補）： インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト） 2. 実習内容 ① 見学・観察実習 ② 参加実習 3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 4. 評価・反省（まとめ） <p>実習事後指導（帰国後）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ② 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③ 実習報告会の準備をする ④ 実習報告会にて発表する |

| | |
|------------|--|
| アクティブラーニング | |
| 評価方法 | <p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表　ルーブリックは用いない。 |
| 指定図書 | 資料配布 |
| 参考書 | 随時紹介する。 |
| 事前・事後学修 | <p>事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる</p> <p>事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える</p> |
| オフィスアワー | 初回実習指導時にお知らせいたします。 |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は、小学校、幼稚園教諭・認定こども園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 保育原理 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 こども 1 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 子どもの育ちは、その社会環境に大きく影響をされる。保育の現状と課題は何か、それに対してどのような保育が求められるかを学ぶ。保育の思想・歴史・法令・制度について理解を深める。保育所の役割・責任と保育所保育の基本（保育所保育指針に示される内容）について理解する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義と目的について理解する（法的根拠・制度的位置づけを理解する） 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想・歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：保育の意義と目的—保育の理念・概念</p> <p>第2回：子ども家庭福祉と保育・保育の社会的役割と責任</p> <p>第3回：保育に関する法令・制度（子ども・子育て支援制度）</p> <p>第4回：保育の目標及び内容（保育所保育指針）</p> <p>第5回：保育に関する基本原則—環境を通して行う保育</p> <p>第6回：保育に関する基本原則—遊びを通しての学び</p> <p>第7回：子どもの発達・学びと保育・モンテッソーリ・メソッドから考察する ゲストスピーカー</p> <p>第8回：子どもの健全な育ちと子育て—モンテッソーリ・メソッドから考察する ゲストスピーカー</p> <p>第9回：保育における養護（子どもの健康・安全）</p> <p>第10回：保護者支援（地域子育て支援）</p> <p>第11回：日本における保育の思想・歴史の変遷・制度</p> <p>第12回：北欧における保育の思想・歴史の変遷・制度</p> <p>第13回：オセアニアにおける保育の思想・歴史の変遷・制度</p> <p>第14回：子どもの育ちと社会環境、現代の保育（育児）の課題と取り組み</p> <p>第15回：まとめ（小テスト）</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 提示された教材（講義・DVD・資料）もとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | 小テスト 40%、レポート課題 30%、授業への取り組み 30% レポート課題はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーを元に次の授業の中でフィードバックをする。 |
| 指定図書 | 2017 年改訂「保育所保育指針（解説付き）」 |
| 参考図書 | 授業内にて随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること |
| オフィス アワー | 初回に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 子ども家庭支援論 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 現代の家族を取り巻く社会環境と家庭生活における人間関係についての理解を深め、なぜ支援が必要となるのか、その背景要因や支援の意義について学ぶ。また、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援の展開、地域の資源の活用、関係機関との連携・協力について理解する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代家族における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向・展望について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： 子ども家庭福祉の理念と概念</p> <p>第2回： 子ども家庭福祉の歴史の変遷</p> <p>第3回： 現代家族をめぐる子育て環境</p> <p>第4回： 子どもの人権擁護</p> <p>第5回： 児童の権利に関する条約</p> <p>第6回： 子ども家庭福祉の制度・法体系・実施体系</p> <p>第7回： 児童福祉施設</p> <p>第8回： 子ども家庭福祉の専門職</p> <p>第9回： 子ども家庭福祉の現状と課題</p> <p>第10回： 虐待・DVの防止</p> <p>第11回： さまざまな家族（貧困・外国籍の子ども）とのかかわり</p> <p>第12回： 保育所等における家庭への支援（地域子育て支援）</p> <p>第13回： 社会的養護における家庭への支援</p> <p>第14回： 子ども家庭福祉の動向と展望</p> <p>第15回： 振り返りとまとめ</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | グループ学習による実際の事例等を用いた子ども・家庭への支援についての演習を取り入れて行う。 |
| 評価方法 | 平常点（30％ 毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）、定期試験（70％）ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | 毎回のリアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。 |
| 指定図書 | 「子どもの福祉と子育て家庭支援」 星野正明（編著） （株）みらい |
| 参考図書 | 参考書については、授業中に紹介する。 |
| 事前・ 事後学修 | 教科書を事前によく読んでおくこと。また、授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。 |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼保連携型認定こども園」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 社会的養護 I |
| 科目責任者 | 柴田 俊一 |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 選択 こども 3 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 社会的養護を必要とする子どもとその家族の状況を理解し、日本における社会的養護の制度・内容・現状・問題点等について学ぶ。また、現在の大きな問題である子ども虐待について発見・対応・機関連携の方法の実際について学び、予防に向けた取り組みを考える。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の子どもと家庭における問題の把握と、児童相談所への相談内容を学ぶ。 2. 社会的養護の意味を理解し、その意義と歴史について学ぶ 3. 児童福祉施設について理解し、入所中の子どもおよび保護者への支援方法について学ぶ。 4. 子ども虐待の現状と対応について理解し、予防に向けた取り組みを考える。 |
| 授業計画 | <p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回： 現代の多様な家族の特徴、要保護児童が生じる原因</p> <p>第 2 回： 児童相談所への相談内容</p> <p>第 3 回： 社会的養護とは何か ～その意義と歴史～</p> <p>第 4 回： 社会的養護の制度や実施体系</p> <p>第 5 回： 社会的養護の特質と基本原理</p> <p>第 6 回： 児童福祉施設の種類と特徴</p> <p>第 7 回： 社会的養護の相談機関</p> <p>第 8 回： 子ども虐待の定義・発見・対応・機関連携</p> <p>第 9 回： 子ども虐待が生じる背景と予防</p> <p>第 10 回： 施設養護の実際①（日常生活および自立支援）</p> <p>第 11 回： 施設養護の実際②（治療的支援）</p> <p>第 12 回： 施設養護の実際③（家族・地域との関係調整）</p> <p>第 13 回： 社会的養護とソーシャルワーク</p> <p>第 14 回： 児童福祉施設職員の資質とメンタルヘルス</p> <p>第 15 回： 今後の社会的養護のあり方と課題</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | マスコミでとりあげられた最近の社会的養護における問題等を提示し、グループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。 |
| 評価方法 | 平常点 (30%)、定期試験 (70%) (平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する) |
| 課題に対する フィード バック | 毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。 |
| 指定図書 | 「社会的養護」小池由佳・山縣文治編著 ミネルヴァ書房 2012 |
| 参考図書 | 参考書については、授業中に紹介する。 |
| 事前・ 事後学修 | 教科書および参考書を事前によく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。 |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は児童相談所心理判定員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 保育者論 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 こども 2セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 保育のプロフェッショナルを目指すとはどういうことなのかを考察します。保育士（保育教諭）の責務や倫理について理解を深めます。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理について理解し説明することができる。 2. 保育士（保育教諭）の制度的位置づけを理解する。 3. 保育士（保育教諭）の専門性について考察し、理解する。 4. 保育士（保育教諭）の連携・協働について理解する。 5. 保育士（保育教諭）の資質向上とキャリア形成について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：「いのち」を育むって？ 保育って何？保育者を目指すと思ったのはなぜ？</p> <p>第2回： 保育士（保育教諭）の制度的位置づけ</p> <p>第3回： 保育園の目的・内容と保育士の役割・保育士の専門的な知識と技術とは？</p> <p>第4回： 幼児教育の目的・内容と保育者の役割</p> <p>第5回： 「いのち」を守るって？</p> <p>第6回： 保育者の資質として求められること</p> <p>第7回： 保育士の責務と倫理—子どもの最善の利益の尊重・子どもの発達保障 保護者との協力・プライバシーの保護</p> <p>第8回： 保育士の責務と倫理—利用者の代弁・地域子育て支援 専門職としての責務</p> <p>第9回： 連携・協働・チームワークに必要なこと</p> <p>第10回： 保育観とは？</p> <p>第11回： 自分の理想とする保育</p> <p>第12回： 子どもと保育の実際：保育現場見学（こども園）</p> <p>第13回： こども園を見学して—ディスカッション</p> <p>第14回： 保育者を目指す者としての成長、キャリア・パス、研修</p> <p>第15回： まとめと今後の課題（小テスト）</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | こども園見学・協同的ワーク等を通して体験的に理解する方法を用いる。提示された教材もとにグループディスカッションや発表を行う。 |
| 評価方法 | 小テスト 50% 課題提出物 30% 授業への取り組み 20% 演習・課題提出物・小テストにより評価をするが、ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパーを次の回にできる限り返却する。また授業の中でそれについてのフィードバックをする。 |
| 指定図書 | 2017年改訂「保育所保育指針解説」 柏女霊峰監修「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会 |
| 参考図書 | 授業の中で随時提示します。 |
| 事前・ 事後学修 | 各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること |
| オフィス アワー | 初回授業において提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は幼稚園教諭・認定こども園園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 |
| 科目責任者 | 細田 直哉 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 1セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 子育て家庭をめぐる状況と課題を理解し、生涯発達や発達援助に関する理論を学ぶことによって、親子関係や家族関係を発達の観点から捉え、子どもおよび子育て家庭を包括的に援助できる知識・技術を習得する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性・各時期の移行・発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：イントロダクション：授業の進め方・「子育て支援」と「子どもの心の育ち」</p> <p>第 2 回：子育て家庭をめぐる現状と課題①：子ども虐待とその理解</p> <p>第 3 回：子育て家庭をめぐる現状と課題②：多様な家庭とその理解</p> <p>第 4 回：子育て家庭をめぐる現状と課題③：子育て家庭の事件についての討論</p> <p>第 5 回：子どもの生活環境と心の健康</p> <p>第 6 回：子どもの発達とライフサイクル①「発達」とは何か・乳幼児期・学童期</p> <p>第 7 回：子どもの発達とライフサイクル②青年期・成人期・老年期・生涯発達の考え方</p> <p>第 8 回：子どもの発達を支える玩具①遊びと玩具の理論・手作り玩具の計画</p> <p>第 9 回：子どもの発達を支える玩具②手作り玩具の製作・実践</p> <p>第 10 回：子どもとの関係づくり・発達の援助の多様な方法</p> <p>第 11 回：親との関係づくり・子育て支援の多様な方法</p> <p>第 12 回：子育て支援ひろばの計画</p> <p>第 13 回：子育て支援ひろばの実践</p> <p>第 14 回：子育て支援ひろばの振り返り</p> <p>第 15 回：まとめ</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 各回のテーマに関連した実践的な課題に基づいたディスカッションを行ったり、講義で学んだ理論に基づき子育て支援ひろばの計画を立て、親子の支援の実践を行ったりします。 |
| 評価方法 | 各自の学修成果をまとめたポートフォリオを100%として評価しますが、その中に授業態度を含めた総合的な評価を行います。 |
| 課題に対する フィード バック | レポート課題・実践課題についてはルーブリックを提示し、フィードバックを行います。 |
| 指定図書 | 高山静子『子育て支援 ひだまり通信 遊びとしつけの上手なコツ』（チャイルド本社） |
| 参考図書 | 高山静子『子育て支援の環境づくり』（エイデル研究所）、河原紀子『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』（学研） |
| 事前・ 事後学修 | 事前：教科書の指定されたページを予習しておくこと（20分） 事後：授業中に出された課題に取り組むこと（20分） |
| オフィス アワー | 最初の授業の際に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「子育て支援ひろば 発達相談員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|-------|--|-----|--|-------|-----|---------------------|-------|-----|---------------------|-------|-----|-----------------------|-------|-----|-----------|-------|-----|---|-------|-----|------------|------|-----|-----------------------|------|-----|----------------------|------|------|--------------------------|-------|------|----------------------|-------|------|----------------|-------|------|-----------------|-------|------|------------|-------|------|------------------|-------|
| 科目名 | 子どもの保健 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目責任者 | 市江和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 こども 3セメスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目概要 | 子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育や生理機能の成長・発達、保健との関連、健康状態の把握と主な事故や疾病等の特徴を学ぶ。また、疾病の予防や適切な対応・方法、保育所保育指針に示される「養護」について、虐待防止、他職種との連携・協働について理解を深める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長・発達の特徴、各発達段階における成長・発達の形態・機能的側面、心理・社会的側面について理解する。 2. 成長・発達における親・家族の関係について理解する。 3. 現代社会における小児の健康状態と環境の問題と課題について学ぶ。 4. 小児の食生活、基本的生活習慣について理解する。 5. 小児保健の動向を知り、小児の健全な成長・発達を支える養護について理解する。 6. 乳幼児の健康診査と保健指導、小児の安全対策・応急処置、小児の主な疾患と予防および適切な対応をを学び、保育における養護について理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>小児と家族の心身の健康と保健の意義 健康および成長・発達に関するワークシートと学習の進め方</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>小児の成長・発達（1）形態・機能的側面</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>小児の成長・発達（2）心理・社会的側面</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>現代社会における小児の健康の現状と発達評価</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>発達と母子相互作用</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>小児の虐待を取り巻く環境と虐待が小児に与える影響 小児保健に関するワークシートと学習の進め方</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>小児期の栄養と食生活</td> <td>宮谷 恵</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>小児の基本的生活習慣（1）新生児期・乳児期</td> <td>宮谷 恵</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>小児の基本的生活習慣（2）幼児期・学童期</td> <td>宮谷 恵</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>小児保健の動向（1）小児を取り巻く社会環境と法律</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>小児保健の動向（2）小児保健に関する統計</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>乳幼児期の健康診査と保健指導</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>小児の事故と安全対策・応急処置</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>小児の主な疾病の特徴</td> <td>市江 和子</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>小児の主な疾病の予防と適切な対応</td> <td>市江 和子</td> </tr> </table> | | | 第1回 | 小児と家族の心身の健康と保健の意義 健康および成長・発達に関するワークシートと学習の進め方 | 市江 和子 | 第2回 | 小児の成長・発達（1）形態・機能的側面 | 市江 和子 | 第3回 | 小児の成長・発達（2）心理・社会的側面 | 市江 和子 | 第4回 | 現代社会における小児の健康の現状と発達評価 | 市江 和子 | 第5回 | 発達と母子相互作用 | 市江 和子 | 第6回 | 小児の虐待を取り巻く環境と虐待が小児に与える影響 小児保健に関するワークシートと学習の進め方 | 市江 和子 | 第7回 | 小児期の栄養と食生活 | 宮谷 恵 | 第8回 | 小児の基本的生活習慣（1）新生児期・乳児期 | 宮谷 恵 | 第9回 | 小児の基本的生活習慣（2）幼児期・学童期 | 宮谷 恵 | 第10回 | 小児保健の動向（1）小児を取り巻く社会環境と法律 | 市江 和子 | 第11回 | 小児保健の動向（2）小児保健に関する統計 | 市江 和子 | 第12回 | 乳幼児期の健康診査と保健指導 | 市江 和子 | 第13回 | 小児の事故と安全対策・応急処置 | 市江 和子 | 第14回 | 小児の主な疾病の特徴 | 市江 和子 | 第15回 | 小児の主な疾病の予防と適切な対応 | 市江 和子 |
| 第1回 | 小児と家族の心身の健康と保健の意義 健康および成長・発達に関するワークシートと学習の進め方 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 小児の成長・発達（1）形態・機能的側面 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 小児の成長・発達（2）心理・社会的側面 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 | 現代社会における小児の健康の現状と発達評価 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 | 発達と母子相互作用 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 | 小児の虐待を取り巻く環境と虐待が小児に与える影響 小児保健に関するワークシートと学習の進め方 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回 | 小児期の栄養と食生活 | 宮谷 恵 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回 | 小児の基本的生活習慣（1）新生児期・乳児期 | 宮谷 恵 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第9回 | 小児の基本的生活習慣（2）幼児期・学童期 | 宮谷 恵 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回 | 小児保健の動向（1）小児を取り巻く社会環境と法律 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回 | 小児保健の動向（2）小児保健に関する統計 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回 | 乳幼児期の健康診査と保健指導 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回 | 小児の事故と安全対策・応急処置 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回 | 小児の主な疾病の特徴 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回 | 小児の主な疾病の予防と適切な対応 | 市江 和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------|--|
| アクティブラーニング | 「現代社会における健康の現状と発達評価」においては、小グループで演習を取り入れ、発達評価を実施する。 |
| 評価方法 | 筆記試験 90%、課題 10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対するフィードバック | 学習内容に関するワークシートを課題とし学習の進め方を随時説明する。授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。 |
| 指定図書 | 市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2019 |
| 参考図書 | 授業中に随時連絡する。 |
| 事前・事後学修 | 成長・発達、小児保健に関するワークシートで、事前事後学修を 40 分進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修で復習を行ってください。 |
| オフィスアワー | 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| 科目名 | 子どもの食と栄養 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|-------------|---------|-------------|-----------|-------------|------|----------------|------|---------------------|------|----------------------|------|---------------|------|-------------------------|------|--------------|------|--------------|------|--------------|------|--------------|------|--------------------------|------|---------------------|------|-------------------------------|------|------------------------|------|
| 科目責任者 | 金谷 節子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 こども 2セメスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>生体を構成する 60 兆個の細胞は、個人のもつ DNA を原図に日々入れ替わっており、その原料となるのが 1 回、1 回の食事である。これをターンオーバーと呼び、個人が持つ遺伝的要因と食事および食生活などの環境要因が大きく関与する。さらに遺伝的要因があっても、食事をデザインすることで遺伝子の発現を左右することも可能となっている。小児栄養の基本的理論を体系的に理解し、保育の実際との関連において実践的に理解する。</p> <p>一方的に講義を聴くのではなく、討論への積極的参加を期待する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化の関りの中で理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：ガイダンス</td> <td>金谷節子、古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：栄養の基礎</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：生涯発達と食生活</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：子どもの食生活の現状と課題</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：小児期の特徴、身体発育と栄養</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：栄養状態の評価</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：食事摂取基準と献立作成、調理の基本</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：乳児期の栄養</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：幼児期の栄養</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：乳幼児演習</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：乳幼児演習</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：食物アレルギーのある子どもへの対応</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：小児の疾病の特徴と食生活</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：障害をもつ子どもの食生活、児童福祉施設の実際</td> <td>古橋啓子</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：食育基本法と食育の実際、まとめ</td> <td>古橋啓子</td> </tr> </tbody> </table> | ＜授業内容・テーマ等＞ | ＜担当教員名＞ | 第 1 回：ガイダンス | 金谷節子、古橋啓子 | 第 2 回：栄養の基礎 | 古橋啓子 | 第 3 回：生涯発達と食生活 | 古橋啓子 | 第 4 回：子どもの食生活の現状と課題 | 古橋啓子 | 第 5 回：小児期の特徴、身体発育と栄養 | 古橋啓子 | 第 6 回：栄養状態の評価 | 古橋啓子 | 第 7 回：食事摂取基準と献立作成、調理の基本 | 古橋啓子 | 第 8 回：乳児期の栄養 | 古橋啓子 | 第 9 回：幼児期の栄養 | 古橋啓子 | 第 10 回：乳幼児演習 | 古橋啓子 | 第 11 回：乳幼児演習 | 古橋啓子 | 第 12 回：食物アレルギーのある子どもへの対応 | 古橋啓子 | 第 13 回：小児の疾病の特徴と食生活 | 古橋啓子 | 第 14 回：障害をもつ子どもの食生活、児童福祉施設の実際 | 古橋啓子 | 第 15 回：食育基本法と食育の実際、まとめ | 古橋啓子 |
| ＜授業内容・テーマ等＞ | ＜担当教員名＞ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 1 回：ガイダンス | 金谷節子、古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 回：栄養の基礎 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 回：生涯発達と食生活 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 4 回：子どもの食生活の現状と課題 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 5 回：小児期の特徴、身体発育と栄養 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 6 回：栄養状態の評価 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 7 回：食事摂取基準と献立作成、調理の基本 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 8 回：乳児期の栄養 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 9 回：幼児期の栄養 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 10 回：乳幼児演習 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 11 回：乳幼児演習 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 12 回：食物アレルギーのある子どもへの対応 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 13 回：小児の疾病の特徴と食生活 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 14 回：障害をもつ子どもの食生活、児童福祉施設の実際 | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 15 回：食育基本法と食育の実際、まとめ | 古橋啓子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 該当なし |
| 評価方法 | 定期試験 70%、レポート 30% |
| 課題に対する フィード バック | レポートへのコメント・返却等、課題に対するフィードバック |
| 指定図書 | 『新版 子どもの食生活 -栄養・食育・保育- 』上田玲子 編著 ななみ書房 |
| 参考図書 | 『乳幼児の食行動と食支援』 巷野悟郎・向井美恵・今村榮一 監修 医歯薬出版株式会社 『子どもの食と栄養 改訂第2版』 児玉浩子 編集・執筆 中山書店 |
| 事前・ 事後学修 | 配布資料に従って予習・復習や課題を行うこと |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は管理栄養士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 保育の計画と評価 |
| 科目責任者 | 太田 雅子 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 こども 4 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 保育の充実と質の向上に対する役割を担う保育の計画と評価（改善を含む）の意義と実際について学ぶ。保育所保育指針に示される目標と計画について、全体的計画と指導計画の関連性、全体的な計画及び指導計画の作成について理解し作成方法を習得する |
| 到達目標 | 1. 全体的計画の編成について理解する。 2. 指導計画の作成方法について理解する。 3. 教材研究を行い、指導計画（部分）を作成する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：カリキュラム・マネジメントについて</p> <p>第 2 回：「全体的計画」の編成（保育所保育指針）</p> <p>第 3 回： 長期的指導計画・短期的指導計画</p> <p>第 4 回： 指導計画と実践① ねらいと遊び・活動のつながり</p> <p>第 5 回： 指導計画と実践② 乳児保育</p> <p>第 6 回： 指導計画と実践③1 歳以上 3 歳未満児の保育</p> <p>第 7 回： 指導計画と実践③ 3 歳以上児の保育</p> <p>第 8 回：まとめと今後の課題（小テスト）</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 保育指導計画を作成し模擬保育を行う。さらに保育教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。 |
| 評価方法 | 授業態度 20%、課題提出物の評価 40%、小テスト 40% 評価は演習・課題提出物・小テストで評価するが、ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクション・ペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバック や解説を行う。まとめ（授業の振り返り）を行う。 |
| 指定図書 | 平成 29 年改訂版「保育所保育指針解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 |
| 参考図書 | 「授業中に随時連絡」 |
| 事前・ 事後学修 | 教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動（遊び）や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間 40 分】 |
| オフィス アワー | 初回授業にて提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 乳児保育 I |
| 科目責任者 | 細田 章子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 乳児期の子どもの成長は速く個人差も大きいため、同じクラスであっても異なる発達段階の子どもたちに臨機応変に対応しなければならない。この授業では、乳児の発達を理解し、その生活の中で保育者が果たすべき役割を理解する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期の発達と生活に関する基本的事項を説明できる。 2. 乳児期の親子の生活の実態とニーズについて実例を挙げながら説明できる。 3. 乳児保育における保育者の役割を説明し、実践できる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション「乳児保育」とは</p> <p>第 2 回：0 歳児の発達 ①0～3 ヶ月</p> <p>第 3 回：実技・0～3 ヶ月のおむつ交換</p> <p>第 4 回：0 歳児の発達 ②4～6 ヶ月</p> <p>第 5 回：0 歳児の発達 ③7～9 ヶ月</p> <p>第 6 回：0 歳児の発達 ④10～12 ヶ月</p> <p>第 7 回：0 歳児の保育 まとめ</p> <p>第 8 回：手作りおもちゃの製作 ①身近な素材で作る</p> <p>第 9 回：1 歳児の発達 ①13～15 ヶ月</p> <p>第 10 回：1 歳児の発達 ②16～24 ヶ月</p> <p>第 11 回：2 歳児の発達</p> <p>第 12 回：1 歳児・2 歳児の保育 まとめ</p> <p>第 13 回：手作りおもちゃの製作 ②製作計画</p> <p>第 14 回：手作りおもちゃの製作 ③発展と考察</p> <p>第 15 回：まとめ「乳児保育に求められるもの」</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 乳児保育の援助方法に関しては実技を行います。 |
| 評価方法 | 試験50%、レポート50%、計100% |
| 課題に対する フィード バック | 試験については解答例を提示します。 レポートについては、随時コメントの上、返却します。 |
| 指定図書 | 『乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために』 吉本和子著 (エイデル研究所) |
| 参考図書 | 『やさしく学ぶからだの発達』 林万里著 (全国障害者問題研究会) 『子どもの「手づかみ食べ」はなぜ良いのか? (IDP 新書)』 山口平八・清水フサ子著 (IDP 出版) |
| 事前・ 事後学修 | 事前：次回の講義に使用するテキストの該当箇所を示すので読んでください。製作物については指定期日までに仕上げてください。(60分) 事後：復習のため、その日の学修内容を自分なりにノートにまとめておきましょう。(30分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は保育の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 乳児保育Ⅱ |
| 科目責任者 | 細田 章子 |
| 単位数他 | 1単位 (15時間) 選択 こども 2セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 乳児保育では、家庭との連携をとりながら子ども一人ひとりの成長にあわせて環境設定やかかわり方を考え変化させ続けること、かつその営みを保育者間で共有することが求められる。この授業では「乳児保育Ⅰ」での理解を基礎として、実際の保育の中で保育者が持つべき多様な視点に触れ、より具体的な実践方法を学ぶことを目的とする。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育に関する基本的事項を説明できる。 2. 家庭生活と乳児保育との連携について実例を挙げながら説明できる。 3. 乳児保育における保育者の役割を説明し、実践できる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：乳児の一日の生活～家庭と保育所～（細田）</p> <p>第2回：参加観察①一日の流れを知る（細田）</p> <p>第3回：考察①一日の流れの中での保育者の動きについて（細田）</p> <p>第4回：参加観察②環境設定を知る（細田）</p> <p>第5回：考察②一人ひとりに合わせた環境設定について（細田）</p> <p>第6回：実技・沐浴実習（黒野・室加）</p> <p>第7回：身体の育ちの傾向とかかわり方（和久田）</p> <p>第8回：身体の育ちの傾向と環境の工夫（和久田）</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 実際の保育場面に参加観察を行います。 |
| 評価方法 | 試験50%、レポート50%、計100% |
| 課題に対する フィード バック | 試験については解答例を提示します。 レポートについては、随時コメントの上、返却します。 |
| 指定図書 | 『乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために』吉本和子著（エイデル研究所） |
| 参考図書 | 『やさしく学ぶからだの発達』林万里著（全国障害者問題研究会） |
| 事前・ 事後学修 | 事前：次回の講義に使用するテキストの該当箇所を示すので読んできてください。製作物については指定期日までに仕上げてください。（60分） 事後：復習のため、その日の学修内容を自分なりにノートにまとめておきましょう。（30分） |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は保育の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 子どもの健康と安全 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 1単位 (15時間) こども 選択 4セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 保育所保育指針に示される「健康及び安全」を踏まえた保育環境の管理や対策を学ぶ。体調不良や傷害などへの対応、感染症対策、個別的配慮の必要な子どもへの対応方法を学び、保健活動の計画・評価、管理・実施体制、他専門機関との連携・協働について理解を深める。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針に示される子どもの健康および安全に係るねらい・内容について理解する。 2. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。 3. 感染症やアレルギー対策の実際を理解し、方法を身につける。 4. 保育における保健活動計画・評価について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 子どもの健康と保育の環境とは</p> <p>第2回 保育における健康および安全管理の実際① (衛生管理)</p> <p>第3回 保育における健康および安全管理の実際② (事故防止と安全対策・事故発生の現状と予防)</p> <p>第4回 保育における健康および安全管理の実際③ (危機管理・災害への備え)</p> <p>第5回 健康観察と体調不良に対する気づき (ゲストスピーカー)</p> <p>第6回 感染症の対策・アレルギーへの対応 (ゲストスピーカー)</p> <p>第7回 健康および安全の管理の体制 (職員間の連携・協働と実施体制・保育における保健活動の計画および評価)</p> <p>第8回 まとめ・小テスト</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 保健計画の作成、演習（嘔吐処理、エピペンの使用など）を交えて行います。 |
| 評価方法 | 小テスト（50%）、授業態度（20%）、演習実践の振り返り（10%）リアクションペーパー・レポート（20%）、計100% ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | リアクションペーパー・レポートへのコメントをした後、返却します。 |
| 指定図書 | 厚生労働省編『保育所保育指針（解説書付）』 |
| 参考図書 | 授業の中で随時提示いたします。 |
| 事前・ 事後学修 | 【事前学修】実践をする場合は、該当ページを事前に提示します。演習がある回では、事前に資料を読み実践をすることが前提となります。 【事後学修】授業の内容や配布されたプリント・資料の整理をします。 <それぞれの学修時間の目安は約40分です。> |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は、看護師、幼稚園教諭・認定こども園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ |
| 科目責任者 | 柴田 俊一 |
| 単位数他 | 1単位(15時間) 選択 こども 4 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 社会的養護の基本理念や体系など基本的知識をおさえた上で、現場で求められている支援とはどのようなものなのかを、事例検討やグループ討議で学ぶ。また、社会的養護にかかわる専門職として大切なソーシャルワークについて理解する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の社会的養護について理解する。 2. 子どもの権利条約を理解する。 3. 社会的養護の4つの支援（日常生活支援・自立支援・家庭支援・地域支援）の内容を学ぶ。 4. 社会的養護における自立支援計画について学び、子どもの成長や発達を促す支援のあり方を考える。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：今日の社会的養護・社会的養護と子どもの権利</p> <p>第2回：施設養護の現状・家庭養護の現状</p> <p>第3回：自立支援計画とは</p> <p>第4回：社会的養護の4つの機能 ①日常生活支援・自立支援</p> <p>第5回：社会的養護の4つの機能 ②家庭支援・地域支援</p> <p>第6回：社会的養護にかかわる専門職に大切なこと・ソーシャルワークと社会的養護</p> <p>第7回：施設の役割と運営管理の在り方（地域との関わり）・施設の小規模化の流れ</p> <p>第8回：社会的養護の課題とこれから・まとめ</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | マスコミでとりあげられた最近の社会的養護における問題等を提示し、グループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。 |
| 評価方法 | 平常点 (30%) 、定期試験 (70%) (平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する) |
| 課題に対する フィード バック | 毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。 |
| 指定図書 | 「社会的養護内容」谷口純世・山縣文治編著 ミネルヴァ書房 2014 |
| 参考図書 | 参考書については、授業中に紹介する。 |
| 事前・ 事後学修 | 教科書および参考書を事前によく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。 |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は児童相談所心理判定員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 子育て支援 |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 1単位（15時間） 選択 こども 6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 保育士が行う子育て支援について、その状況・ニーズに合わせての内容・方法（技術）や展開の仕方について実践事例等を通して具体的に学ぶ。地域の関係機関との連携・協働、保育所全体の体制作りについて理解を深める。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の専門性を用いての保護者に対する相談・助言（保育相談支援）について理解する。 2. 保育士が行う子育て支援について様々な場や対象に合わせての支援の内容・方法・技術を実践（事例）を通して具体的に理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：子育て支援・保護者支援とは</p> <p>第2回：保護者との相互理解と信頼関係の形成</p> <p>第3回：子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供</p> <p>第4回：ニーズへの気づきと多面的な理解（発達支援を中心に）</p> <p style="padding-left: 40px;">支援の実践（計画・記録・評価）・カンファレンス</p> <p>第5回：保育所・認定こども園における子育て支援とその実際</p> <p>第6回：多様なニーズを抱える子育て家庭（貧困・外国籍の子ども等）に対する支援</p> <p>第7回：子ども虐待防止と対応・要保護児童等の家庭に対する支援</p> <p>第8回：まとめ（小テスト）</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 学生自身が子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けての調査・グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。 |
| 評価方法 | 授業態度（子育て広場への参加・グループ課題の発表）50%　小テスト・レポート50% ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | 各回に記入したリアクションペーパー等を次の授業の中でフィードバックをする。 |
| 指定図書 | その都度プリントを配布する。 |
| 参考図書 | 授業の中で随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | 授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い子育て支援の実践準備をすること。 |
| オフィス アワー | 授業の初回に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は幼稚園、認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 保育実習指導 I | |
| 科目責任者 | 太田雅子 | |
| 単位数他 | 2単位 (60 時間) 選択 こども 4～5 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 | |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 | |
| 科目概要 | 保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的が理解できる。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 | |
| 授業計画 | <p><担当教員名>太田雅子、鈴木光男、細田直哉、二宮貴之</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>【保育実習 I A・事前指導】</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 担当教員全員 授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認</p> <p>第 2 回：実習の 1 日、実習生としての心構え 担当教員全員</p> <p>第 3 回：教材研究と指導計画① (音楽表現) 二宮貴之</p> <p>第 4 回：教材研究と指導計画② (絵画制作) 鈴木光男</p> <p>第 5 回：教材研究③ 太田雅子 絵本、紙芝居の読み聞かせ、年齢に適した絵本の選び方 (ゲストスピーカー)</p> <p>第 6 回：乳児の保育の実際と記録 細田直哉</p> <p>第 7 回：幼児の保育の実際と記録 細田直哉</p> <p>第 8 回：実習オリエンテーションにおける心構え 担当教員全員</p> <p>第 9 回：実習日誌と指導計画のつながり 太田雅子</p> <p>第 10 回：教材研究と指導計画④ 太田雅子 (附属こども園保育教諭)</p> <p>第 11 回：個人情報の管理 担当教員全員 SNS を中心とした扱い</p> <p>第 12 回：実習直前指導、事務連絡 担当教員全員</p> <p>【保育実習 I A・事後指導】</p> <p>第 13 回：実習の振り返り・共有 担当教員全員</p> <p>第 14 回：実習報告会の計画・個人面談 担当教員全員</p> <p>第 15 回：実習報告会の準備・個人面談 担当教員全員</p> <p>第 16 回・第 17 回：2 年生に向けた実習報告会 担当教員全員</p> <p>【保育実習 I B・事前指導】</p> <p>第 18 回：オリエンテーション・授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 担当教員全員</p> <p>第 19 回：施設実習における保育士の役割</p> <p>第 20 回：実習記録の書き方 細田直哉</p> <p>第 21 回・第 22 回：実習先種別について調べる (グループ学習) 担当教員全員</p> | |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| | <p>第23回・第24回：実習先種別についての発表 第25回：実習直前指導 【保育実習I B・事後指導】 第26回：種別ごとでの振り返り（グループワーク） 第27回：実習報告会の計画・個人面談 第28回：実習報告会の準備・個人面談 第29回・第30回：2年生に向けた実習報告会</p> | <p>担当教員全員 担当教員全員 担当教員全員 担当教員全員 担当教員全員</p> |
| アクティブ ラーニング | 遊び・活動の実践や附属こども園の行事に参加をします。 | |
| 評価方法 | 授業への取り組み（10%）、実践【遊び・活動、こども園】による課題レポート（30%） 実習レポート（40%）、実習報告会（20%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックと基準・内容は授業の中で説明を行う。 | |
| 課題に対する フィード バック | 実践によるレポートは教員に加え、講師の方にも助言をいただき、返却をします。 | |
| 指定図書 | 開 仁志 編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』 (株)わかば社 | |
| 事前・ 事後学修 | 【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。 指定図書の『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』で誤字脱字の内容ワークシートを各自で進めていきます。 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。 <それぞれの目安時間は約40分> | |
| オフィス アワー | 初回授業時にお知らせいたします。 | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | |

| | | |
|-----------|---|--|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | |
| 科目責任者 | 太田雅子 | |
| 単位数他 | 1単位（15時間）選択 こども 6セメスター | |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 | |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 | |
| 科目概要 | 保育実習ⅠAを踏まえ、実習の全領域（半日実習もしくは1日実習）にわたる実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的が理解できる。 2. 保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画し、作成をする。 3. 保護者に対する支援、地域子育て支援の内容を理解する。 4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 | |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 太田雅子、鈴木光男、細田直哉、二宮貴之</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>【事前指導】</p> <p>第1回：オリエンテーション 科目担当者全員 保育実習Ⅱの目的・事務手続き</p> <p>第2回：保育の記録（実習日誌の書き方） 細田直哉</p> <p>第3回：保護者への支援・地域子育て支援とは 太田雅子</p> <p>第4回：教材研究と指導計画の作成① 二宮貴之 手遊び・歌・楽器遊び</p> <p>第5回：教材研究と指導計画の作成② 鈴木光男 制作活動など</p> <p>第6回：実習直前指導、事務連絡 科目担当者全員</p> <p>【事後指導】</p> <p>第7回：実習の振り返り 科目担当者全員</p> <p>第8回：実習報告会の計画・準備・個人面談 科目担当者全員</p> | |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 演習科目です。 |
| 評価方法 | プレ実習の記録 (20%)、課題 (10%)、授業への取り組み (20%)、実習レポート (30%)、実習報告会 (20%) ルーブリックを用いて評価を行う。基準や内容については授業の中で説明を行う。 |
| 課題に対する フィード バック | 記録や課題については、添削のうえ返却をします。また、実習報告会では、教員からの講評をします。 |
| 指定図書 | 厚生労働省編 (2008) 『保育所保育指針解説』、 開 仁志 編著 『保育指導案大百科事典』 一藝社 (全ての実習と共用) 長島和代編 『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』 (株)わかば社 |
| 事前・ 事後学修 | 【事前学修】 実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。 【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。<それぞれの目安時間は約 40 分> |
| オフィス アワー | 初回授業時にお知らせいたします。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅲ |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 1単位(15時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | 保育所以外の居住型児童福祉施設、通所型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習ⅠBの経験を基に、さらに施設保育士の職務について理解を深める 2. 領域別における保育の質の違いを理解しながら求められる保育について具体化する 3. 施設への入所理由を理解しながら、関わり方について模索する 4. 他の専門職との連携について理解する |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 太田雅子、坂本道子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 保育実習ⅠAとの違いについて</p> <p>第2回：各配属領域についての調査</p> <p>第3回：各配属領域の保育の実際</p> <p>第4回：職員の職務や連携の重要性について</p> <p>第5回：入所理由を理解と関わり方について</p> <p>第6回：各配属領域と地域との連携について</p> <p>第7回：実習日誌とオリエンテーションについて</p> <p>第8回：実習についてのまとめ</p> <p>第9回：事後指導① 実習報告</p> <p>第10回：事後指導② 自己覚知と実習の振り返り</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習中の体験等を中心としたグループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み（20％）、課題（20％）、レポート（30％）、実習報告会（30％）計100％で評価する。レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対する フィード バック | 毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。 |
| 指定図書 | なし |
| 参考図書 | 参考書については、授業中に紹介する。 |
| 事前・ 事後学修 | これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。 事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。 |
| オフィス アワー | 社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は幼稚園・認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|----------------|---|
| 科目名 | 保育実習 I A |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2 単位 (90 時間) 選択 こども 4 セメスター |
| DP 番号と 科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の 位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | 保育所・認定こども園の機能ならびに保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画、実践する。 |
| 到達目標 | 1. 観察実習および部分実習を中心として、理論と実践の結びつきを通して乳幼児を理解する。 2. 保育所・認定こども園における生活とその概要を理解する 3. 保育士として必要な知識、技能、態度を身につけ、その任務を使命を理解する。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>太田雅子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉、飯田真也、福重浩之</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は保育所・認定こども園にて 90 時間 (10 日間) 以上の配属実習を行う。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務(早版・遅番)を必ず行うこととする。 3. 実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 4. 実習日誌は学校指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 5. 実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。 <p>実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 見学・観察実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) デイリープログラムを知り、乳幼児の 1 日の生活の流れを理解する。 2) 乳幼児の集団活動、個別活動を観察し、人とかかわり方を知る。 3) 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 2. 参加・部分実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 2) 乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 3) 担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。 |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 実習科目です |
| 評価方法 | 実習園からの評価 (40%)、実習日誌・指導計画 (30%)、 学生と教員との面談における振り返り (30%) ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。 |
| 課題に対する フィード バック | 実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。 |
| 指定図書 | なし |
| 参考図書 | なし |
| 事前・ 事後学修 | 【事前学修】各年齢の子どもの発達を理解、実践にあたっての教材研究を行きましょう。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。 |
| オフィス アワー | 授業の初回にお知らせします。 実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 保育実習 I B |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位 (90 時間) 選択 こども 5セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | 保育所・認定こども園以外の居住型児童福祉施設ならびに通所型児童福祉施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとの関わりを通して、子どものニーズを理解しながら関わるができる。 2. 児童福祉施設における生活とその概要を理解する。 3. 保育士として必要な知識、技術、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>太田雅子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉、飯田真也、福重浩之</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>実習内容：詳細は保育実習 I B の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護の一日の流れを理解し、参加する。 2. 子どもの集団活動、個別活動を観察し、養護技術を習得する。 3. 子どもの生活での援助といった一部分を担当し、養護技術を習得する。 4. 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 5. 施設での個別記録、送迎の際の保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。 6. 施設における子どもの安全および健康に対する配慮について理解する。 <p>実習の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育所・認定こども園以外の児童福祉施設等にて 90 時間 (10 日間) 以上の配属実習を行う。 ○実習日誌に一日の記録を作成し、担当保育士からの指導を受ける。 ○実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に行う。 |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習科目です |
| 評価方法 | 実習施設からの評価 (40%)、実習日誌 (30%)、 学生と教員との面談における振り返り (30%) ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。 |
| 課題に対する フィード バック | 実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。 |
| 指定図書 | なし |
| 参考図書 | なし |
| 事前・ 事後学修 | 【事前学修】 実習先の種別、概要、特色等についてグループで調べ、整理をします。 また、調べた内容やオリエンテーションの内容については、実習ノートに 必要箇所の記入をします。 【事後学修】 実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。 |
| オフィス アワー | 授業の初回にお知らせいたします。実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 保育実習Ⅱ |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位(90時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | 保育実習ⅠAでの実習を踏まえ、保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画、実践する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、乳幼児を理解する。 2. 保育士としての職業倫理を理解し、乳幼児に対する最善の利益への配慮を理解する。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>太田雅子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉、飯田真也、福重浩之</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 学生は保育所・認定こども園にて90時間(10日間)以上の配属実習を行う。 5. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務(早版・遅番)を必ず行うこととする。 6. 実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 <p>4. 実習日誌は学校指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。</p> <p>5. 実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。</p> <p>実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の1日の生活の流れを理解し、担当クラスの子どもの関わりを深める。 2) 乳幼児の集団活動、個別活動を観察するなかで、人とかかわり方を知る。 3) 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 2. 参加・部分実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 2) 乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 3) 担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。 3. 責任実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 担当するクラスに即した日案を作成し、主体となって保育を行う。 2) 保育前の準備、保育後の整理等、保育士としての仕事全般の実習をする。 3) 1日もしくは半日実習などを体験し、保育所・認定こども園における保育活動の流れを理解する。 4) 課題を設定し、問題意識をもって実習をする。 |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習科目です |
| 評価方法 | 実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。 |
| 課題に対する フィード バック | 実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。 |
| 指定図書 | なし |
| 参考図書 | なし |
| 事前・ 事後学修 | 【事前学修】各年齢の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行きましょう。また、 指導計画は、子どもの姿を捉え、発達の則した内容を作成しましょう。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。 |
| オフィス アワー | 授業の初回にお知らせします。実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏ま えて教授する科目です |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 保育実習Ⅲ |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2単位(90時間) 選択 こども 6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | 保育実習ⅠBでの実習を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、児童を理解する。 2. 保育士としての職業倫理を理解し、児童に対する最善の利益への配慮を理解しながら関わる。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。 4. 施設が社会にむけてどのような情報を発信し、どのような機能を提供しようとしているのかを理解する |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 太田雅子、坂本道子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の社会的使命を理解する 2. 職員の職務やチームワークを理解する 3. 施設における保育士あるいは他の専門職の専門性を理解する 4. 担当する子どものケーススタディの実践を理解する 5. 地域事業との関連について理解する 6. 各種法令・法規と施設との関係について理解する <p>実習の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所以外の児童福祉施設等にて10日間の配属実習を行う ・実習日誌に1日の記録をし、担当保育士からの指導を受ける ・実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に進行 |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 自ら積極的に実習を行う中で学びを深める。 |
| 評価方法 | 実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）で総合的に評価する。 |
| 課題に対する フィード バック | 実習記録を中心に、実習巡回や帰校日においてフィードバックを行う。 |
| 指定図書 | なし |
| 参考図書 | 参考書については、授業中に紹介する。 |
| 事前・ 事後学修 | これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。 事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。 |
| オフィス アワー | 初回授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 児童・家庭福祉論 |
| 科目責任者 | 村田 哲康 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 3セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本講義は児童家庭福祉の専門的知識を学び、その実践的取り組みがどのようなシステムや仕組みによって具現化されているか概観する。 特に社会的養護の在り方に注目し、今後の展望を明らかにしてみたい。 |
| 到達目標 | 1. 「子どもとは何か」 子ども観を学び考える。 2. 児童家庭福祉の概念について理解する。 3. 社会的養護の概念とその実際について理解する。 4. 児童家庭福祉の専門職と関係機関の働きについて理解する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回：オリエンテーション (授業の目的・授業計画・授業方法等の説明)</p> <p>第 2 回：子ども家庭福祉の理念と重要概念</p> <p>第 3 回：子ども家庭福祉の歴史的展開</p> <p>第 4 回：子ども家庭福祉の法体系と実施体制</p> <p>第 5 回：子ども観の変遷</p> <p>第 6 回：子どもの権利保障</p> <p>第 7 回：社会的養護の基礎概念</p> <p>第 8 回：社会的養護の実際の取り組み</p> <p>第 9 回：子どもの貧困の現状と課題</p> <p>第 10 回：子どもの貧困についての事例検証</p> <p>第 11 回：子ども虐待の現状と課題</p> <p>第 12 回：子ども虐待の対応と予防の事例検証</p> <p>第 13 回：里親制度の概要と動向</p> <p>第 14 回：子ども家庭福祉における専門職と関係機関</p> <p>第 15 回：子ども家庭福祉の今後の課題と展望</p> <p>【備考】 授業時には毎回、最新の社会福祉六法及び社会福祉小辞典を持参し活用して下さい。(現物はどこの出版社のものでもよいので、各自で検討し購入して下さい。)</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 講義内で発問を多くし、主体的に関連科目の復習や理解度の確認を行う |
| 評価方法 | 授業態度（30%）、課題レポート（70%）を勘案し、総合評価する。 |
| 課題に対する フィード バック | リアクションペーパーに対してコメントするなどを通し、学びを共有する。 |
| 指定図書 | 『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規 |
| 参考図書 | 授業中に随時紹介 |
| 事前・ 事後学修 | 事前：関係資料等をよく読んでおくこと。 事後：授業内容の復習を行い、自分の考えをまとめておくこと。 (事前・事後学修で40分) |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に 関する記述 | |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 発問に対する隣同志の意見交換、中間テストを取り入れる |
| 評価方法 | 定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10% |
| 課題に対する フィード バック | 毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。 |
| 指定図書 | 「社会福祉概論Ⅰ 現代社会と福祉」 全社協（社会福祉学習双書 編集委員会編） （社会福祉学概論Ⅰですすでに購入済のもの） |
| 参考図書 | 岩田正美『社会福祉への招待』放送大学教育振興会 大友信勝・永岡正己編著『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む (事前・事後学修 40分) |
| オフィス アワー | 科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | ソーシャルワーク総論Ⅱ |
| 科目責任者 | 坂本 道子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 2 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰと同様に、ジェネラリストとしての相談援助の基盤と専門職について理解させることを目的としている。具体的には、「面接場面」の視覚教材を積み上げ方式で用い、次の3点を理解させる。①相談援助の概念と範囲 ②専門職倫理と倫理的ジレンマ ③総合的かつ包括的援助と他職種連携（チームアプローチ）の意義と内容。これらによって、専門職の役割と機能や専門性を学び、専門家像を形成する。 |
| 到達目標 | 1. 対人援助・社会支援の意義、機能および役割を理解する。 2. 他者を様々な側面から理解できるようになる。 3. 人権尊重および社会正義に関心をもつようになる。 |
| 授業計画 | <p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回：ソーシャルワーク総論Ⅰの振り返りと、本講義の概要</p> <p>第2回：相談援助の概念と範囲 ①——SWにかかる各種の国際定義</p> <p>第3回：相談援助の概念と範囲 ②——SWの理論と動向（前史・誕生・論争・批判・統合）</p> <p>第4回：相談援助の概念と範囲 ③——SWの理論と動向（胎動・GW・CW・日本・欧米）</p> <p>第5回：相談援助の理念 ①——相談援助サービスの視座（価値・知識・技術、専門性、視点）</p> <p>第6回：相談援助の理念 ②——相談援助サービスの視座（ジェネラリスト、利用者主体、権利擁護、エンパワメント、ストロングス、尊厳の保持、社会的包摂、自立支援）</p> <p>第7回：中間テスト、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 ①——ソーシャルワーカーの機能、さまざまな職種等との連携・協働</p> <p>第8回～第12回：総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 ②③④⑤——ジェネラリストとしての社会福祉援助活動の展開過程</p> <p>第13回：相談援助における権利擁護の意義——社会福祉士が捉える権利擁護</p> <p>第14回：専門職倫理と倫理的ジレンマ——社会福祉士の価値と倫理</p> <p>第15回：相談援助にかかる専門職の概念と範囲——契約下における援助のあり方、諸外国の動向</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 授業のなかで教員と双方向のコミュニケーションを行い、主体的に考え、学ぶ態度を涵養する。毎時、授業の終わりにリアクションペーパーを記入し、学びを振り返る。15回終了時に返却された15回分のリアクションペーパーによって、半年の学びを振り返る。 |
| 評価方法 | 授業態度 10%、毎回授業時提出小レポート 20%、中間レポート 30%、定期試験 40% |
| 課題に対する フィード バック | 授業のなかで行う。また最後の授業で15回分の振り返りを行う。 |
| 指定図書 | ソーシャルワーク総論 I から引き続き『ソーシャルワーク』空閑浩人 2015 ミネルヴァ書房を用いる |
| 参考図書 | 宮本節子 2013 『ソーシャルワーカーという仕事』ちくまプリマー新書 木下大生 2015 『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事』岩波ブックレット 赤羽克子 2015 『3 福祉士の仕事ができる本』日本実業出版社 八木亜紀子 2012 『相談援助職の記録の書き方——短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規 |
| 事前・ 事後学修 | 1, 授業中に配布された資料や指定図書を事前・事後に熟読し、授業内容を理解する 2, 生活の中で、授業によって得た知識を、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める (目安時間 40 分) |
| オフィス アワー | 坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | ソーシャルワーク論Ⅰ |
| 科目責任者 | 福田 俊子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 こども 2セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる「援助関係形成の意義と方法」について理解を深めることに主眼をおき、①ソーシャルワークの対象把握と援助モデルを理解すること、②援助関係形成の原則を理解すること、③援助関係形成過程について理解することを目的としている。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 4つの援助モデルについて説明できる。 2. 生活問題を人と環境の視点で捉えようとする。 3. 援助関係の重要性を認識し、自己覚知の必要性を理解する。 4. 事例を通して、バーステックの7原則の重要性について理解する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：講義の概要説明</p> <p>第2回：「人を助けるということ」について映画から考える</p> <p>第3回：人を助けるということ (Unit0)</p> <p>第4回：社会福祉の援助活動の特徴① (Unit1 対人援助の構成要素)</p> <p>第5回：社会福祉の援助活動の特徴② (Unit2 社会福祉援助の対象)</p> <p>第6回：社会福祉の援助活動の特徴③ (Unit3 社会福祉援助の視点)</p> <p>第7回：個人モデル・環境モデル (Unit4)</p> <p>第8回：物語モデル (Unit5)</p> <p>第9回：文化モデル (Unit6)</p> <p>第10回：個別援助の展開過程と援助関係 (Unit7)</p> <p>第11回：物語モデルの展開過程 (Unit7)</p> <p>第12回：援助関係を形成するための原則① (クライアントを個人として捉える・クライアントの感情表現を大切にすること ・受けとめる・援助者は自分の感情を自覚して吟味する)</p> <p>第13回：援助関係を形成するための原則② (クライアントの自己決定を促して尊重する)</p> <p>第14回：援助関係を形成するための原則③ (秘密を保持して信頼感を醸成する)</p> <p>第15回：援助関係を形成するための原則のまとめ</p> <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「覚えること」よりも「考えること」を大切にすること。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。 |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。 |
| 評価方法 | <p>課題レポート 20%、定期試験 60%、授業への取り組み 20%として評価する。</p> <p><小レポートのテーマ・様式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：『社会福祉をつかむ』の第8章を読み、ユニットごとに「学んだこと」「考えたこと」「疑問に思ったこと」をまとめる。 ・字数：2400字程度、パソコン書き、表紙つき <p><授業への取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出等は大幅な減点とする。 |
| 課題に対する フィード バック | ほぼ毎回、積極的にリアクションペーパーへコメントする。 |
| 指定図書 | 稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ【改訂版】』有斐閣 |
| 参考図書 | 授業中に、随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3～11回の授業では、事前に該当する教科書の単元の確認問題に取り組むこと。 ・配布資料を参考にしながら、自分にとってわかりやすい講義ノートを作成すること。 <p>(目安時間 40分)</p> |
| オフィス アワー | 科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | ソーシャルワーク論Ⅱ |
| 科目責任者 | 福田 俊子 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 3セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本科目は、ソーシャルワーク論Ⅰで学んだ「援助関係形成の意義と方法」を基盤とし、ソーシャルワークの理論および実践の実際を学修することに主眼をおき、①ソーシャルワーク理論の歴史を理解すること、②ソーシャルワークの展開過程の実際を理解すること、③初回面接技術の実際を理解することを目的としている。 |
| 到達目標 | 1. ソーシャルワークの展開過程を説明できる。 2. 分析的な思考にもとづいて、他者を様々な側面から理解しようとする。 3. ソーシャルワークの理論・実践史を理解している。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：講義概要・自己紹介</p> <p>第 2 回：初回面接の技術</p> <p>第 3 回：ソーシャルワークの展開過程① (インテーク)</p> <p>第 4 回：ソーシャルワークの展開過程② (アセスメント)</p> <p>第 5 回：ソーシャルワークの展開過程③ (アセスメントツール)</p> <p>第 6 回：ソーシャルワークの展開過程④ (プランニング・介入)</p> <p>第 7 回：ソーシャルワークの展開過程⑤ (モニタリング)</p> <p>第 8 回：ソーシャルワークの展開過程⑥ (終結・評価)</p> <p>第 9 回：ソーシャルワークの歴史① (1890 年代末～1910 年代)</p> <p>第 10 回：ソーシャルワークの歴史② (1920～1940 年代)</p> <p>第 11 回：ソーシャルワークの歴史③ (1950 年以降①)</p> <p>第 12 回：ソーシャルワークの歴史④ (1950 年以降②)</p> <p>第 13 回：ソーシャルワークの歴史⑤ (まとめ)</p> <p>第 14 回：ソーシャルワークの歴史 (小テストの予定)</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験受験で、ソーシャルワークの歴史は必ず出題され、暗記が必要とされる。ただし、単なる暗記ではなく、歴史を自分の専門家としての成長と重ね合わせながら聞いてほしい。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。 |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。 |
| 評価方法 | <p>小テスト 20%、課題レポート 20%、定期試験 50%、授業への取り組み 10%として評価する。</p> <p><小テスト・定期試験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に出題範囲を告知する（過去の社会福祉士国家試験問題を含む）。 ・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。 <p><課題レポート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：映画『あしがらさん』に登場する人物をアセスメントし、支援計画をたてる。 ・様式：A4版用紙、原則としてパソコン書き（図は手書きでも可）、字数 2000 字数以上、表紙不要 <p><授業への取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。 |
| 課題に対する フィード バック | 復習テスト及び小テストを実施し、その場で解答を提示する。 |
| 指定図書 | 社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 渡辺律子『高齢者援助における相談面接の理論と実際』医歯薬出版 |
| 参考図書 | 授業中に、随時提示する。 |
| 事前・ 事後学修 | 次回授業時に実施される復習テストにかかわる内容を復習しておくこと。（目安時間 40 分） |
| オフィス アワー | 科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | |
|------------|---|------------|
| 科目名 | ソーシャルワーク演習Ⅱ | ※こども教育福祉学科 |
| 科目責任者 | 坂本 道子 | |
| 単位数他 | 2単位(30時間) 選択 こども 3 Semester | |
| DP 番号と科目領域 | DP3 専門 | |
| 科目の位置付 | 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。 | |
| 科目概要 | <p>本科目は保育士および社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚生労働省が指定する科目のねらいを反映し、「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的としている。なかでも、ソーシャルワーク演習Ⅰで行った「自己覚知」「基本的なコミュニケーション技術の習得」の学びを土台に、本科目では「基本的な面接技術の習得」および「倫理・価値」について、グループワークや具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を、演習形式により展開する。</p> | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. グループ討議を通して受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 人間の多様性を通して、共生の価値観をもつ。 | |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>坂本道子</p> <p><担当教員></p> <p>第1回：オリエンテーション、グループ分け、グループワークについて</p> <p>第2回：自他の価値①—大切なもの、価値の順位</p> <p>第3回：自他の価値②—価値の対立、ジレンマ</p> <p>第4回：価値観と専門職①—倫理綱領</p> <p>第5回：価値観と専門職②—行動指針</p> <p>第6回：価値観と専門職③—事例検討（利用者のジレンマ）</p> <p>第7回：価値観と専門職④—事例検討（専門職としてのジレンマ）</p> <p>第8回：自他、及び専門職としての価値のまとめ</p> <p>第9回：面接におけるコミュニケーション①—援助者の基本姿勢と原則</p> <p>第10回：面接におけるコミュニケーション②—基本的コミュニケーション</p> <p>第11回：面接におけるコミュニケーション③—基本的応答技法 と活用</p> <p>第12回：面接におけるコミュニケーション④—傾聴と共感、支持、焦点化</p> <p>第13回：面接におけるコミュニケーション⑤—ロールプレイ（日常生活場面）</p> <p>第14回：面接におけるコミュニケーション⑥—ロールプレイ（面接場面）</p> <p>第15回：面接におけるコミュニケーション⑦— まとめ</p> | |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 演習科目であるため、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。 |
| 評価方法 | 授業への取組姿勢 25%、毎回授業時提出小レポート 25%、定期試験レポート 50%（今年度はルーブリックを用いない） |
| 課題に対する フィード バック | 授業中に行う |
| 指定図書 | 授業中に印刷物資料等で提示 |
| 参考図書 | 一番ヶ瀬康子監修・坂本道子・丹野真紀子編著『社会福祉援助技術演習』建帛社 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 フレデリック・G. リーマー他『ソーシャルワークの価値と倫理』中央法規 岩間伸之『対人援助のための相談面接技術——逐語で学ぶ21の技法』中央法規 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：前回行ったことを思い出し、プリント等を事前に読む 事後学修：授業内容を、①事実 ②感想 ③考察 に区分して言語化文字化する。 合わせて40分程度 |
| オフィス アワー | 坂本研究室（2612） 時間は授業で提示する |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 発問に対する隣同志の意見交換、中間テストを取り入れるなどして知識の定着・確認を促す |
| 評価方法 | 定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10% |
| 課題に対する フィード バック | 毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。 |
| 指定図書 | 『地域福祉論 地域福祉の理論と方法』 全社協（「社会福祉学習双書編集委員会」編） |
| 参考図書 | 牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』 有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』 ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論 理論と実践』 法律文化社 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む (事前・事後学修 40分) |
| オフィス アワー | 科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|----------------|--|
| 科目名 | 社会福祉発達史 |
| 科目責任者 | 坂本道子 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター |
| DP 番号と 科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の 位置付 | 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 隔年開講科目なので、2019 年度は開講しない。来年度は西洋社会福祉の歴史、特に人物史に焦点を当て、社会福祉はどのように発達したのかについて考察を深める。テキストによって、イギリスやヨーロッパ諸国、アメリカで活躍した著名な人物の生きざまを通して、近代西洋社会福祉における福祉の展開を学び、自らの福祉への取り組みの原点を考察する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基本的な考えに基づき、近現代社会における諸問題を理解する。 2. 近現代社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明できる。 3. 人物史を学ぶことによって、自らの福祉を学ぶ姿勢を考察する。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 坂本道子</p> <p>第1回：オリエンテーション，人物史研究の視点，近代西洋社会福祉の歴史概要</p> <p>第2回：社会調査から社会保障の動きにかかわった人々</p> <p>第3回：セツルメント運動から生活改良の動きへかかわった人々</p> <p>第4回：子ども問題に寄り添った人々</p> <p>第5回：障がい者問題に寄り添った人々</p> <p>第6回：対人援助の根底思想に関わった人々</p> <p>第7回：宗教と社会福祉</p> <p>第8回：実践の共通点と継承されること</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 人数によっては演習形式で進めることもある。 |
| 評価方法 | 授業態度40%、定期試験レポート60% |
| 課題に対する フィード バック | 授業中に提示する |
| 指定図書 | 室田保夫 2013『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 |
| 参考図書 | シリーズ『福祉に生きる』大空社 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：興味ある人物について調べ、発表する準備をする。また、テキストや資料を熟読することにより、大きな流れと基本知識を理解する 事後学修：再度テキストや資料を熟読することにより、知識を定着させ、学ぶ楽しみを味わう |
| オフィス アワー | 坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | アダプテッド・スポーツ |
| 科目責任者 | 和久田 佳代 |
| 単位数他 | 2単位 (30 時間) 選択 2セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 |
| 科目概要 | スポーツの意義と価値、アダプテッド・スポーツの概念と意義を理解し、障がいや様々な状況にアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かすことができるようになる。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツの意義と価値を理解し、アダプテッド・スポーツとは何か、いかに大切であるかを理解する。 2. 障がいや様々な状況に応じたスポーツ活動や大会、指導者の役割について、理解する。 3. 障がいや様々な状況に応じてアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かせるようになる。 |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：スポーツの意義と価値 学びへの導入 スポーツとは〇〇〇である</p> <p>第 2 回：障がいとは アダプテッド・スポーツとは何か 障がい者福祉施策とのかかわり</p> <p>第 3 回：アダプテッド・スポーツの歴史 パラリンピック以前 パラリンピックの発展</p> <p>第 4 回：人間の権利としてのスポーツ 「失ったものを嘆くな。今あるものを最大限活かせ」</p> <p>第 5 回：身体障がいとスポーツ (1) 身体障がいの理解と支援 車いす利用者 その他の肢体不自由</p> <p>第 6 回：身体障がいとスポーツ (2) 視覚障がい 聴覚障がい</p> <p>第 7 回：身体障がいとスポーツ (実技) 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第 8 回：知的障がいとスポーツ (1) 知的障がいの理解と支援</p> <p>第 9 回：知的障がいとスポーツ (2) 発達障がいの理解と支援</p> <p>第 10 回：知的障がいとスポーツ (実技) 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第 11 回：精神障がいとスポーツ 精神障がいの理解</p> <p>第 12 回：精神障がいとスポーツ (実技) 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第 13 回：国内外における障がい者スポーツ大会 パラリンピック、スペシャルオリンピックス、全国障害者スポーツ大会 他</p> <p>第 14 回：安全管理 スポーツ事故の現状と対策 救急処置</p> <p>第 15 回：指導者の役割、倫理 障がい者スポーツ指導者制度</p> <p><受講者へのメッセージ></p> <p>初級障がい者スポーツ指導員（日本障がい者スポーツ協会公認）の指定科目です。資格取得希望者は、同時に地域実践アクティブラーニング（アダプテッド・スポーツ）を履修することが望ましい。履修希望の学生は、第 1 回目から出席してください。</p> <p>体育館での実技時は、運動着、体育館シューズを用意してください。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 意見交換を多く行い、学び合います。 体育館での実技と連動しながら行います。 |
| 評価方法 | 筆記試験60%、授業及び課題への取組（関心・意欲・態度、Moodleフィードバック）40% |
| 課題に対する フィード バック | Moodle やメールを活用し、フィードバックする。 |
| 指定図書 | 日本障がい者スポーツ協会編「新版 障がい者スポーツ指導教本 初級・中級」ぎょうせい |
| 参考図書 | 矢部京之助編「アダプテッド・スポーツの科学」市村出版 植木章三「イラスト アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社 齊藤まゆみ「教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学」大修館書店 |
| 事前・ 事後学修 | 授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。 毎回、授業後にMoodleにてフィードバックを行う。 授業での学びを実習等に活用する。目安時間40分。 |
| オフィス アワー | 和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「障がい者スポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 国際福祉実習 I・II |
| 科目責任者 | 太田雅子 |
| 単位数他 | 2 単位 (90 時間) 選択 4～8 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP7 専門 |
| 科目の位置付 | 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 国際福祉実習 I～IVは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング） ※ 国際福祉実習 I～IVは、期間を意味する。2 週間の場合は、I のみ履修。4 週間の場合は、I・II を履修。6 週間・8 週間の場合は I～III、I～IV の履修となる。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。 |
| 授業計画 | <p><科目担当者> 太田雅子 川向雅弘 大川井宏明</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） ・本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国 東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） ブラジル希望の家福祉協会（重症心身障害者施設） 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 評価・反省（まとめ） ・実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する |

| | |
|-----------------------|---|
| アクティブ ラーニング | 事前指導・事後指導においてはグループ学修を中心に実施する |
| 評価方法 | 評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対す るフィード バック | 実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う |
| 指定図書 | 資料配布 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学習：実習先の国の文化等調べる 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える |
| オフィス アワー | 科目責任者の研究室は2604です。時間については授業時に提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は、社会福祉士として社会福祉現場の実務経験、保育士・幼稚園教諭として認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | |
|------------|---|------------|
| 科目名 | インターンシップ I | ※こども教育福祉学科 |
| 科目責任者 | 福重浩之 | |
| 単位数他 | 2単位 (90 時間) 選択 こども 3～8 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 | |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 | |
| 科目概要 | 各施設の機能ならびに専門職者の職務や対象となる子どもの生活を理解する。子どもとの関わりの中から、具体的な保育の活動を計画、実践する。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育や幼児教育に必要な知識や技術を、実践を通して身に付けようとする。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。 | |
| 授業計画 | <p><授業内容・テーマ等></p> <p>【事前学習】</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 実習に臨むために必要なこととは</p> <p>第 2 回：実習の 1 日、実習生としての心構え</p> <p>第 3 回：実習記録の書き方、指導計画の書き方</p> <p>第 4 回：各領域（保育所・幼稚園など）に関する事前学習</p> <p>第 5 回：各領域（保育所・幼稚園など）事前学習の発表</p> <p>第 6 回：各自の課題設定による教材研究①</p> <p>第 7 回：各自の課題設定による教材研究②</p> <p>第 8 回：実習中の諸注意</p> <p>【実習（インターンシップ）】</p> <p>○保育所・幼稚園・認定こども園など自分が興味関心のある領域で、10 日間の実習を行う。 ・状況に応じて部分実習や責任実習といった指導計画に基づいた実践を行う。</p> <p>【事後学習】</p> <p>第 9 回：実習の振り返り（学生間での共有）</p> <p>第 10 回：報告会に向けての準備①、個人面接①</p> <p>第 11 回：報告会に向けての準備②、個人面接②</p> <p>第 12 回：実習参加者を対象とした実習報告会①</p> <p>第 13 回：次回参加する学生を対象とした実習報告会②</p> | |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習科目です |
| 評価方法 | <p>【授業への取り組み】 事前学修 (10%)、課題 (30%)、事後学修 (10%)</p> <p>【実習への取り組み】 実習先からの評価 (30%)、実習記録 (10%)、学生の自己評価 (10%) 計 100% 課題や実習先の評価で判断するが、ルーブリックは用いない。</p> |
| 課題に対する フィード バック | 授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。 |
| 指定図書 | なし |
| 参考図書 | なし |
| 事前・ 事後学修 | <p>【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を提示します (40 分)。</p> <p>【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします (40 分)。</p> <p>実習科目です</p> |
| オフィス アワー | 初回に伝達をする。 実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | |
|------------|--|------------|
| 科目名 | インターンシップⅡ | ※こども教育福祉学科 |
| 科目責任者 | 福重浩之 | |
| 単位数他 | 2単位 (90 時間) 選択 こども 3～8セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 | |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 | |
| 科目概要 | 資格実習やインターンシップⅠでの学修を踏まえ、明確となった課題を、事前学習にて実践(教材研究・模擬保育など)を行い、考察をする。自らの課題に基づき、子どもの姿を捉えた上での保育・実践を行う。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育士・幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、子どもに対する最善の利益への配慮を理解する。 | |
| 授業計画 | <p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>【事前学習】</p> <p>第1回：オリエンテーション 実習に臨むために必要なこととは</p> <p>第2回：実習記録・指導計画の書き方</p> <p>第3回：各領域（保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設）に関する事前学習</p> <p>第4回：各領域（保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設）に関する事前学習の発表</p> <p>第5回：自己課題に基づく教材研究①</p> <p>第6回：自己課題に基づく教材研究②</p> <p>第7回：指導計画に基づく模擬保育①</p> <p>第8回：指導計画に基づく模擬保育②</p> <p>第9回：実習中の諸注意</p> <p>実習（インターンシップ）</p> <p>○保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設において、10日間の実習を行う。 ・状況に応じて部分実習や責任実習といった指導計画に基づいた実践を行う。</p> <p>事後学習</p> <p>第10回：実習の振り返り（学生間での共有）</p> <p>第11回：報告会に向けての準備①、個人面接①</p> <p>第12回：報告会に向けての準備②、個人面接②</p> <p>第13回：実習参加者を対象とした実習報告会①</p> <p>第14回：次回参加を希望する学生を対象とした実習報告会②</p> | |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習科目です |
| 評価方法 | <p>【授業への取り組み】 事前学修 (10%)、課題 (30%)、事後学修 (10%)</p> <p>【実習への取り組み】 実習先からの評価 (30%)、実習記録 (10%)、学生の自己評価 (10%) 計 100% 課題や実習先の評価で判断するが、ルーブリックは用いない。</p> |
| 課題に対する フィード バック | 授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。 |
| 指定図書 | なし |
| 参考図書 | なし |
| 事前・ 事後学修 | <p>【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を提示します (40 分)。</p> <p>【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします (40 分)。</p> <p>実習科目です</p> |
| オフィス アワー | 初回に伝達をする。 実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | |
|------------|---|------------|
| 科目名 | 福祉実習 I | ※こども教育福祉学科 |
| 科目責任者 | 坂本 道子 | |
| 単位数他 | 2単位 (90 時間) 選択 こども 3～8セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 | |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 | |
| 科目概要 | <p>自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。</p> <p>福祉実習 I は 10 日間、I・II を履修の場合には 20 日間の実習期間となります。I をすでに履修済の場合は、次の実習は II として履修します。</p> | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。 | |
| 授業計画 | <p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・学内におけるスーパービジョン | |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な悪手部ラーニングの姿勢が求められる。 |
| 評価方法 | 事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20% (レポート含む、今年度はルーブリックを用いない) |
| 課題に対する フィード バック | その都度行う |
| 指定図書 | 資料配布 |
| 参考図書 | 八木亜希子 2012『相談援助職の記録の書き方——短時間で適切な内容を表現するテクニック』 中央法規 |
| 事前・ 事後学修 | 実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。事前学習で学んだことを復習する。 実習後は、体験したことを整理すること。合わせて 40 分程度 |
| オフィス アワー | 研究室 2612, 時間は最初の授業で提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |

| | | |
|------------|---|------------|
| 科目名 | 福祉実習Ⅱ | ※こども教育福祉学科 |
| 科目責任者 | 坂本 道子 | |
| 単位数他 | 2単位 (90 時間) 選択 こども 3～8セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 | |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 | |
| 科目概要 | <p>自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。</p> <p>福祉実習Ⅰは10日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には20日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。</p> | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。 | |
| 授業計画 | <p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> ・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・学内におけるスーパービジョン | |

| | |
|-----------------------|--|
| アクティブ ラーニング | 実習なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な悪手部ラーニングの姿勢が求められる。 |
| 評価方法 | 事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20% (含むレポート。今年度はルーブリックを用いない) |
| 課題に対する フィード バック | その都度行う |
| 指定図書 | 資料配布 |
| 参考図書 | 八木亜紀子 2012 『援助技術の記録の書き方——短時間で適切な内容を表現するテクニック』 中央法規 |
| 事前・ 事後学修 | 実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。事前学習で学んだことを復習する。 実習後は、体験したことを整理する。合わせて 40 分程度 |
| オフィス アワー | 研究室 2612, 時間は最初の授業で提示します。 |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 |